

令和6年度 岐阜大学Topics



— 目 次 —

【教育】

・ 令和6年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙行		2
・ 岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC) 第88回医学教育セミナーと ワークショップを開催		4
・ 第15回教養講演会(NHK大学セミナー)を開催		5
・ 令和6年度宇宙工学講座開講式を開催		7
・ 教育推進・学生支援機構の清島絵利子准教授が第1回教育グッドプラ クティス機構長特別表彰を受賞		8
・ 岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催		10
・ 令和6年度秋季岐阜大学流域水環境リーダー育成プログラム修了証書 授与式を挙行		11
・ 第89回医学教育セミナーとワークショップを開催		12
・ 「ISO14001内部環境監査員養成研修」修了証書授与式を挙行		13
・ 「茂木健一郎先生と考える脳とAIのアライメント」を開催		14
・ 高大連携実衛星プログラム「ぎふハイスクールサット(GHS)」のフライト モデルの引き渡し完了		15
・ 第90回医学教育セミナーとワークショップを開催		17
・ 令和6年度岐阜大学シンポジウム「ポジティブな学校文化をつくるエビデ ンスの活用」を開催		19
・ 「地域医療セミナーin下呂」を開催		21
・ 岐阜大学教育学部と三重大学教育学部が連携・協力に関する協定を締結		22
・ 令和6年度学位記授与式を執行		23

— 目 次 —

【研究】

・ 環境社会共生体研究センターを開所		26
・ 応用生物科学部 宮脇 慎吾 准教授が科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞		27
・ 地震後の地下岩盤亀裂の急速シーリングに成功！（世界初） ～化石ができる仕組み応用、放射性廃棄物やCO ₂ の地下貯留も可能に～		28
・ 糖鎖伸長のブレーキ役を発見 ～糖鎖伸長の制御による血中タンパク質の寿命の調節～		29
・ 健康的な生活習慣がワクチン接種後の有害事象を減らす ～朝食摂取と十分な睡眠確保の重要性～		30
・ Glyco-core Symposium 2024を開催		31
・ 3種類の金属が並んだ常磁性一次元化合物の合成に成功 ～長い距離でも、強い磁氣的相互作用を示す～		33
・ 国際クラブから再生可能エネルギーに関する研究教育助成を受領		34
・ 糖鎖の生合成を糖鎖自身が制御する仕組みを発見		35
・ 産学連携フェア2024を開催		36
・ 日本学術会議中部地区会議学術講演会「性はどうやって決まる？」を開催		37
・ ウスバシロチョウの中国大陸からの伝播ルートと日本国内の地域性を 高解像度な集団遺伝解析によって解明		39
・ 第2回アカデミックサミットを開催		40
・ 抗転移薬の開発—短鎖合成RNAは新しいタイプのがん転移抑制剤となり うる		41
・ 狂犬病ウイルスの弱点を発見：RNA合成酵素の新規機能部位を発見 未だ存在しない狂犬病治療薬開発への足がかりに		42

— 目 次 —

【国際化】

・ 「郡上踊りワークショップ(日本文化ワークショップ)」を開催		44
・ ティムラズ・レジャバ駐日ジョージア特命全権大使が本学を訪問		45
・ 「留学生と日本人学生のための能楽(能・狂言)ワークショップ」を開催		46
・ 東ティモール国立大学工学部教官が吉田学長を表敬訪問		47
・ モロッコのラバト国際大学と大学間学術交流協定を締結		48
・ シーナカリンウィロート大学学長等が本学を訪問		49
・ GU-GLOCALシンポジウム「世界に翼を広げたら」を開催		50
・ 2024年度日本語・日本文化研修留学生の修了論文発表会を開催		52
・ 駐日東ティモール特命全権大使が本学を訪問		54
・ インド工科大学の研究者2名によるセミナーを開催		55
・ 駐日リトアニア大使特別講演会を開催		56
・ モンゴル生命科学大学学長らが本学を訪問		57
・ スブラス・マレット大学と共催で気候変動に関する国際会議を開催		58
・ 名古屋米国領事館首席領事が本学を訪問		60
・ 臨沂大学党委員会書記らが本学を訪問		61
・ 岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2024を開催		62
・ 「十二単の着装と体験ー日本の民族衣装ー」を開催		63
・ ジョイント・ディグリープログラム ウィンタースクールの閉校式を挙行		64
・ シビ・ジョージ駐日インド共和国大使が岐阜大学を訪問		65
・ 第2回C ² -FRONTS国際連携推進連絡会を開催		66
・ ヴィータウタス・マグヌス大学アジア研究センター長らが本学を訪問		67

— 目 次 —

【社会貢献】

・ 恵那市と連携に関する協定を締結		70
・ 清流の国ぎふ防災・減災センターがグランプリ・レジリエンスジャパン推進協 議会賞を受賞		71
・ 八百津町で次世代地域リーダー育成プログラムの学生が料理体験イベント を開催		72
・ 大藪千穂副学長(教育学部教授)が消費者支援功労者表彰「内閣府特命 担当大臣表彰」を受賞		73
・ 東白川村と連携に関する協定を締結		74
・ ぎふフューチャーセンター(岐阜県子育て支援課との共同開催)を実施		75
・ 七宗町と連携に関する協定を締結		77
・ 大藪副学長が藤井美濃加茂市長と懇談		79
・ 「サマースクール2024 in各務原」成果発表会を開催		80
・ 岐阜北高校で探求人ガイダンス「環境報告書を読んでもみよう」を実施		82
・ 岐阜県地域学校協働活動フォーラム2024を実施		83
・ 富加町と連携に関する協定を締結		85
・ FC岐阜「パートナー企業展」に岐阜大学ブースを出展		86
・ 可児市と連携に関する協定を締結		87
・ アピ株式会社への紺綬褒章伝達式を執行		88
・ 文化的処方プログラムシンポジウムに参加		89
・ 笠松町「リバーサイドカーニバル2024」にて岐阜大学紹介ブースを出展		90
・ 留学生と企業をつなぐ「愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワー クショップ」を開催		91
・ 第9回岐阜大学地域協学センターCOC+事業外部評価専門委員会を開催		92
・ 熊本市教育委員会がぎふ地域学校協働活動センターを視察		93
・ 安八町「安八ふれあい祭り2024」にて岐阜大学紹介ブースを出展		94
・ 輪之内町と共催で「ぎふフューチャーセンター」を開催		95
・ 「OKB地域応援私募債(拍手喝債)～地域貢献型～」寄付金贈呈式を挙行		96
・ 大垣共立銀行と「遺言を活用した遺贈寄付に関する協定」を締結		97

— 目 次 —

【社会貢献】

・ 岐阜大学公開講座「『SDGs × 地(知)の拠点』～人がつながる地域づくりと大学～」を開催		99
・ 令和6年度第2回地域学校協働活動推進員等フォローアップ研修を実施		101
・ 中部経済産業局および大垣共立銀行と「地域のオープンイノベーションの促進に関する連携協定」を締結		102
・ 産学金官連携人材育成・定着プロジェクト「成果発表会」を開催		104
・ 岐阜市との連携推進会議を開催		106
・ 第2回SPARC-GIFUシンポジウムを開催		107

【大学病院】

・ 当院の医師がベストドクターズに選出		110
・ 岐阜大学医学部附属病院に「県脳卒中・心臓病等総合支援センター」を開設		111
・ 「健康ハートの日2024 in GIFU」をじゅうろくプラザで開催		112
・ 「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展を開催		113
・ 令和6年度「患者紹介・受入医療機関への感謝状」を贈呈		114
・ 古家琢也教授がロボット外科学会のRobo-Doc Pilot 国際A級を取得		115
・ クリスマスイルミネーション点灯式を開催		116
・ 令和6年度看護師特定行為研修修了式を執行		117

～ 学生活動等 ～

・ 「Tongaliビジネスプランコンテスト2024」で2つの学生チームが入賞		119
・ 飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！「東海クライマックスシリーズ2024」を開催		121
・ 岐阜大学フォーミュラレーシングチームが「学生フォーミュラ日本大会2024」で総合5位を獲得		123
・ AIアイデア作品を制作した学生がAIスペシャリストの認定資格を取得		124

— 目 次 —

～ 学生活動等 ～

・ 学生ボランティア団体「ゆにいんくる」が「医療的ケア児者を応援する市区町村長ネットワーク」から受賞		125
・ 「Tongaliアイデアピッチコンテスト2024」で2つの学生チームが入賞		127
・ 土木デザイン設計競技イベント「景観開花。」において学生グループが優秀賞を受賞		129
・ 「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を開催		131
・ 本学学生チームがVR作品制作大会「IVRC2024」で総合優勝		132
・ 岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施		134
・ 学生が企画・運営する企業展「業界研究セミナー」を開催		135
・ 岐阜大学基金「バロー・Vドラッグ海外研修奨学金 助成事業」派遣学生(2名)による報告会を開催		136

～ その他 ～

・ 創立75周年記念日行事を開催		138
・ 本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんがパリオリンピックの日本代表選手に内定		140
・ 森 秀樹 第11代岐阜大学長・名誉教授が『ボクの歩む道』を出版		142
・ 令和7年4月に大学院「社会システム経営学院」(修士課程)を新たに設置		143
・ パリオリンピックで5位入賞した赤松諒一さん(本学教育学研究科修了)が 吉田学長を訪問		144
・ 第2回 岐阜大学ホームカミングデイ2024を開催		146
・ 第3回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を開催		149
・ ISO14001の認証登録を更新		150
・ 大藪副学長が第75回岐阜新聞大賞を受賞		151
・ 岐阜大学発認定ベンチャー企業、ファイバークレーズ株式会社の製品がParis Fashion Week Fall-Winter 2025に採用		152
・ 赤松諒一選手(本学教育学研究科修了)とスポンサー契約を締結		153
・ 絵画「檸檬の木」寄贈に伴う除幕式を開催		154

— 目 次 —

～ 国立大学法人東海国立大学機構 ～

・ 三菱UFJ銀行からの寄附に基づき、新たなスタートアップ支援事業を展開	158
・ 「東海国立大学機構プラットフォーム(仮称)」を「Common Nexus」に名称決定 & 2025年春開業予定	160
・ 第2回東海地域・国立大学連携プラットフォーム(C-FRONT)学長懇談会を開催	161
・ Tokai Open Innovation Complex完成記念式典を開催	162
・ 第2回カーボンニュートラル共創シンポジウムを開催	163
・ 令和5事業年度財務諸表を公表	165
・ 東海国立大学機構 環境報告書2024を公表	166
・ ベンチャーキャピタル事業の会社を設立	167
・ 運営方針会議を設置	168
・ 東海国立大学機構経営協議会委員を対象とした岐阜大学学内視察を実施	169
・ 東海国立大学機構が信用格付を更新	171
・ 量子拠点設立式典を開催	172
・ 東海国立大学機構の孫会社が1号ファンドを設立し、ファーストクローズ	173
・ 東海国立大学機構と日本全薬工業株式会社が包括的な産学連携協定を締結	174
・ 東海国立大学機構 統合報告書2024を発行	176
・ 東海国立大学機構と富士通(株)がJAXAと「説明可能なAI 技術を活用した月・火星探査に向けた太陽放射線事前予測技術の開発」に関する共同研究を開始	177
・ 東海国立大学機構、文部科学省と岐阜県、東濃地域との政策懇談会に出席	178
・ 愛知県医療療育総合センターと連携・協力の推進に関する協定を締結	179
・ 名古屋大学・岐阜大学糖鎖生命コア研究所が東北大学東北メディカル・メガバンク機構と覚書を締結	180
・ 国立大学法人で初めて、資金運用におけるOCIOを導入	181

教育



- ・ 令和6年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙行
- ・ 岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC) 第88回医学教育セミナーとワークショップを開催
- ・ 第15回教養講演会（NHK大学セミナー）を開催
- ・ 令和6年度宇宙工学講座開講式を開催
- ・ 教育推進・学生支援機構の清島絵利子准教授が第1回教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞
- ・ 岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催
- ・ 令和6年度秋季岐阜大学流域水環境リーダー育成プログラム修了証書授与式を挙行
- ・ 第89回医学教育セミナーとワークショップを開催
- ・ 「ISO14001内部環境監査員養成研修」修了証書授与式を挙行
- ・ 「茂木健一郎先生と考える脳とAIのアライメント」を開催
- ・ 高大連携実衛星プログラム「ぎふハイスクールサット（GHS）」のフライトモデルの引き渡し完了
- ・ 第90回医学教育セミナーとワークショップを開催
- ・ 令和6年度岐阜大学シンポジウム「ポジティブな学校文化をつくるエビデンスの活用」を開催
- ・ 「地域医療セミナーin下呂」を開催
- ・ 岐阜大学教育学部と三重大学教育学部が連携・協力に関する協定を締結
- ・ 令和6年度学位記授与式を執行

令和6年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙行

【概要】

本学は、令和6年4月7日（日）に、長良川国際会議場にて令和6年度入学式を挙行了しました。今年度は、学部学生1,327名、大学院学生668名が本学へ入学し、新たな一歩を踏み出しました。

式典では、入学生に向けて吉田和弘学長が紹介した「福沢諭吉先生の「異端と先導」という言葉は、その時代では一見「異端」と思えることこそが、次の時代を先導することができるという教えです。自身の専門である消化器外科領域でも、今では腹腔鏡手術やロボット支援手術が主流になっていますが、これらは福沢先生が100年以上前に予見していたものです。入学生のみなさんも現代の「異端児」となって、次の時代の「先導者」として育ってください」と告辞を述べました。

入学生代表宣誓では、学部学生を代表して地域科学部の 安西心桜さんが「私たちは岐阜大学の学生として、その本文である学業や研究に専念し、輝かしい未来に向かって、日々努力することを誓います」と宣誓しました。

また、式典後には、学部学生を歓迎するウェルカムセレモニーを初めて開催しました。本学卒業生であり、元パイロットインキ株式会社社長の 中筋憲一氏が講演を行い、「研究や開発においてはひらめきや感性が伴って新しいものを生み出すことができます。学生時代から物事を簡単に諦めずにやり抜く気概が何より大切に思います」と応援メッセージを送りました。その後、学生団体による活動紹介を行い、盛況のうちにセレモニーを終えました。

岐阜大学は、入学生の新たなスタートを祝福するとともに、学生たちが活躍する未来へ向けて精一杯その支援をしてまいります。



入学式の様子

令和6年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙



告辞を述べる吉田学長



学部学生を代表して宣誓する地域科学部の安西さん



ウェルカムセレモニーで講演を行う中筋氏



学生団体による活動紹介の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/4/8	中日	「未来へ日々努力」誓う 岐阜大入学式 新入生、新たな一歩 ～吉田和弘 学長、新入生代表 地域科学部 安在心桜さん～
2024/4/8	岐阜	学業や研究「日々努力」 岐阜大・大学院が入学式 ～吉田和弘 学長、新入生代表 地域科学部 安在心桜さん～

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC) 第88回医学教育セミナーとワークショップを開催

【概要】

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は、5月22日(水)～24日(金)の3日間にわたり、第88回医学教育セミナーとワークショップを開催しました。また、第25回国公私立大学医学部・歯学部教務事務職員研修とあわせて開催し、延べ185名が参加しました。

今回は4つのワークショップとウェビナーを実施しました。ワークショップの一つ「学生の社会情動的スキルを育むアプローチを考える」は、4年ぶりに岐阜大学にて対面開催し、非認知能力とその教育に関する話題について、全国医療機関のさまざまな医療職で卒前卒後教育に関わる方々と議論する機会となりました。はじめに、非認知能力の基本的な捉え方に関して講義があり、非認知能力の定義、よく利用されるフレームワーク、発達段階との関係性について共有し意見交換を行いました。また、ワールドカフェ方式で、非認知能力に大きく影響を受けているような困った学習者や教育者事例を扱うテーブルを設け、活発な議論が行われました。その後、今後の医療者教育の中で実践できそうな工夫について共有し、発表を行いました。参加者からは「ワールドカフェならではの多彩な工夫やコツを共有することができ有意義だった」と好評を博しました。

また、ワークショップ「学習ポートフォリオ評価：基本と現状」では、国公私立大学医学部・歯学部教務事務職員研修の共同企画として実施しました。岡山大学病院の猪田宏美先生と東京医科大学の油川ひとみ先生がポートフォリオの実践例について紹介しました。教員と事務職員が共通のテーマでディスカッションする貴重な機会となりました。

さらに、Webinar企画として「非認知能力から見た医療系教育への示唆」を実施しました。早稲田大学の小塩真司先生を講師に迎え、近年注目を集めている「非認知能力」をテーマとし、感情制御や好奇心、動機づけなど広く非認知能力に関連する心の働きについて理解を深め、教育活動の中で何らかの形で活かしていくためのヒントについて議論しました。特に医学部は認知能力を重要視してきた背景を踏まえ、非認知能力が医療者教育に導入されることは、大きなインパクトを与える可能性があることを示唆しました。今後一層の非認知能力を育む教育実践が開発・研究されることが期待されます。



早稲田大学小塩真司教授による
オンラインウェビナーの様子



ウェビナーでのディスカッションの様子
早稲田大学小塩真司教授(上)、
MEDCセンター長 西城卓也教授(中)、
MEDC 川上ちひろ准教授(下)

第15回教養講演会（NHK大学セミナー）を開催

【概要】

令和6年6月24日（月）に、岐阜大学教育推進・学生支援機構基盤教育センターとNHK岐阜放送局の共催により、第15回教養講演会を開催しました。今回の教養講演会は、2003年度からNHK（日本放送協会）が実施している、番組制作者や出演者を各大学に講師として派遣し、講演を行う「NHK大学セミナー」の一環として催されました。対面・オンラインの併用で行われた今回の講演会には、学生・教職員ら167名が参加しました。

開催にあたっては、NHK岐阜放送局の全面的な協力のもと、NHKエンタープライズ（NEP）エグゼクティブ・プロデューサー堅達京子氏をお迎えし、「持続可能な社会を目指すには－将来のエネルギー供給体制、世界規模の環境問題・気候変動について考える－」というテーマで講演が行われました。

堅達氏は、NHK在籍時から長年環境問題に取り組み、気候変動問題を中心とした多くのテーマ番組を制作されてきたプロデューサーです。講演では、近年プロデュースされたNHKスペシャル「2030 未来への分岐点」、NHK・民放6局連動の環境特番「1.5℃の約束 いますぐ動こう、気温上昇を止めるために」などを踏まえ、世界規模で発生している温暖化の現状、またそれによって引き起こされる危機について話されました。

近年、地球全体の平均気温の上昇により、海面上昇や大雨による洪水などが発生し、他方で別の地域では干ばつが起こるなど、地球環境の大きな変動が起こっています。今後、仮に平均気温が2.0℃以上上昇した場合の試算では、こうした事象がより大規模に、より頻繁に起こるだろうとされています。しかし、これを1.5℃に抑えることで、この変動を最低限にとどめることが可能になります。また、気候変動については後戻りすることができない転換点(Tipping Point)が存在し、一度この分岐点を超えてしまえばもはや地球はそれ以前の状態に回帰することができません。現在、この気候変動はそのラインに迫っており、堅達氏は、この10年に行う私たちの選択や対策が、今後数千年の地球環境、ひいては人類の幸福に影響するということを、強く訴えられました。そして、こうした危機的な状況の回避には、私たちの一人一人が自分自身に何ができるかを考え、実行し、さらに呼びかけていくことが重要である、という認識も示されました。

また、堅達氏は、地球の温暖化が驚異的な速さで進んでいるということを映像や図などを用いて学生にもわかりやすく解説しました。そのインパクトは非常に大きく、学生はもちろん、一般参加者や教職員にとっても、今後自分たちがどう行動していくべきか、次世代へどのように繋げていくかを深く考える機会となりました。

講演後の学生からの意見や感想には、「環境問題はなんとなく聞いてはいたがこれほどまでに危機的な状況であるという認識がなく、今後の我々自身が行動していかなければならないということがよく分かった」、「先進国が化石燃料の恩恵を受け、途上国は貧しくその恩恵を受けていないにもかかわらず水面上昇や異常気象による大洪水などで多くの犠牲をこうむっているなどの公平性が大きな問題である。日本も先進国として責任を果たさなければいけない」、「私たちのような若い世代でも諦めないで訴え続け、まずは行動することが大事だと思った」といった内容があり、堅達氏の講演内容がしっかりと学生に伝わっていました。

第15回教養講演会（NHK大学セミナー）を開催

【概要】

今回、講師としてお招きした堅達氏の知識の深さ・経験の広さに裏打ちされたお話をうかがうことができ、また多くの未来ある学生に地球規模の問題について真摯に考えてもらう機会となり、たいへん有意義な講演会となりました。今後も岐阜大学は、こうした講演会などを通じて、学生や地域社会の皆様と共に地球環境の保全と持続可能な社会の構築に向けた取り組みを進めてまいります。

また、講演会に先立ち、学長室にて堅達氏との懇談が行われました。懇談では、地球環境問題の現状と岐阜大学が取り組むべき課題について意見交換がなされました。堅達氏からは、最新の気候変動対策の動向や、教育機関が果たすべき役割についての貴重な示唆をいただき、今後の連携と協力の可能性についても話し合われました。



講演される堅達氏



学長室での懇談の様子



記念写真（左から）

益子副学長、瀬瀬教授、堅達氏、吉田学長、
日高NHK岐阜放送局経営管理企画センター専任部長



講演会の様子



質疑応答の様子

令和6年度宇宙工学講座開講式を開催

【概要】

本学地域協学センターと高等研究院航空宇宙生産技術開発センターは、6月23日（日）に令和6年度宇宙工学講座開講式を岐阜かかみがはら航空宇宙博物館で開催しました。本講座は宇宙工学に関する基礎知識を習得し、今後の人工衛星・ロケット・航空産業で活躍する人材育成を、学校を超えた仲間で行う事を目的に開催したもので、岐阜県内の高校生及び高専生らが出席しました（受講者数：18校86名）。

宇宙工学講座は、ぎふ宇宙研究会の活動として、また岐阜大学の高大連携事業の一環として、各務原市、岐阜県教育委員会、公益財団法人岐阜かかみがはら航空宇宙博物館、独立行政法人国立高等専門学校機構 岐阜工業高等専門学校、一般社団法人岐阜県工業会、中日本航空専門学校、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）、Planet Science（France）の共催・後援・協力の下、実施しています。受講生は、岐阜大学教員、JAXA等の講師による最先端の宇宙工学に関する教育をオンラインで受講することができ、10月にはJAXA見学ツアーも予定されています。

開講式では吉田和弘学長からの挨拶にはじまり、関係機関からのビデオメッセージの放映、宇宙甲子園缶サット部門の全国大会報告、ぎふハイスクールサットの活動報告などが行われました。また、JAXA 宇宙科学研究所（ISAS）の川勝康弘教授より「火星衛星探査計画MMX：世界初の火星衛星サンプルリターン」という題目で講演していただき、参加した生徒からは最新の宇宙探査について知ることができ、宇宙工学に対する興味が高まりましたといった声も聞かれ、好評を博しました。

今後、本講座では、12月21日（土）の開講式までに全9回の講義が予定されています。



缶サット甲子園／ぎふハイスクールサット活動報告



JAXA川勝康弘教授による特別講演



記念写真

教育推進・学生支援機構の清島絵利子准教授が 第1回教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞

【概要】

岐阜大学教育推進・学生支援機構の清島絵利子准教授が第1回教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞しました。

この制度は、東海国立大学機構に所属する教員の教育に対するモチベーションを高め、授業の質向上を目指すため令和5年度に創設されました。令和6年7月24日（水）には、第1回教育グッドプラクティス機構長特別表彰式が行われ、模範となる特に優れた効果又は成果があったと認められた授業として、岐阜大学より1科目（全学共通教育科目「社会人リテラシー科目 日本語表現Ⅰ（初級）」）、名古屋大学より2科目が表彰されました。

表彰式場で松尾機構長は、「学ぶことの大切さや面白さを教えてくれる教員に出会うことは、学生にとって一生の宝物になります。今後もさらに研鑽を積み、より良い人材の輩出に繋がってください」と述べました。

8月1日（木）には、清島准教授が吉田学長へ受賞報告を行いました。清島准教授から「本授業は約1,300名の学生がオンデマンドで受講する必修科目です。学生が適切な日本語を使い、レポートや論文、プレゼン資料を作成する力を養うとともに、相手に配慮したコミュニケーション能力を身につけることを目的に開講しています。表彰では、記述式課題の成績評価において、学生同士の相互評価法を用いている点などが高く評価されました。この手法による採点結果と教員が採点した結果の相関は非常に高く、有効な採点法として証明されています」と説明がありました。さらに「今回、この栄誉ある賞を受賞できたのは、私ひとりの力ではなく、これまでに指導して下さった前副学長の山田敏弘教授をはじめ、レポート採点法のシステムを構築された工学部の横田康成教授と、日々支えて下さった皆様のお陰と実感しております。今後もより一層教養教育の発展に邁進して参ります」と抱負を語りました。

吉田学長は「この授業は本学の宝となる科目です。学生が相互評価で他の学生の文章を採点することは、今後の文章作成において非常に勉強になります。今後も、教員皆さんの模範となり頑張ってください」とお祝いの言葉を述べました。

本学は引き続き、学び、究め、貢献する人材の輩出を目指して、教養教育の質保証と専門教育の基盤確立に努めていきます。



松尾機構長から表彰される清島准教授



左から杉山副学長、清島准教授、松尾機構長、
藤巻教育基盤統括本部長

～教育に関連する取組～

教育推進・学生支援機構の清島絵利子准教授が
第1回教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞



吉田学長への受賞報告の様子



左から杉山副学長、清島准教授、吉田学長、益子副学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/7/27	中日	名大などの3科目 質高い授業で表彰 東海国立大学機構 ～教育推進・学生支援機構 清島絵利子 准教授の日本語表現に関する授業～
2024/8/15	中日	質の高い授業で表彰 岐阜大などの3科目 東海国立大学機構 ～教育推進・学生支援機構 清島絵利子 准教授～

岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催

【概要】

令和6年8月6日（火）、岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催しました。この懇談会は平成18年度から毎年行われており、岐阜県内高等学校と本学の現状と課題について意見交換を行い、相互理解を深めることを目的としています。

今年度は、岐阜県高等学校長協会（以下、「校長協会」という。）の小野会長（県立大垣北高等学校校長）はじめ、18名の校長をお迎えし、本学からは、吉田学長、益子副学長、杉山副学長はじめ、17名の役員・教職員が参加しました。

懇談会では、始めに吉田学長から「東海国立大学機構と岐阜大学の現状と方針」について説明がありました。次に、校長協会の小野会長から「高大連携を踏まえての現状と課題」をテーマに、高等学校の現状と諸課題、そして今後の地域と大学との連携について説明がありました。また、高大連携教育として本学で開設している航空宇宙人材育成講座「宇宙工学講座」を高校時代に受講した本学学生が、講座から学んだことや現在大学で学んでいる内容について報告を行いました。懇談会全体を通じて、校長協会からは、教育現場の現状を踏まえた高大連携や入試改革など本学への期待をはじめ多くの意見・要望が示されました。

懇談会終了後には、岐阜県高等学校長代表者を対象に「OKB 岐阜大学プラザ」の施設見学、概要説明を行いました。また、大学公認サークルの「起業部（ビジネスアイデア創出団体）」による活動報告があり、学生による地域活動の現状や今後の活動計画について質疑を交えながら意見交換が行われ、有意義な機会となりました。

今後も岐阜大学は、県下の高等学校と活発な意見交換を行い、相互理解を深めることで、さらなる連携取組の強化に向けた活動を展開していきます。



吉田学長による説明



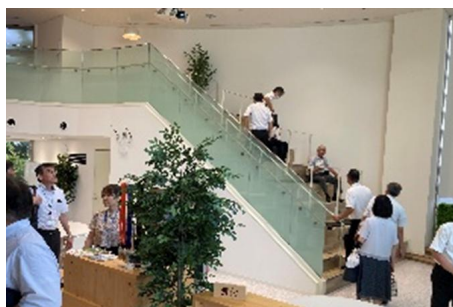
小野会長による説明



本学学生による報告



施設見学（OKB 岐阜大学プラザ）



施設見学（OKB 岐阜大学プラザ）

令和6年度秋季岐阜大学流域水環境リーダー育成 プログラム修了証書授与式を挙行

【概要】

9月13日（金）、学長室において令和6年度秋季岐阜大学流域水環境リーダー育成プログラム修了証書授与式を行いました。今年度は、連合農学研究科博士課程に在籍するインドネシア出身の SHIAMITA KUSUMA DEWIさんがプログラムを修了しました。

このプログラムは、アジア・アフリカ諸国が直面する水質・水資源・生態などの流域水環境に関わる様々な問題を多角的な視野で的確に理解し、戦略的な解決策と発生防止策を設計・施行する環境リーダーを育成することを目的としています。平成21年度にプログラムをスタートして以来、本年度を含め249名の修了生を輩出しており、修了生たちはアジア各国で環境リーダーとして活躍しています。

授与式は、吉田学長、プログラム統括委員会委員である小山グローバル推進機構長、李プログラム推進室長、プログラム推進室教員ら出席のもと、修了証書を授与しました。その後の懇談において、SHIAMITAさんは「母国に帰り、大学の教員となって頑張ります。研究は母国に帰ってからも続けていきます」と今後の抱負を語りました。吉田学長は「これからも研究を続けて、岐阜大学とのつながりを大切にし、岐阜大学に優秀な学生を送り出してください」と激励しました。

岐阜大学は今後も国際社会に貢献できる優秀な人材を育て、持続可能な地球環境の実現に向けた取り組みを推進していきます。



懇談の様子



記念撮影

第89回医学教育セミナーとワークショップを開催

【概要】

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は、10月26日(土)に第89回医学教育セミナーとワークショップを愛知医科大学と共同開催し8つのワークショップとセミナーを実施し、講師を含む延べ125名が参加しました。

セミナー「医学部におけるアントレプレナーシップ教育」では、スタンフォード大学の池野文昭先生をお迎えし、医療機器ビジネスの起業家精神育成講座であるスタンフォードバイオデザインプログラムを紹介しました。シリコンバレーの中心に位置するスタンフォード大学では、社会のニーズに合った人材を継続的に育成することに重点をおいており、医療機器ビジネスの創出ができる次世代リーダーの育成を行っています。一見すると、民間企業で行う内容のようにも思えますが、世界中の多くの患者を救うことができる医療機器の開発を推進する人材を社会に輩出することで社会に貢献しています。日本の医学部での人材育成の考え方とは異なる新しい実践例を紹介する機会となり、参加者からは「アントレプレナーシップというトピックが新鮮であった、背筋が伸ばされるような講演で刺激になった」と好評を博しました。

さらに、「医療系大学におけるアントレプレナーシップ教育について考えよう」と題したワークショップを実施しました。浜松医科大学における実践例を提示後、医療系大学の各養成課程教育におけるアントレプレナーシップ教育の実現可能性について、参加者同士で意見交換を行いました。

そのほかの7つのワークショップでは、参加者から「普段交流できない多職種の方と交流する機会があり新鮮であった」「講義内容をグループワークで実践できるので、次の日から臨床で導入しやすい」「各大学の意見を聞くことができるので、自身の視野が広がる」などといった意見が寄せられました。

MEDCでは、医学教育共同利用拠点として我が国の医療者教育の普及・開発・向上に寄与すべく、年3回「医学教育セミナーとワークショップ」を開催しています。次回の第90回は1月23日(木)、24(金)にオンラインで開催します。12月2日からMEDCホームページにて参加者を募集予定です。



セミナーの様子（講演者：スタンフォード大学 池野文昭先生）

「ISO14001内部環境監査員養成研修」 修了証書授与式を挙行

【概要】

11月21日（木）に「ISO14001内部環境監査員養成研修」修了証書授与式（オンライン併用）を、吉田学長、杉山副学長（環境対策室長）、統括環境管理責任者の椎名教授（応用生物科学部）ら列席のもと行いました。今年度は岐阜大学と名古屋大学の学生15名に修了証書を授与しました。

本学は平成15年に地域科学部で環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を認証取得し、その後附属病院を除く全学で認証を取得しています。また、平成23年から毎年、教職員と学生による内部環境監査を行い、環境パフォーマンスの向上に努めています。さらに今年度からは、岐阜大学の学生に加え、連携開設科目※「マネジメント論（マネジメントシステムと監査）」を履修している名古屋大学の学生も参加しました。

内部環境監査は、本学の環境マネジメントシステムがISO14001の規格に沿って運用されているかを学内の監査員が確認するものです。学生は教職員とともに同規格の概要や監査の実施手順について学内外の講師による研修を受けたうえで、実際に内部環境監査に監査員として参加し、学生ならではの視点で監査を行いました。

授与式では、吉田学長から本研修を修了した学生に修了証書を手渡し、「今回の内部環境監査では岐阜大学・名古屋大学の学生から多くの意見が出され、充実した内容の監査となったと思う。内部環境監査を通して気づいたことを、将来のキャリアパスにも活かしてほしい」と激励しました。

その後の意見交換で、学生は「監査を通して、岐阜大学の環境への取り組みを知ることができて良かった」「研修や監査で学んだことを今後日常生活でも活かしていきたい」と話し、積極的に意見を交わしました。

岐阜大学は今後も環境教育と実践の場を提供し、学生たちが地域や社会に貢献できる人材へと成長するための支援を続けていきます。

※連携開設科目：他大学と本学が連携して開設する科目のことです。名古屋大学の学生は、岐阜大学で開講される連携開設科目を受講することができます。



集合写真（名古屋大学の学生はオンライン参加）

「茂木健一郎先生と考える脳とAIのアライメント」を開催

【概要】

2024年11月13日(水)、OKB岐阜大学プラザにて、脳科学者の茂木健一郎先生を講師に迎えた特別講演「脳とAIのアライメント」を開催しました。このイベントは、グローバル推進機構、人工知能研究推進センター、工学部電気電子・情報工学科情報コースの共催で実施し、会場には学生・教職員、企業関係者ら約45名が訪れ、また名古屋大学でのライブ配信を通じて多くの方々がオンライン参加しました。

講演では、まず「知性をどう定義するか」というテーマを取り上げ、人間の目的や価値観を反映するAIの在り方について述べました。特に「Ikigai（生きがい）」という日本文化に根差した概念が講演の中心テーマとなり、人間の生きがいを減らさないようにAIを使用しなければならない「Ikigai risk」という考え方に触れ、AI技術が人間社会の価値観や目的とどのように調和し得るのかなどについて語りました。また、日本独自の文化的背景を活かしたAI研究の方向性についても言及し、国際競争力のある独創的なアプローチの必要性を強調しました。

講演後には、茂木先生が工学部を訪れ、植松美彦工学部長、加藤邦人教授及び寺田和憲教授らとともに、本学のAI分野における教育や研究への協力について意見交換を行いました。

岐阜大学では、今後も学生・教職員や地域企業の皆様の知見を広げるための講演会やイベントを積極的に開催していきます。なお、本講演はGlocal Lessonにて視聴可能です。（ご視聴には無料会員登録が必要です。）



講演の様子



茂木健一郎先生



工学部での集合写真

高大連携実衛星プログラム「ぎふハイスクールサット（GHS）」のフライトモデルの引き渡しが完了

【概要】

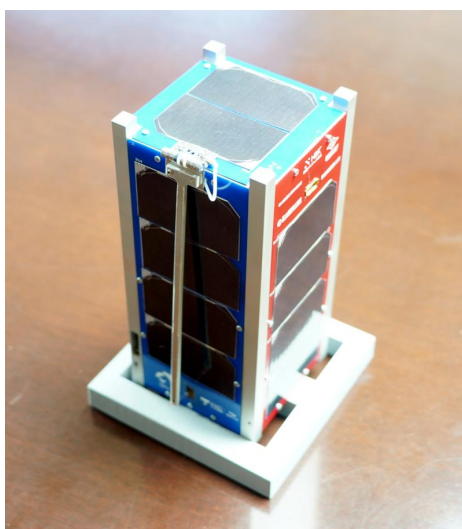
高大連携実衛星プログラム「ぎふハイスクールサット（GHS）」のフライトモデルのJAXA（宇宙航空研究開発機構）への引き渡し完了し、参加した高校生らによる吉田学長への報告が12月23日に行われました。

このプログラムは、岐阜大学と岐阜県が共同で進める「ぎふ宇宙プロジェクト研究会」の一環として実施されているもので、県内の工業高校生と岐阜大学生・大学院生が協力し、フライトモデルの開発を進めてきました。このフライトモデルは、JAXAの安全審査に合格したもので、2025年4月にNASA（アメリカ航空宇宙局）を通じてSpaceX社のファルコン9ロケットで打ち上げられます。国際宇宙ステーションに運ばれたのち、約1か月後に軌道に投入されて地球の撮影や、リトアニア、オーストラリアの高校生との電波受信による軌道推定などの演習を行う予定です。

学長への報告で、GHSチームの生徒達は、「先輩達からこの事業を引き継ぎ、無事に引き渡しまで完了させることができて良かったです。岐阜大学その他、県内の企業や、他の高校の生徒達など、様々な人の力を借りて実現することができました。高校の授業では経験できない取組も多く、非常に勉強になりました」と感想を語りました。

これに対し、学長は、「試行錯誤を重ね、多くの苦労があったことと思いますが、高大連携のみでなく産学連携の枠組みの中でも、最先端の技術に触れることができ、素晴らしい経験を積むことが出来たのではないかと思います。これからもこの経験を生かして、様々な分野で大きく活躍して欲しいです」と述べ、プログラムに参加した生徒達の努力を称賛しました。

このプロジェクトが、若い世代の科学技術への関心を高めるとともに、実践的な学びを提供する場として機能し、参加した高校生らが、今後さらに活躍してくれることを期待します。



JAXAに引き渡されたフライトモデルと
同型のプロトフライトモデル

高大連携実衛星プログラム「ぎふハイスクールサット（GHS）」の
フライトモデルの引き渡しが完了



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/25	岐阜	4工業高の小型人工衛星 JAXAに引き渡し 岐阜大学 長に報告 ～「ぎふハイスクールサット（GHS）プロ ジェクト」、吉田和弘 学長、工学部4年 山下雄碁さ ん、大学院 鈴木裕翔さん～

第90回医学教育セミナーとワークショップを開催

【概要】

岐阜大学医学教育開発研究センター（MEDC）は、1月23日（木）・24日（金）に、第90回医学教育セミナーとワークショップを開催しました。今回はWebinar、4つの「MEDTaaalk」および6つのワークショップを実施し、講師を含む総勢227名が参加しました。

「MEDTaaalk」は、テーマに関する講師のミニプレゼンテーションと、それに続く講師とナビゲーターの対話の様子を視聴することができる企画です。本企画は、今まで学んだことのないような幅広い分野の知見に触れる機会を提供し、医療者教育の裾野を広げることを目的としています。また、視聴中に参加者が気になったことなどは、Q&A機能を活用して質問しながら学ぶことができます。

今回の「MEDTaaalk」では以下の4テーマを取り上げ、参加者からは「膨大な情報が要点を押さえてまとめられており、大変分かりやすかった」「自身の授業にも活かせるような内容だった」といった感想が寄せられました。

- ・カンファレンスの観察社会学-個別指導と全体的教育の二律背反等を事例として
- ・コミュニケーションを測ること、評価すること
- ・医療者と患者のコミュニケーションを異文化コミュニケーションの視点で考えてみよう
- ・臨床研究コーディネーター（Clinical Research Coordinator：CRC）のレジリエンス

Webinarでは、MEDCの藤崎和彦教授が「科学史・科学論の視点から見た医学史・医学概論」をテーマに講演を行いました。藤崎教授は2012年から岐阜大学の全学共通教育「人文科学・科学論」の授業を担当しており、本講演では授業内容のエッセンスを紹介しました。参加者からは「医学教育の深さを感じた」「フィードバックの概念が変化した」などの意見が寄せられました。

ワークショップでは、「効率よく臨床医学を学ぶカリキュラムの構築」や「障害のある医療系学生の社会的バリアを考える」など、医学教育の多様な課題に取り組みました。MEDCは、医学教育共同利用拠点として、我が国の医療者教育の普及・発展・向上を目指し、「医学教育セミナーとワークショップ」を継続的に開催しています。次回の第91回医学教育セミナーとワークショップは、2025年5月29日（木）～31日（土）に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催予定です。また、5月29日（木）・30日（金）には「第26回国公私立大学医学部・歯学部教務事務研修」も併催します。参加申し込みは4月上旬よりMEDCホームページにて受け付ける予定です。



総合プレゼンター MEDC藤崎和彦教授

第90回医学教育セミナーとワークショップを開催



MEDTaalk1 : (左)摂南大学 榎田美雄教授、(右)名古屋市立大学 今福輪太郎准教授



MEDTaalk2 : (左)帝京大学 石川ひろの教授、(右)MEDC 野村理併任講師



MEDTaalk3 : (左)立教大学 灘光洋子教授、(右)MEDC 早川佳穂特任助教



MEDTaalk4 : (左)東京慈恵会医科大学 野呂幾久子教授、(右)岐阜大学 高橋美裕希特任准教授

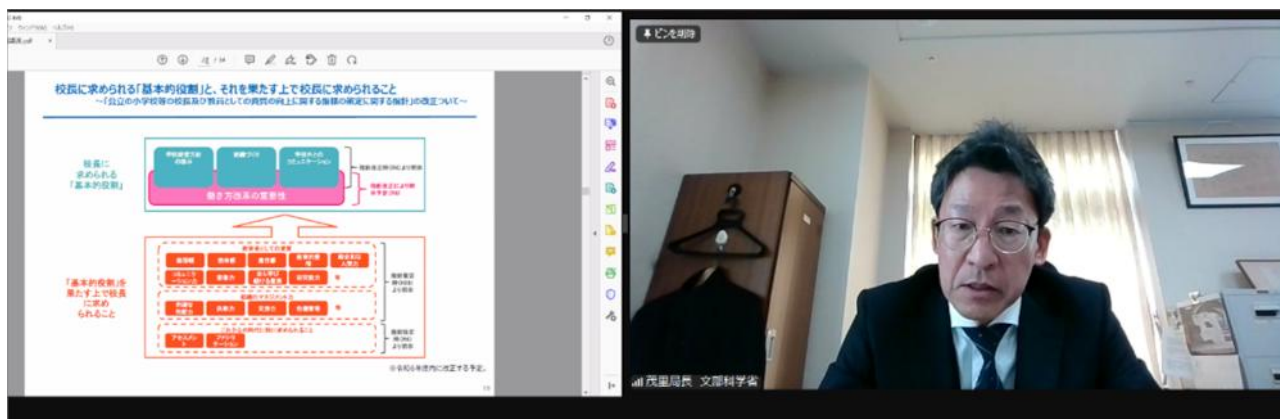
令和6年度岐阜大学シンポジウム 「ポジティブな学校文化をつくるエビデンスの活用」を開催

【概要】

2025年2月3日（月）、岐阜大学シンポジウム「ポジティブな学校文化をつくるエビデンスの活用」をオンラインで開催しました。本シンポジウムには、全国の大学関係者、教育委員会や学校関係者、市民の方々など264名が参加しました。

今日、不登校やいじめ、特別な支援を必要とする子どもの増加を受けて、管理職が教職員と協働して、多様な子どもが安心して学べるポジティブな学校文化を構築することが緊喫の課題となっています。その課題を解決するために、全ての子どものよさ（望ましい行動）に注目し、それを引き出し、認め合う仕組みをつくるスクールワイドPBS（ポジティブ行動支援）注1）のエビデンスが注目されています。本シンポジウムでは、管理職がエビデンスを学び活用する研修開発事業報告を行い、ポジティブな学校文化をつくるエビデンスの活用について考えました。

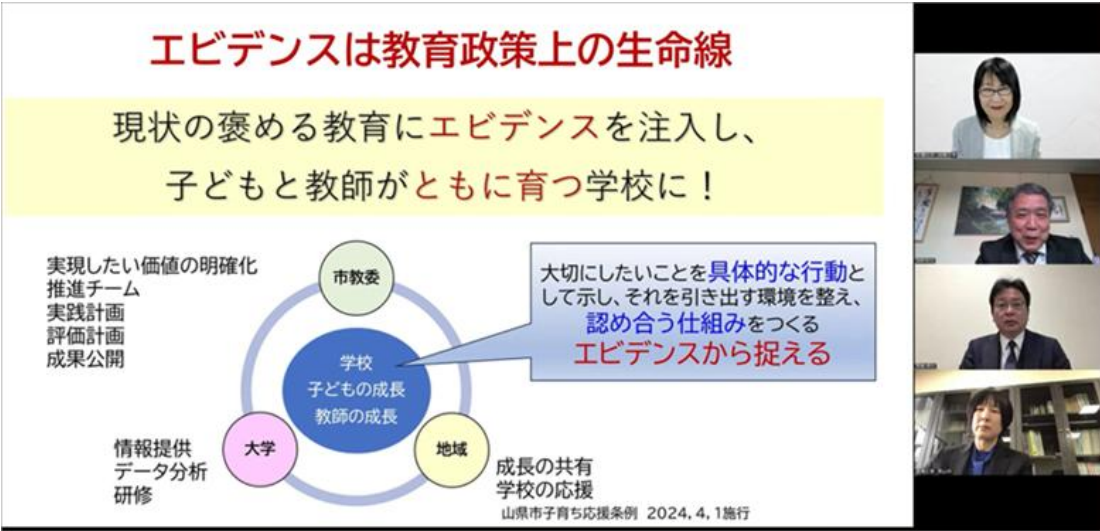
第1部では、文部科学省総合教育政策局長の茂里毅氏から「管理職研修の高度化と教職大学院の役割」について、今日の公教育の在り方や課題を踏まえて、子どもの主体的な学びを支える教師、それを支える管理職に関する講演がありました。参加者から、「教育環境整備の課題を含み、あらためて学校教育の在り方、学校の教育力を高める管理職の在り方について、学び、考えた」などの感想が多く寄せられました。



第1部基調講演の様子 文部科学省総合教育政策局長の茂里毅氏

第2部の事業報告では、本学教職大学院が現職の校長先生とともに開発した「ポジティブな学校文化をつくるエビデンスを活用する管理職研修」について報告が行われました。校長先生からは「自校の子どもや教職員の状況を踏まえて、取り組み方針を明示し、進めた結果、子どもの主体的な取り組みが増え、教職員が褒め上手になり、学校が楽しい生徒が増えた」などの報告がありました。また、教育長からは「エビデンスの教育政策上の価値を明確にし、管理職の学びを支える基盤をつくることで、子どもと教師が幸せになる」などの報告がありました。管理職研修として、エビデンスとともに、その教育的価値を認識し、学校経営の中でどのように進めるかを各自が明らかにする研修内容が重要であること、エビデンスを入手し、活用する体制をつくる必要があることが明らかにされました。

令和6年度岐阜大学シンポジウム
「ポジティブな学校文化をつくるエビデンスの活用」を開催



第2部事業報告の様子
(上から) 岐阜大学教職大学院教授 平澤紀子、山県市教育長 服部和也氏、
美山小学校校長 早川秀樹氏、美山中学校校長 高橋広美氏

第3部の参加者交流では、基調講演や事業報告を受けて、参加者同士で意見交換を行いました。本シンポジウムを通じて、「学校が既に取り組んでいることをエビデンスの視点から可視化することが重要である」「校長が教職員や子どもに方針を伝え、進めることが学校の教育力を向上させる」などの意見交換がなされ、多くの学びを得る機会となりました。

本学は今後もさまざまな教育機関と連携し、学校教育の充実に向けた活動を展開していきます。

注1) スクールワイドPBS：
全ての子どもを対象として、学校を安全で効果的な学習環境とするために必要な社会的文化や個別の行動支援を確立するシステムアプローチで、学校組織がエビデンスを活用する枠組みです（Sugai & Horner, 2009）。教育制度(IDEA)に位置づけた米国を中心として世界的に拡大し、日本でも徳島県や宮崎県、山県市では教育振興基本計画に位置づけて取り組んでいます。スクールワイドPBSの中心的な要素は、子どもの良さに注目し、それを引き出す環境を整え、認め合う仕組みをつくるものであり、それにより子どもの社会的行動や学業、学校文化が向上し、問題行動が減少することが明らかにされています。わが国の学校教育への親和性も高く、安心して学べる学校づくりに資することが明らかにされています。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/2/12	岐阜	罰則より称賛で教育 PBSシンポ 山県市教委が報告 ～令和6年度岐阜大学シンポジウム「ポジティブな学校文化をつくるエビデンスの活用」～

「地域医療セミナーin下呂」を開催

【概要】

2025年2月8日・9日の2日間、下呂市と下呂市医師会の主催で「地域医療セミナーin下呂」が開催されました。本学からは1年生から4年生までの医学生18名が参加しました。本セミナーは、地域医療について学び、実際の医療現場を体験し、現役の医師との交流を通じて地域医療の現状を深く理解することを目的としています。

初日の午前には、まず下呂市における医療状況について説明がありました。続いて、本学医学部附属地域医療医学センター長の牛越博昭教授が「地域医療のミライ」というテーマで講演を行いました。講演では、新たなカリキュラムの紹介や国からも示されている2040年を見据えた医療人育成など、地域医療の重要性や将来の展望について詳しく説明しました。午後からは、岐阜県立下呂温泉病院に移動し、院内見学や医師との意見交換が行われました。その後、宿泊先に移動し、飛騨川温泉しみずの湯で交流会が開催されました。交流会には山内市長や下呂市医師会の小林会長をはじめ、医師会の先生方も参加され、参加学生は先輩医師から貴重なお話を伺うことができました。

2日目の午前には下呂市立小坂診療所、午後には下呂市立金山病院を訪問し、院内見学と現地の医師との交流会が行われました。交流会では、地域医療の現場で医師が直面する課題やその課題に対して日々どのように対応しているのかなどを学びました。

本セミナーに参加した医学生からは、「同じ岐阜県内でも医療事情が異なることが、直接、現場の先生方や事務職員の方から話を聞いてよくわかりました」などの声が挙がり、地域医療に対する理解を深める良い機会となりました。

本学は今後も、地域医療の現場に携わる方々の協力を得ながら、実践的な学びの機会を提供し、学生の成長を支援していきます。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/2/9	読売	医学生向けに地域医療紹介 下呂でセミナー ～医学部牛越博昭教授、医学部4年細江悠仁さん～

岐阜大学教育学部と三重大学教育学部が 連携・協力に関する協定を締結

【概要】

令和7年2月14日（金）、三重大学教育学部多目的ホールにおいて、岐阜大学教育学部と三重大学教育学部は連携・協力に関する協定を締結しました。

この協定は、両大学教育学部が教職課程を含む教育プログラムの拡充と質の向上を図り、地域社会の発展に貢献し、地域の子どもたちの学びを支えるために、連携・協力することを目的としています。

締結式では、両教育学部長が協定書に署名を行い、山田雅博岐阜大学教育学部長から「三重大学教育学部とは令和4年度から協議を重ねてきた。その集大成として協定を締結することができ、心から嬉しく思っています。今後、三重大学教育学部は三重県において、岐阜大学教育学部は岐阜県において、それぞれ学生の学びを充実させ、互いに力を合わせ、手を取り合って歩んでいきたい」との挨拶がありました。

続いて、伊藤信成三重大学教育学部長から「やっと署名まで来ることが出来た。これから、共に手を取り合って超えていかなければならない課題が多くある。岐阜県の教育、三重県の教育を共に支えていく組織となっていけるよう、共通の強みを活かし、教育がさらに深まるような連携をしていきたい」との抱負が述べられました。

岐阜大学教育学部と三重大学教育学部は今後、教育分野における連携・協力を深め、それぞれの理念や特色を活かし、地域の教育の一層の充実を図っていきます。



協定書への署名後、手を取り合う
山田雅博岐阜大学教育学部長(左)と
伊藤信成三重大学教育学部長(右)



両大学出席者による集合写真

令和6年度学位記授与式を執行

【概要】

本学は、令和7年3月25日（火）、岐阜市民会館にて令和6年度学位記授与式を執り行いました。

式典では、学部学生1,254人、大学院学生578人の卒業生・修了生に向けて、吉田学長が「皆さんは岐阜大学での学びを通じ、恩師や学友と議論を重ね、社会課題の解決やSociety5.0の実現に向けて努力されてきました。コロナ禍を乗り越え、世界的な課題に直面しながら培ったレジリエンスを生かし、前途洋々たる未来に向かって邁進されることと確信しています」と告辞を述べました。

また、卒業生代表の謝辞では、応用生物科学部の西脇那月さんが「新型コロナウイルスの世界的な流行により、思い描いた理想の大学生活とは異なる日々もありましたが、多くの出会いと学びを通じて視野を広げ、成長することができました。これからも岐阜大学での経験を糧に、一步ずつ前へ進んでいきます」と力強く語りました。

さらに、在学期間中において、極めて優秀な学業成績を挙げ、高い評価を受けた学生18人が吉田学長から表彰されました。



管弦楽団演奏



学位記授与式の様子



学長告辞



謝辞を述べる応用生物科学部 西脇さん

令和6年度学位記授与式を執行



愛唱歌合唱

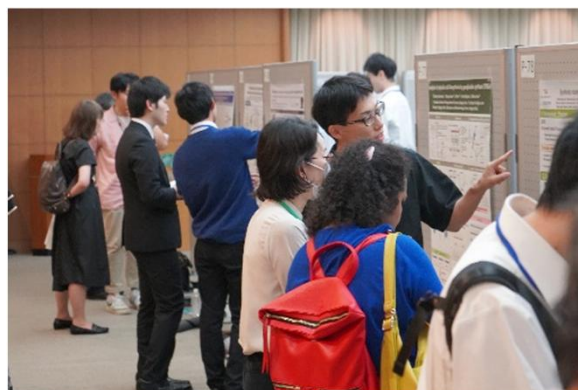


会場の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/3/26	岐阜	学びを糧に 未来へ前進 岐阜大卒業式で決意 ～吉田和弘学長、応用生物科学部 西脇那月さん、共同獣医学専攻 本間健志さん～
2025/3/26	中日	「経験と学び糧に前進」決意 岐阜大 学位記授与式 ～吉田和弘学長、応用生物科学部 西脇那月さん、共同獣医学専攻 本間健志さん～

研究



- ・環境社会共生体研究センターを開所
- ・応用生物科学部 宮脇 慎吾 准教授が科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞
- ・地震後の地下岩盤亀裂の急速シーリングに成功！（世界初）
～化石ができる仕組み応用、放射性廃棄物やCO₂の地下貯留も可能に～
- ・糖鎖伸長のブレーキ役を発見
～糖鎖伸長の制御による血中タンパク質の寿命の調節～
- ・健康的な生活習慣がワクチン接種後の有害事象を減らす
～朝食摂取と十分な睡眠確保の重要性～
- ・Glyco-core Symposium 2024を開催
- ・3種類の金属が並んだ常磁性一次元化合物の合成に成功
～長い距離でも、強い磁氣的相互作用を示す～
- ・国際クラブから再生可能エネルギーに関する研究教育助成を受領
- ・糖鎖の生合成を糖鎖自身が制御する仕組みを発見
- ・産学連携フェア2024を開催
- ・日本学術会議中部地区会議学術講演会「性はどうやって決まる？」を開催
- ・ウスバシロチョウの中国大陸からの伝播ルートと日本国内の地域性を高解像度な集団遺伝解析によって解明
- ・第2回アカデミックサミットを開催
- ・抗転移薬の開発—短鎖合成RNAは新しいタイプのがん転移抑制剤となりうる
- ・狂犬病ウイルスの弱点を発見：RNA合成酵素の新規機能部位を発見
未だ存在しない狂犬病治療薬開発への足がかりに

環境社会共生体研究センターを開所

【概要】

岐阜大学は、2024年4月1日（月）に高等研究院環境社会共生体研究センター（Center for Environmental and Societal Sustainability）を開所しました。

本センターは、流域圏科学研究センター、高等研究院地域環境変動適応研究センター、高等研究院脱炭素・環境エネルギー研究連携支援センターの3つの組織を融合・発展的改組し、新たに設置しました。これまで培ってきた環境研究分野の成果をさらに発展させ、地球温暖化の緩和・気候変動への適応、生態系サービスの持続可能な利活用など、地球規模の環境課題解決に必要な専門知・科学知を提供し、ステークホルダーと共に解決策を共創していくことを目指します。

本センターでは主に以下の取組を行っていきます。

1. 流域環境診断手法の開発
2. 環境・社会データマイニング技術開発
3. 気候変動影響評価・適応策創出機能の強化
4. 日本版フューチャー・アース活動創出を推進し、『自然と社会の共発展を支える新たな融合環境科学』の創生

開所式には、王副学長や本センターの構成員らが出席し、村岡センター長が「研究分野間の連携や大学と社会の協力をさらに進めて、生活圏の地球環境問題に取り組む環境科学を発展させたい」と今後の抱負を述べました。

岐阜大学は、本センターの活動を通じて、今後も地域や国際社会と連携し、地球温暖化時代の持続可能な社会の構築への貢献を果たすように尽力します。



（左から）森部領域長、原田領域長、王副学長、村岡センター長、斎藤領域長



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/5/24	中日	環境問題 文理融合し研究 岐阜大新センター 幅広く人材を育成 ～環境社会共生体研究センター・センター長 村岡裕由 教授（植物生理生態学）～

応用生物科学部 宮脇 慎吾 准教授が 科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞

【概要】

岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科の宮脇 慎吾 准教授が、令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞しました。

若手科学者賞は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者個人に贈られる賞です。今回の受賞対象となった宮脇准教授の研究テーマは、「ほ乳類の性決定遺伝子の遺伝子構造と進化に関する研究」です。

4月26日（金）には、吉田学長への受賞報告が行われ、本研究がほ乳類の性決定の仕組みの解明と、性決定遺伝子の進化の理解につながることを期待されるものであることなど、研究内容について宮脇准教授から説明され、「岐阜で生まれ育った者として、岐阜大学においてこういった賞を受賞できたことを嬉しく思うとともに、今後も同世代の研究者と互いに高め合いながら、岐阜にとって何ができるかを考えていきたい」と抱負が語られました。

吉田学長は、「今回の受賞は宮脇准教授個人にとっても生涯の宝であるとともに、応用生物科学部、岐阜大学のみならず岐阜県全体にとっても大きな意義があり、またOne Medicineトランスレーショナルリサーチセンター（COMIT）での活動等を通じた東海国立大学機構の枠組みや関係大学との共同研究にとっても大きな一歩です。今後も各分野を牽引していくことを期待します。」と激励しました。

本学は引き続き、若手研究者の育成を目指していきます。



右から吉田学長、宮脇准教授、大藪副学長、
西津応用生物科学部長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/4/27	中日	マウス性別決める遺伝子像解明 岐阜大・宮脇准教授「若手科学者賞」受賞 ～応用生物科学部共同獣医学科 宮脇慎吾 准教授～
2024/5/1	岐阜	文科大臣表彰「若手科学者賞」 宮脇岐阜大准教授が受賞 性決定遺伝子、隠れた物質解明 ～応用生物科学部共同獣医学科 宮脇慎吾 准教授、吉田和弘学長～

地震後の地下岩盤亀裂の急速シーリングに成功！（世界初） ～化石ができる仕組み応用、放射性廃棄物やCO₂の地下貯留も可能に～

【概要】

岐阜大学教育学部の勝田 長貴 教授、名古屋大学博物館の吉田 英一 教授、山本 鋼志 特任教授、大学院環境学研究科の浅原 良浩 准教授、東京大学工学研究科の丸山 一平 教授（名古屋大学博物館兼任）、日本原子力研究開発機構（JAEA）、積水化学工業（株）および中部電力（株）原子力安全技術研究所の研究グループは、球状コンクリーションの形成プロセスを応用・開発したコンクリーション化剤を用いて、地下350m環境での岩盤亀裂シーリング実証試験を行い、M5.4の直下型地震を含む11回の地震によるシーリング効果の低下と再シーリングも含め、地下水の湧水を抑制（透水性が実験開始直前の1/100～1/1000に減少）させることに成功しました。このような地震後の岩盤亀裂を、速やかにかつ持続的にシーリングする効果の報告は、世界的にも今回が初めてとなります。

この手法は、数千年以上もの長期間の地下隔離を必要とする放射性廃棄物の地下隔離・処分のほか、二酸化炭素の地下貯留、石油の廃孔シーリングや、道路・鉄道トンネル周辺岩盤・鉱山掘削に伴う地下水抑制といった、地下環境を活用する地球規模で直面しているエネルギーや環境課題だけでなく、様々なインフラの長期メンテナンスなどのニーズに応用可能であり、メンテナンスフリーを目指す今後の幅広い技術への展開が期待されます。

本研究成果は、2024年5月22日18時（日本時間）付イギリス科学誌Springer Nature社の「Communications Engineering」に掲載されました。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/5/23	中日	亀裂補修に画期的充填剤 名大など世界初開発 化学反応を応用「効果は半永久的」～教育学部 勝田長貴教授、名大博物館 吉田英一 教授ら～

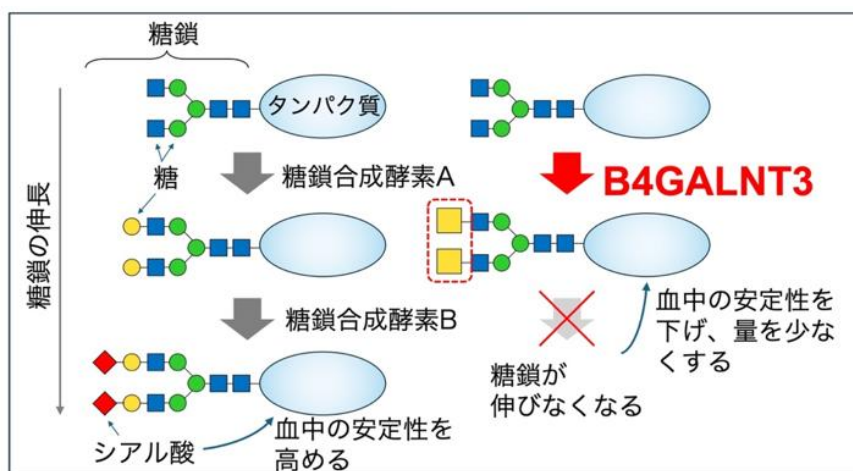
糖鎖伸長のブレーキ役を発見 ～糖鎖伸長の制御による血中タンパク質の寿命の調節～

【概要】

岐阜大学糖鎖生命コア研究所の木塚 康彦教授らの研究グループは、リール大学（フランス）、大阪大学、広島大学との共同研究で、タンパク質に付いた糖鎖 1)が伸びなくなる新たな仕組みを発見しました。

タンパク質に付く糖鎖は、細胞の中で多くの糖鎖合成酵素により作られます。B4GALNT3 2)はそれら酵素の一つで、この酵素が作用すると、糖が1つ付加されますが、その後に糖鎖を伸ばす他の酵素が働かず、糖鎖が伸びなくなることがわかりました。通常、糖鎖が伸びて末端にシアル酸という糖が付くと、糖鎖を持つタンパク質（糖タンパク質）は血液中で安定となります。一方で、糖鎖からシアル酸が外れると血液中から除かれることがわかっています。B4GALNT3が作用すると、糖鎖が伸びずにシアル酸が付かなくなったことから、この酵素は糖タンパク質の血液からの除去を早めると考えられます。実際に、B4GALNT3は骨を少なくする糖タンパク質の血中の量を減らすことで、骨の形成を調節することが知られています。これらのことから、B4GALNT3は糖鎖の伸長を止めることで、血中タンパク質の量を少なくすると考えられます。本研究は、複雑な糖鎖形成の仕組みの解明と、タンパク質の血中安定性を制御する技術開発への貢献が期待されます。

本研究成果は、2024年6月4日付で『Journal of Biological Chemistry』に掲載されました。



概要図

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/6/14	日刊工業	血中たんぱく質の寿命調節 糖鎖伸長制御 仕組み発見 ～木塚康彦教授ら～

健康的な生活習慣がワクチン接種後の有害事象を減らす
～朝食摂取と十分な睡眠確保の重要性～

【概要】

岐阜大学大学院医学系研究科感染症寄附講座の手塚宣行特任教授、岐阜大学保健管理センターの山本眞由美教授らのグループは、岐阜大学の大学生を対象とした研究で、新型コロナワクチン接種後の有害事象が、朝食の摂取と十分な睡眠時間をとる習慣のある大学生においては、発生率が低くなる事を報告しました。

岐阜大学の大学生における新型コロナワクチン接種後の有害事象は、高い頻度で発生しましたが、生命を脅かされるような重篤なものや入院を要するものではありませんでした。特に接種回数が多いこと、女性であること、BMIが低いことが有害事象の発生率の高さと関連していました。生活習慣では、朝食の定期的な摂取と睡眠時間を長くとする生活習慣のある大学生は、有害事象の発生率が低いことが明らかになりました。健康的な食事と睡眠習慣、理想体重の維持が若年成人における新型コロナワクチン接種後の有害事象を減らすことが分かりました。今後、他の種類のワクチンでも有害事象の減少に関与する要因に関する研究が進むことが期待されます。

本研究成果は、日本時間2024年6月22日にVaccine: X誌（Elsevier社）のオンライン版で発表されました。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/7/4	朝日	岐阜大チーム 学生対象調査 コロナワクチン接種後の「有害事象」 女性や低体重の人 高い発生率 ～医学系研究科 手塚宣行 特任教授（感染症学）～
2024/7/19	科学新聞	ワクチン接種後の有害事象 健康的な生活習慣で減少 朝食と睡眠時間が重要 岐阜大調べ ～医学系研究科 手塚宣行 特任教授、保健管理センター 山本眞由美教授らのグループ～
2024/8/1	Medical Tribune	コロナワクチンの有害事象は朝食で防げるか 感染症 ～大学院感染症寄附講座 手塚宣行 特任教授～

Glyco-core Symposium 2024を開催

【概要】

2024年7月16日（火）、岐阜大学及び名古屋大学糖鎖生命コア研究所は、J-GlycoNet（共同利用・共同研究拠点糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点）、HGA（ヒューマングライコムプロジェクト）及びCIBoG（名古屋大学卓越大学院プログラム）と共催で、Glyco-core Symposium 2024を名古屋大学豊田講堂にて開催しました。今回のシンポジウムは、大規模学術フロンティア促進事業としてヒューマングライコムプロジェクトが始動してから初めて開催する国際シンポジウムであり、当研究所の取り組みを国内外に発信するとともに、糖鎖と様々な分野の融合研究を促進することを目的として開催しました。

冒頭では、東海国立大学機構の松尾清一機構長、名古屋大学の杉山直総長及び岐阜大学の吉田和弘学長の挨拶がありました。さらに、文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課の柳澤好治課長とライフサイエンス課の釜井宏之課長にもご挨拶いただきました。その後、糖鎖生命コア研究所の門松健治所長が挨拶と糖鎖研究の現状について説明しました。

セッションはそれぞれ基調講演及び招待講演で構成され、医療ビッグデータ研究、分子イメージング、ケミカルバイオロジー、病気と治療についての4つのテーマで講演が行われました。その中の一つ、糖鎖の可視化技術の開発についてマックス・プランク研究所（ドイツ）のケルビン・アンガラ博士が行った講演「Analyzing Structures of Glycans and Glycoconjugates at Single Molecule Level by Direct Imaging on Surface」は先鋭的で、従来捉えることのできなかった複雑で柔軟なさまざまな糖鎖のかたちを、質量分析とトンネル型操作顕微鏡（STM）に関連する技術を組み合わせることで、たった一分子をも可視化できることを示しました（学術論文としては昨年Science誌に発表）。糖鎖の壁と言われてきた「可視化」を解決する技術の登場に、多くの聴衆が糖鎖新時代の到来を感じたことでしょう。セッションの最後には質疑応答により活発な議論が展開されました。

昼時には、フラッシュトークを含むランチョンポスターセッションが開催され、131件のポスター展示とともに和やかな雰囲気で開催と議論が行われました。

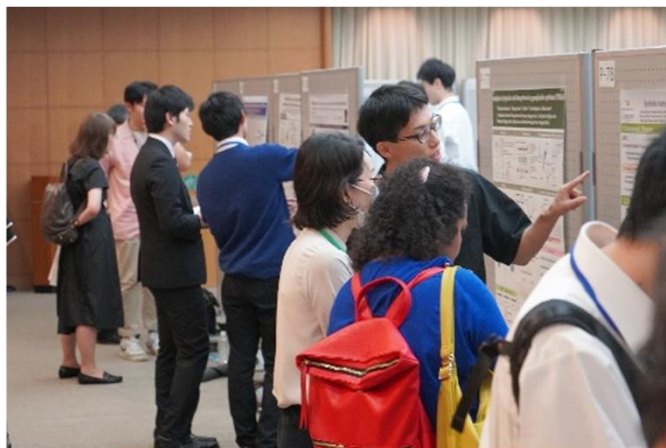
セッション終了後には、特別講演としてハーバード大学医学大学院のリチャード・カミングス教授が「Connecting Genetics, Glycomics and Biological Functions of Glycans」と題し、糖鎖アレイや抗糖鎖抗体を基盤ツールにした新たな糖鎖機能解析に向けた道筋を紹介しました。最後は、門松所長の挨拶によって閉会しました。

本シンポジウムには、国内外から411名の参加者があり、参加者からは、「糖鎖の最先端の話を聞いて大変刺激になった」「若い研究者が多くて活気を感じた」などのコメントが寄せられるなど好評を博し、盛会のうちに幕を閉じました。これほど多くの研究者が東海地区（名古屋）に集った意義は大きく、糖鎖を始めとする生命科学分野の先端研究成果に触れる機会となりました。また、ポスターセッションを通じて異分野融合の促進と若手研究者の国際学会への直接参加が大きく推進されました。岐阜大学は、今後も国内外に糖鎖研究とその成果を発信してまいります。

Glyco-core Symposium 2024を開催



会場の様子



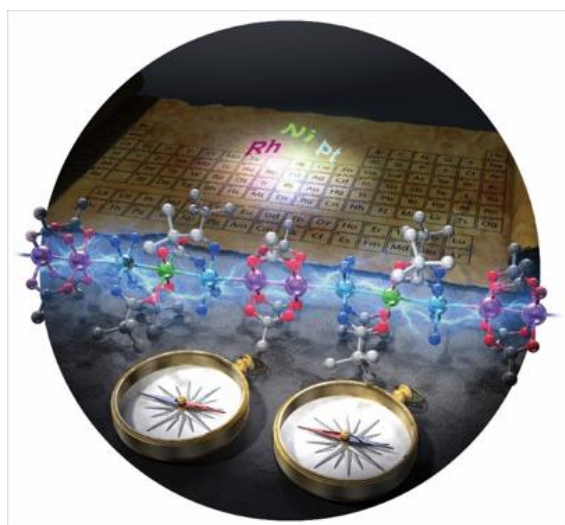
ポスターセッション

3種類の金属が並んだ常磁性一次元化合物の合成に成功 ～長い距離でも、強い磁氣的相互作用を示す～

【概要】

岐阜大学工学部 植村一広准教授、自然科学技術研究科 修士課程（令和6年）修了生 安達友教さん、工学研究科 博士後期課程（令和5年）修了生 高森敦志さん、岐阜大学工学部 吉田道之助教は、白金(Pt)とニッケル(Ni)がPt-Ni-Ptと並んだ金属錯体を、ロジウム(Rh)の複核錯体で連結し、-Rh-Rh-Pt-Ni-Pt-と一次元状に伸長化させることに成功しました。それぞれの金属イオンは直接の金属結合で連なり、バンド構造を形成するにも関わらず、Niに不対電子が2個存在した常磁性であり、これらの不対電子は、-Pt-Rh-Rh-Pt-の13 Å(オングストローム)の距離で、強く反強磁性的相互作用することを明らかにしました。この一次元伸長化法は、周期表中の様々な種類の金属を選び並べられる可能性があり、強磁性化、単一次元鎖磁石、伝導電子と磁性電子が織りなす強相関電子系への発展が期待されます。

本研究成果は、2024年8月11日にAngewandte Chemie International Edition誌のオンライン版で正式に発表されました。



緑色で記したNi付近の磁気が互いに逆向きになったことを表している図

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/8/27	日刊工業	金属イオン、直線状に配列 岐阜大が1次元化合物 ～ 植村一広 准教授～

国際クラブから再生可能エネルギーに関する 研究教育助成を受領

【概要】

令和6年8月26日（月）、一般財団法人国際クラブ（羽島市）にて、青山るみ代表理事から本学植松工学部長へ寄附目録の贈呈が行われました。

同クラブからは、これまでも外国人留学生支援など多岐にわたるご支援をいただいているところですが、昨年に引き続き再生可能エネルギーに関する研究教育活動を対象とした助成金をいただきました。

本学は平成30年4月に「地方創生エネルギーシステム研究センター」を設立し、再生可能エネルギー利用の革新的コア技術に関する研究を進め、AIなどを活用して水素技術などとの組み合わせによる最適エネルギーマネジメントシステムの構築を目指しています。同クラブからのご支援は、これらの活動をさらに推進し、次世代研究者・技術者育成にも力を注ぎながら、世界的なエネルギー問題の解決に貢献するための大きな力となります。

贈呈式では、青山代表理事が「社会を牽引し未来を創造しうる人材輩出と、地域と人類の課題解決に貢献する地域活性化の中核拠点になることに役立ててください」と述べ、植松工学部長は「研究と教育の両面で更なる成果を上げるべく邁進し、地域創生さらには世界的なエネルギー問題の解決に貢献できるよう全力を尽くします」と謝辞を述べました。

贈呈式後の懇談では、青山馥(かおる)名誉会長や青山代表理事をはじめとする国際クラブ関係者と、本学関係者が本事業への期待・再生可能エネルギー活用の重要性などについて意見交換を行いました。

本学は今後も、再生可能エネルギー研究のさらなる発展と、世界的なエネルギー問題の解決に向けた活動に取り組んでいきます。



贈呈式の様子



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/8/27	中日	羽島の「国際クラブ」 岐阜大に500万円寄付 再エネの研究開発支援 ～植松美彦 工学部長～
2024/8/28	岐阜	岐阜大に研究教育助成 国際クラブが500万円寄付 ～植松美彦 工学部長～

糖鎖の生合成を糖鎖自身が制御する仕組みを発見

【概要】

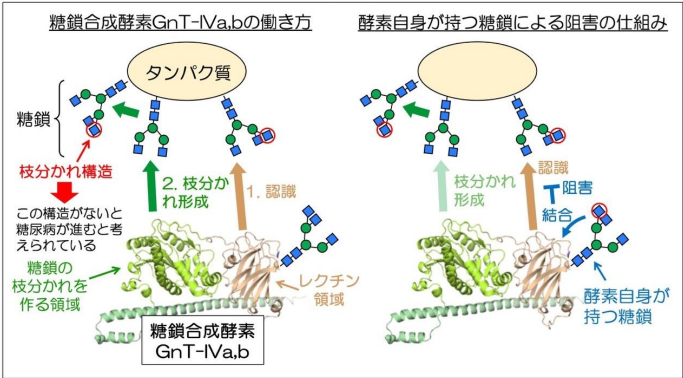
岐阜大学糖鎖生命コア研究所の木塚 康彦教授、自然科学技術研究科修了生の長田菜緒子さんらの研究グループは、ミシシッピ大学、広島大学、大阪大学との共同研究で、タンパク質に付いた糖鎖の枝分かれ構造が、この枝分かれを作る酵素の働きを抑える、つまり特定の糖鎖が自分自身の生合成を抑えるという新たな仕組みを発見しました。

タンパク質に付く糖鎖には膨大な種類があり、細胞の中で多くの糖鎖合成酵素により作られます。それぞれの糖鎖の量はこれら酵素の働きにより正しく制御され、それが疾患により異常となることが報告されていますが、酵素の働きを制御する仕組みはよくわかっていません。

GnT-IVaとGnT-IVbはそれら糖鎖合成酵素の一つで、糖鎖の枝分かれを作ります。GnT-IVaを欠損するマウスは糖尿病様の症状を示すことから、GnT-IVaは糖尿病との関連が示されています。また、GnT-IVaと-IVbは、他の糖鎖合成酵素が持たないレクチンドメイン（糖鎖結合領域）を分子内に持っていますが、その役割は不明でした。本研究では、このレクチンドメインが、糖鎖を持つ基質タンパク質の認識に必要であることを明らかにしました。さらに、GnT-IVaと-IVb自身にも糖鎖が付いており、この酵素自身の糖鎖が枝分かれ構造を持つと、レクチンドメインに結合してその機能を阻害し、GnT-IVaと-IVbによる枝分かれ形成を低下させることがわかりました。

本研究は、特定の糖鎖が自分自身の合成を阻害するという、糖鎖による自己抑制の仕組みを初めて示しました。以上の成果は、複雑な糖鎖形成の仕組みの解明と、糖尿病の病態解明や治療薬開発への応用が期待されます。

本研究成果は、現地時間2024年9月27日付で『iScience』に掲載されました。また本研究は、文部科学省の大規模学術フロンティア促進事業「ヒューマングライコムプロジェクト」により支援を受けました。



本研究の概要図

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/10/8	日刊工業	糖鎖生合成 自己制御解明 岐阜大など 枝分かれ構造 働き抑制 ～糖鎖生命コア研究所 木塚康彦 教授～

産学連携フェア2024を開催

【概要】

12月3日（火）OKB岐阜大学プラザにて、産学連携フェア2024を開催しました。このフェアは、岐阜大学の教員が研究成果を発表し、企業の皆様とその成果を共有する場として、2016年から毎年開催されているもので、今年も多くの企業の皆様にご参加いただきました。

今回のイベントは、産学連携フェアと岐阜大学協力会の2部構成としており、第1部では「地域との産学連携の拡大を通じて、新たな価値を創造し地方創生の実現を目指す」をテーマに、本学が地域の中核大学となるべく「地域の新たな価値の創造と知識集約型社会への変革」を目指し、知的成果の社会還元というミッションの実現に向け、企業の皆様とともに社会実装を目指した研究を推進する共創型社会実装大学への変革を進めるなか、工学部から3名、応用生物科学部から2名の教員が登壇し、特色ある研究の紹介を行いました。

第2部では、岐阜大学発ベンチャーにも認定されているサグリ株式会社 代表取締役（CEO）の坪井 俊輔氏をお招きし、「衛星データとAIで農業と環境の課題を解決する 岐阜大発インパクトスタートアップとして」と題して特別講演を行いました。

これを機に、本学と地域の皆様との産学連携がより一層強化されることを願っております。



挨拶の様子

日本学術会議中部地区会議学術講演会 「性はどうやって決まる？」を開催

【概要】

2024年12月6日（金）、岐阜大学において、日本学術会議中部地区会議との共催で学術講演会「性はどうやって決まる？」を開催しました。日本学術会議は、日本の科学者コミュニティを代表する機関として、社会に向けた提言や国際交流、科学リテラシーの普及活動において重要な役割を果たしています。

開会にあたり、日本学術会議副会長の日比谷潤子先生よりご挨拶をいただきました。日比谷先生は、講演会のテーマである「性」に関する議論の重要性を強調され、本講演会が多くの学びの場となることへの期待を語られました。

冒頭では、日本学術会議中部地区会議代表幹事を務める高田広章氏より、日本学術会議の役割と地域での学術活動の意義についてお話をいただきました。また、中部地区科学者懇談会幹事長の松田正久氏からは、中部地区科学者懇談会の活動報告があり、地域社会と科学者をつなぐ具体的な取り組みが紹介されました。さらに、本学地域科学部の山本公德教授が第192回日本学術会議総会の傍聴報告を行い、学術界が抱える課題とその解決に向けた取り組みについて共有しました。

続いて、学術講演会の一つ「どうぶつの生物学的な性 -性決定遺伝子SRYについて-」では、本学応用生物科学部共同獣医学科の宮脇慎吾准教授が、動物の性がどのように決定されるかを生物学的な視点から解説しました。宮脇准教授は、哺乳類の性決定において中心的な役割を果たすSRY遺伝子の研究成果や、その進化の過程を具体的なデータを交えながら紹介しました。さらに、最先端の遺伝子編集技術による新たな発見が今後の研究にどのような影響を与えるかについて述べました。

また、他の講演では、甲殻類の雌雄同体のメカニズムや、性同一性障害をめぐる社会的課題、トランスジェンダーの人々によるスポーツ参加など、多岐にわたる視点から「性」をめぐるテーマが取り上げられました。理系・文系を横断する視点からの議論は、学術的な理解を深めるとともに、多様性を尊重する社会の形成に向けた重要な示唆を与えてくれるものとなりました。

岐阜大学は、「学び、究め、貢献する大学」として、質の高い研究とその成果を地域社会や広く社会全体へ還元し続ける使命を担っています。今後も、多様性と学術の進歩を推進し、地域から世界へと貢献できる大学であり続けるよう努めてまいります。



開会挨拶（吉田学長）



開会挨拶（日比谷氏）

日本学術会議中部地区会議学術講演会
「性はどうやって決まる？」を開催



宮脇准教授による講演



学術講演会の様子



司会を務めた大藪副学長

【メディア掲載】

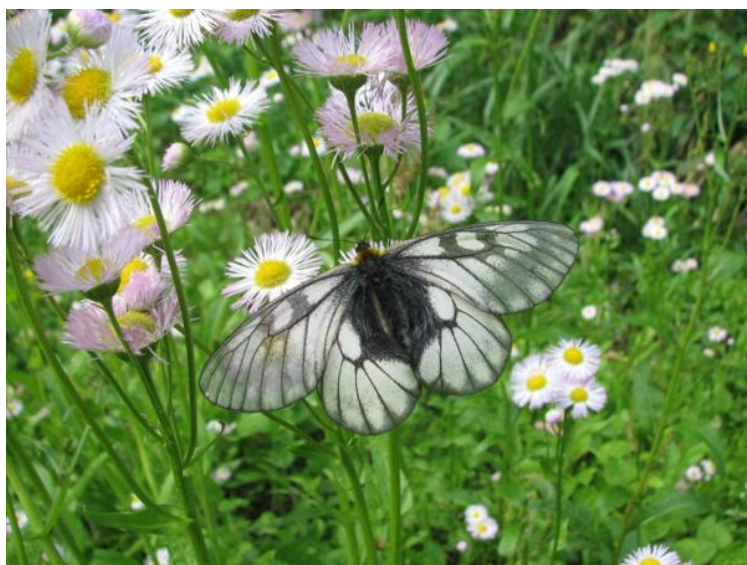
掲載日	新聞社名	内容
2024/12/8	中日	性の決定 多面的に理解を 社会づくりに役立てて 岐阜大 で研究者ら講演 ～応用生物学部 宮脇慎吾 准教授、応 用生物学部 長縄秀俊 特別協力研究員、保健管理セン ター 深尾琢 教授～

ウスバシロチョウの中国大陸からの伝播ルートと 日本国内の地域性を高解像度な集団遺伝解析によって解明

【概要】

岐阜大学応用生物科学部の土田浩治教授・岡本朋子准教授、岐阜大学大学院修了生の田村英之・野田智明・林美紀子・岩田典子・横田侑子・村田雅紀・立松千智・中秀司（現 鳥取大学農学部准教授）・加藤貴範、昆虫愛好家の寺章夫氏と小野克己氏のグループは、日本では北海道から中国地方と四国地方まで分布するウスバシロチョウ（ウスバアゲハ）のDNAを使って、その遺伝的多様性を高解像度に分析しました。その結果、ウスバシロチョウは300万年前に中国大陸の系統から分岐し、朝鮮半島もしくは黄海を経由して日本列島に広がったと推定されました。日本列島で最も古い系統は100万年前に分岐した中国・四国地方の系統であり、60万年前に西日本系統と東日本系統が分岐したと推定されました。また、現在の日本列島には少なくとも5つの遺伝的な集団が存在し、それぞれの集団の代表的な境界は、津軽海峡に相当するブラキストン線、糸魚川―静岡構造線に並行に走る線、琵琶湖、中国山地等であることが明らかとなりました。

本研究成果は、2024年12月30日に分子系統学の国際誌であるMolecular Phylogenetics and Evolution誌のオンライン版で発表されました。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/1/9	日刊工業	ウスバシロチョウ 300万年前に中国から渡来 岐阜大教授ら解明 ～土田浩治教授ら～

第2回アカデミックサミットを開催

【概要】

1月16日（木）、OKB岐阜大学プラザにて、第2回アカデミックサミットを開催しました。「アカデミックサミット」とは、本学の次世代研究者と大学執行部との懇談会として位置づけられているものです。

2回目の今回は、学部長等や、次世代研究者としてJST創発的研究支援事業（創発事業）採択者やG-YLC教員、Gユニット教員にも参加対象者を拡大して開催しました。文部科学省研究振興局学術研究推進課の加藤久乃専門官をお招きし、創発事業の概要説明や、本学の同事業採択者との意見交換などが行われました。

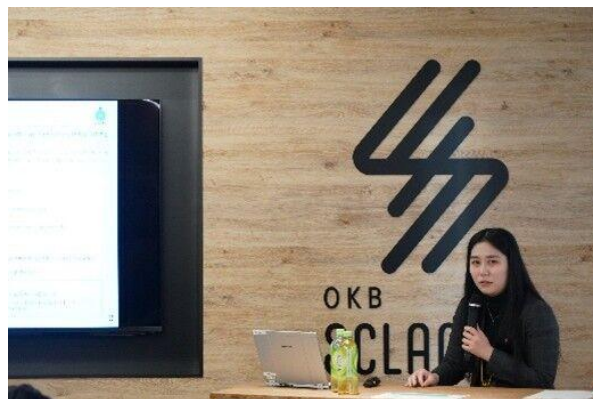
吉田学長からは、岐阜大学は地域に根ざし、日本トップクラスの地域中核大学を目指しており、特に次世代を担う多様な研究人材の確保と若手・女性研究者の育成に力を入れていることを述べ、また、創発事業においてはこれまでに7名の採択実績があり、採択者には大学から様々な支援が行われていることを紹介しました。加藤専門官からは、創発事業の説明として、多様なバックグラウンドを持つ研究者からの応募を期待していることや、大学や学部による申請者へのサポートに対して求めていることなどが説明されました。

今回のアカデミックサミットは、文部科学省の担当者と大学関係者、次世代研究者が一堂に会し、直接意見交換や研究紹介を行う貴重な機会となりました。

岐阜大学は、質の高い研究を実践し、その成果を地域に還元することに取り組んでおり、今後もこのような機会を通じて、次世代研究者の育成を推進してまいります。



学長による挨拶



加藤専門官による事業概要説明



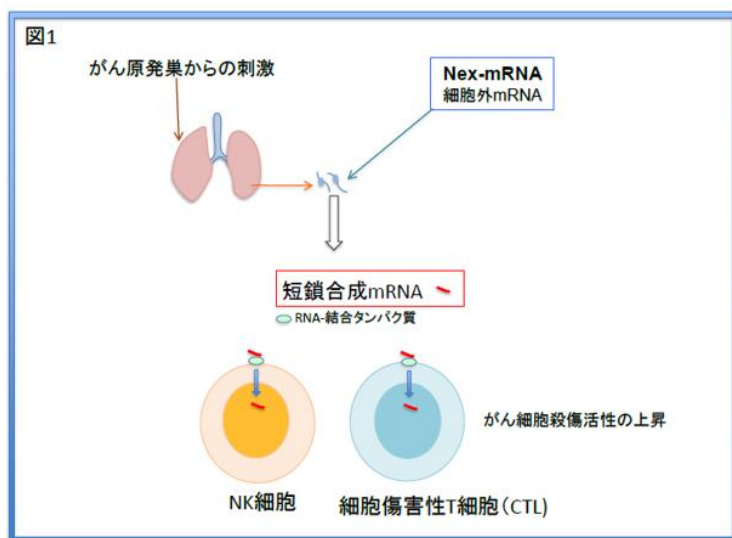
参加者による集合写真

抗転移薬の開発—短鎖合成RNAは 新しいタイプのがん転移抑制剤となりうる

【概要】

岐阜大学応用生物科学部 上野義仁教授と信州大学先鋭領域融合研究群 バイオメディカル研究所 平塚佐千枝教授らの研究グループは、細胞外に存在するメッセンジャーRNA (mRNA)のうち、特別な配列をもつものは、免疫細胞の表面の受容体に結合することにより、そのがん転移抑制能を向上させることを見出していました。しかしながら、天然のmRNAは体内ではすぐに分解されてしまうという欠点がありました。そこで、活性化に必要な短い配列を同定するとともに、安定化修飾を施したmRNAを新たに合成し、マウス個体に投与したところ、がん細胞の肺転移を抑制することができました。この実験では合成mRNAを複数回投与してもサイトカインストームなどの副作用や免疫細胞の疲弊が見られないという利点があることがわかりました。さらに、がん患者からナチュラルキラー（NK）細胞や細胞傷害性T細胞(CTL)を単離し、合成修飾mRNAを用いて活性化すると、これらの細胞は活性化前よりも多くのヒトのがん細胞を殺傷することが確認できました。

なお、この研究の詳細は、2025年2月25日にシュプリングー・ネイチャー社の学術誌Nature Communications にオンライン掲載されました。



免疫細胞（NK細胞・細胞傷害性T細胞）は
短鎖合成mRNAによって活性化される

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/3/6	日刊工業	がん細胞 転移抑制 合成mRNA 免疫細胞を活性化 信州大・岐阜大 ～上野義仁教授～

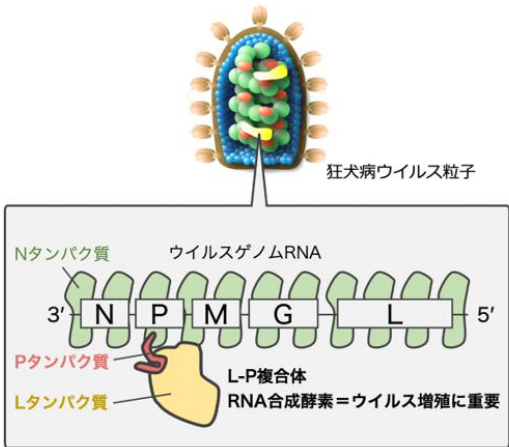
狂犬病ウイルスの弱点を発見：
RNA合成酵素の新規機能部位を発見
未だ存在しない狂犬病治療薬開発への足がかりに

【概要】

岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科の伊藤直人教授らの研究グループは、北海道大学大学ワクチン研究開発拠点の澤洋文教授、同大学人獣共通感染症国際共同研究所の佐々木道仁准教授、および五十嵐学准教授との共同研究で、狂犬病ウイルスLタンパク質のC末端領域の新たな役割を明らかにしました。

狂犬病ウイルスのLタンパク質は、Pタンパク質と結合することでRNA合成酵素として機能し、ウイルス増殖の中心的な役割を担います（図1）。したがって、Lタンパク質とPタンパク質の結合（L-P結合）を阻害することは、未だ存在しない狂犬病治療薬開発において極めて有望な戦略となります。Lタンパク質のC末端領域は、Pタンパク質との結合面を形成することが報告されています。一方で、結合面を形成しない部位がどのような役割をもつかは不明でした。本研究では、C末端領域のPタンパク質との結合面ではない部位がLタンパク質のPタンパク質結合能、RNA合成酵素機能、および安定性のそれぞれに重要となることを明らかにしました。この成果は、狂犬病治療薬開発における基盤情報となることが期待されます。

本研究成果は、日本時間2025年3月11日23：00に米国微生物学会誌『Journal of Virology』のオンライン版で発表されました。



（図1）狂犬病ウイルス粒子中のL-P複合体の模式図

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/3/12	中日	狂犬病ウイルスに弱点 岐阜大研究グループなど タンパク質の新たな特徴発見 ～応用生物科学部 伊藤直人教授ら～
2025/3/13	日刊工業	狂犬病薬開発の糸口 ウイルス増殖抑制 岐阜大など、標的候補発見 ～応用生物科学部 伊藤直人教授ら～

国際化

- ・「郡上踊りワークショップ（日本文化ワークショップ）」を開催
- ・ティムラズ・レジャバ駐日ジョージア特命全権大使が本学を訪問
- ・「留学生と日本人学生のための能楽(能・狂言)ワークショップ」を開催
- ・東ティモール国立大学工学部教官が吉田学長を表敬訪問
- ・モロッコのラバト国際大学と大学間学術交流協定を締結
- ・シーナカリンウィロート大学学長等が本学を訪問
- ・GU-GLOCALシンポジウム「世界に翼を広げたら」を開催
- ・2024年度日本語・日本文化研修留学生の修了論文発表会を開催
- ・駐日東ティモール特命全権大使が本学を訪問
- ・インド工科大学の研究者2名によるセミナーを開催
- ・駐日リトアニア大使特別講演会を開催
- ・モンゴル生命科学大学学長らが本学を訪問
- ・スブラス・マレット大学と共催で気候変動に関する国際会議を開催
- ・名古屋米国領事館首席領事が本学を訪問
- ・臨沂大学党委員会書記らが本学を訪問
- ・岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2024を開催
- ・「十二単の着装と体験－日本の民族衣装－」を開催
- ・ジョイント・ディグリープログラム ウィンタースクールの閉校式を挙行
- ・シビ・ジョージ駐日インド共和国大使が岐阜大学を訪問
- ・第2回C²-FRONTS国際連携推進連絡会を開催
- ・ヴィータウタス・マグヌス大学アジア研究センター長らが本学を訪問

「郡上踊りワークショップ（日本文化ワークショップ）」を開催

【概要】

本学日本語・日本文化教育センター（日文センター）は、2024年5月29日（水）、日文センター和室において、ユネスコ無形文化遺産であり国重要無形民俗文化財に指定されている「郡上踊り」のワークショップを開催しました。当日は、アメリカ、インド、韓国、タイ、中国、フランス、ベトナム、ポーランドからの約30人の留学生が参加し、日本の伝統文化を体験しました。

留学生たちは、ワークショップの始まりに先立ち、美濃市の着付けグループの方々に浴衣の着付けをしてもらいました。色とりどりの浴衣を身に着け、皆嬉しそうに浴衣姿を楽しんでいました。

ワークショップでは、郡上市から3名の講師をお招きし、郡上踊りの代表的な2曲「かわさき」と「春駒」を教わりました。留学生たちは、手の動きや足の動きを丁寧に学び、真剣に取り組みました。休憩時間の間も友だち同士で教え合うなど練習に余念がなく、その熱意と上達ぶりは講師の方々を驚かせるほどでした。ワークショップ最後には、楽しくそして真剣に踊った留学生6名が選ばれ、郡上ゆかりの記念品が手渡されました。このワークショップは、留学生にとって日本や岐阜の文化を感じる貴重な機会となりました。

岐阜大学は今後もこのような文化交流の場を積極的に提供していきます。



「かわさき」ポーズで集合写真



「かわさき」を習う留学生たち



「春駒」を踊る留学生たち



踊りの講師と選ばれた踊り子たち

ティムラズ・レジャバ駐日ジョージア特命全権大使が 本学を訪問

【概要】

2024年6月3日（月）、ティムラズ・レジャバ駐日ジョージア特命全権大使及びダヴィド・ゴギナシュヴィリ専門分析員が本学を訪問しました。

ティムラズ・レジャバ大使及びダヴィド・ゴギナシュヴィリ専門分析員は、吉田和弘学長、リム・リーフ副学長、小山博之グローバル推進機構長、教学推進・学生支援機構 神酒太郎准教授と昼食を取りながら意見交換の後、全学共通教育科目「プレゼンテーション」において、特別講師として講義を行いました。

本学学長らとの意見交換においては、本学の概要や研究拠点、国際活動に関する紹介を行い、日本とジョージアのこれまでの関係や大使ご自身の経歴等にも触れながら、本学との今後の交流の可能性について話し合われました。その後の講義では、受講した学生達が同国の文化について理解を深めると共に、ティムラズ・レジャバ大使の活発な発信力に刺激を受けました。

今回の訪問を機に、今後、同国の大学との交流が開始されることが期待されます。



ティムラズ・レジャバ駐日ジョージア特命全権大使（左）と吉田学長



集合写真



意見交換の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/6/4	岐阜	ジョージア、教育交流に意欲 駐日特命全権大使が知事訪問 ～ティムラズ・レジャバ駐日特命全権大使（岐阜大で日本語表現の講義に臨む）～

「留学生と日本人学生のための能楽(能・狂言)ワークショップ」を開催

【概要】

本学グローバル推進機構 日本語・日本文化教育センター（以下、「日文センター」という）は、2024年7月10日（水）に「留学生と日本人学生のための能楽(能・狂言)ワークショップ」を開催しました。日文センターでは、学生たちが能楽を通じて日本の伝統文化への理解と関心を深め、国際交流と異文化理解を促進することを目的として、2005年度からプロの能楽師をお迎えして能楽（能・狂言）ワークショップを行っています。6月から本学に留学しているサマースクール参加学生を含む35名の参加者が集い、日本の伝統文化を堪能しました。

ワークショップでは、講師として観世流シテ方の味方團先生および田茂井廣道先生（以上能の講師）、大蔵流狂言方の茂山忠三郎先生および山口耕道先生（以上狂言の講師）の計4名をお迎えしました。

仕舞「岩船」の実演を皮切りに、能楽の歴史及び能と狂言の面や所作（泣き方・笑い方）の違い、能楽の音楽（楽器と謡）、狂言の「笑い」の表現、狂言「寝音曲」の鑑賞、能装束の着付けといった盛りだくさんの内容が、次々と展開されました。学生たちにとって、実際に謡や所作を体験したり、本物の面や楽器や能装束を間近に見たりする貴重な機会となりました。事後アンケートでの満足度も高く、「もっと実演を多く見たいと思うようになった」など興味の高まりを示すコメントがありました。

岐阜大学は今後もこのような文化交流の場を積極的に提供していきます。



能と狂言の面



能楽の楽器演奏



能装束の着付け



集合写真

東ティモール国立大学工学部教官が吉田学長を表敬訪問

【概要】

2024年7月10日（水）、本学工学部と学部間協定を結んでいる東ティモール国立大学工学部の教官7名が吉田学長を表敬訪問しました。

東ティモール国立大学工学部の教官は、2024年6月2日から7月11日まで、国際協力機構（JICA）のプロジェクトの一環として、本学工学部にて研究・教育に関する情報交換や今後の協力について話し合うため来学しました。

表敬では、前石油鉱物資源大臣のビクトール・ソアレス教官と電力庁長官を兼務するジェロニモ・ルーベン教官から、2002年から続く東ティモール国立大学工学部と本学工学部との交流の歴史や内容、それによる成果などの紹介がありました。また、吉田学長からは、今後の研究・教育に関する交流のさらなる発展とその成果が東ティモール社会に貢献していくことへの期待が示されました。

今回の表敬訪問を機に、両大学工学部の交流がさらに発展することが期待されます。



集合写真（前列左から、ルーベン教官、吉田学長、ソアレス教官）

モロッコのラバト国際大学と大学間学術交流協定を締結

【概要】

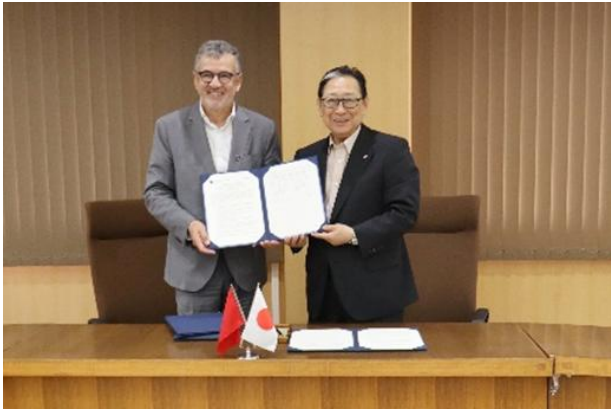
2024年7月8日(月)、岐阜大学は、モロッコのラバト国際大学（UIR）と大学間学術交流協定を締結しました。

この協定締結は、2023年5月にラシャッド・ブフラル 駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪れた際に、本学とUIRの交流を提案されたことが契機となりました。同年12月には吉田学長らがUIRを訪問し、学術交流の可能性について協議を行い、エネルギー工学分野での共同研究を中心に交流を進めることとなり、今回の協定締結が実現しました。

協定締結の署名式には、本学の吉田学長、UIRのヌレディン・ムアディブ学長をはじめ、両大学の教職員が出席しました。署名式で吉田学長は「今回の大学間学術交流協定締結を通じて、学生交流や共同研究においてより重層的な交流が始まることを期待している」と述べました。また、ムアディブ学長は「今回の協定締結、そして本日の岐阜大学の訪問を通じて、学生交流や博士課程の指導、共同研究等を発展させていきたい」と述べました。

署名式の後には、UIR側の教員3名が研究内容を紹介し、本学からは糖鎖生命コア研究所、地方創生エネルギーシステム研究センター及び航空宇宙生産技術開発センターがそれぞれの取り組みを紹介しました。その後、これらの研究所及びセンターを実際に見学し、交流を深めました。

今回の訪問及び大学間学術交流協定の締結を機に、本学はUIRとの連携をより一層深め、今後の研究交流を促進するなどさらなる国際化に向けた取り組みを推進していきます。



協定締結署名式の様子
(左から) ムアディブ学長、吉田学長



学内見学（航空宇宙生産技術開発センター）

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/7/11	中日	モロッコと県 交流の深化を 「清流の国文化祭」 期間中 可児で催し移り 「観光の促進に」 期待 ～吉田和弘 学長～

シーナカリンウィロート大学学長等が本学を訪問

【概要】

2024年7月17日(水)、本学と部局間学術交流協定を締結しているタイのシーナカリンウィロート大学（SWU）のソムチャイ・サントィワタナクンル学長をはじめとする教職員10名と学生16名が本学を訪問しました。本学とSWUは、2015年3月に部局間学術交流協定（協定部局：教育学部）を締結し、特別支援教育や障がい者の農業分野での就労支援等に関する分野を中心に研究者交流を行っています。

SWU一行は、主に美術教育、技術教育、音楽教育そして保健体育教育に関連する施設をツアー形式で見学し、学生が自身の教育手法や技能を向上させるために利用している空間や、学生や教員が開発した最新の教材教具について体験しました。特に、音楽棟では、音楽教育講座 仲田久美子准教授によるピアノ演奏を鑑賞しながら、大合唱室の音響を体験しました。

その後、岐阜フィールド科学教育研究センターの施設見学を行い、障がいのある職員によるトマトの栽培管理や収穫作業、温室栽培技術や栽培時期についても説明を受けました。SWUの学生たちは実際の農作業を見学し、障がい者がどのように農業に従事し、自立を目指しているかを学ぶことができ、「トマトが高値となる、冬季に収穫できるよう栽培していることに驚いた」、「障がい者の雇用に関して、その意義と可能性を理解した」などの感想が寄せられました。

また、今回の訪問には、同じくSWUと交流を行っている中部学院大学短期大学部の片桐史恵学長らも同席し、三大学間での更なる連携の可能性が話し合われました。

本学は今後もSWUとの連携をより一層深め、今後の教育・研究交流を推進していきます。



集合写真



音楽棟大合唱室の見学



岐阜フィールド科学教育研究センターの施設見学

GU-GLOCALシンポジウム「世界に翼を広げたら」を開催

【概要】

2024年7月18日（木）、岐阜大学グローバル推進機構は、大学生・高校生の積極的な国際化プログラムへの参加を促すことを目的として、シンポジウム「世界に翼を広げたら」を開催しました。本シンポジウムは2部のセッションで構成され、各セッションでは世界で活躍するメインスピーカーをお招きしました。進行はポッドキャストプロデューサー 竹村由紀子氏が務め、吉田和弘学長と脳科学者で本学客員教授の茂木健一郎氏との鼎談形式で行われました。

セッション1は、インドを拠点に企業のインド進出支援等を行うインフォブリッジ・ホールディングス・グループ代表取締役の繁田奈歩氏を迎え、「平均年齢28歳！若者大国インド」をテーマに行いました。繁田氏は、インドで事業を開始した経緯や発展著しいインド社会、インドの若者の現状などについて語りました。特に、インド人と働く上で感じた彼らの自己肯定感の高さや、失敗を恐れない姿勢を紹介し、日本の若者達にも、何かを始める際に最初から完璧を目指すのではなく、とりあえずやってみるという精神を持つことの大切さを伝えました。

セッション2は、ニューヨークを拠点に世界を代表するブランドのデジタル戦略等を手がけるクリエイティブディレクターのレイ イナモト氏を迎え、「海外で輝くためのマインドセット」をテーマに行いました。イナモト氏は中学卒業まで岐阜県大野郡清見村（現：高山市）で過ごし、その後高校進学をきっかけに海外へ飛び出し、米国での大学進学・就職を経て現在に至るまでの経験について語りました。特に、自分の興味があることや強みを見つけるために、専門を無理に絞らず広く学ぶこと、また海外留学に興味がある場合は、日本の教育レベルは高いため、気後れすることなく挑戦してほしいというメッセージを学生たちに伝えました。

セッション後の質疑応答では、各登壇者が会場参加者からの質問や相談に熱心に答え、時には自身の体験も交えて勇気づける場面も見られました。

当日は、会場に264名が参加し、Glocal Lesson*1 のリアルタイム配信からは188名が参加し、登壇者達の熱い思いに多くの参加者が耳を傾けました。Glocal Lessonでは、この鼎談の様様をオンデマンド配信しています。

本学はインド工科大学グワハティ校と実施する修士、博士課程のジョイント・ディグリープログラム（JDP）*2 を中心に、東海地域とインドとの産官学分野での連携を進めています。本シンポジウムをきっかけとし、JDPを始めとする各種プログラムへの学生の参加が促進されることが期待されます。

今後も、グローバル推進機構では、海外へ一歩踏み出す学生を応援し、大学及び地域の国際化を推進するイベントを行っていきます。

*1 グローバル推進機構が提供するオンライン学習プラットフォーム
(<https://www.gu-glocal.com>)

*2 国際的対応力を備えた産業人および研究者の養成を目的として海外協定大学と共同で開設する教育プログラム。留学を伴う国際的な教育環境の中で研究活動を行い、在学期間を延長することなく、2大学による国際共同学位を取得することができます。

GU-GLOCALシンポジウム「世界に翼を広げたら」を開催



セッション1の様子



セッション2の様子



全体の質疑応答、鼎談の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/8/7	岐阜	恐れず海外挑戦を 岐阜大で人材育成シンポ ～吉田和弘 学長～

2024年度日本語・日本文化研修留学生の 修了論文発表会を開催

【概要】

本学日本語・日本文化教育センターは、2024年8月4日（日）、日本語・日本文化研修留学生（以下「日研生」）による修了論文発表会を対面・オンライン併用で開催し、学内外から約40人が参加しました。今年は、タイ、中国、ベトナム、ポーランドから本学に留学している第23期日研生6人が発表を行いました。

日研生は、毎年10月から翌年8月までの約1年間、大使館推薦や大学推薦の国費外国人留学生として、また学術交流協定校からの交換留学生として本学に留学し、主に日本語と日本文化について学び、その集大成として修了論文を執筆します。論文のトピックはそれぞれの留学生が興味のあるものを選び、教員の指導と本学の日本人学生が務める論文チューターのサポートを受けながら論文を完成させます。

第23期日研生も、日本と自国の言語や文化についてそれぞれがユニークな切り口で調査・分析・考察し、力を込めて論文を書き上げました。発表会では、パワーポイントを使用しながら日本語で堂々と発表し、参加者からの質問にも的確に答えていました。また、オンラインでは、日研生の所属校教員や学生、母国の家族も視聴し、温かく有意義な会となりました。

日研生は、8月22日（木）に行われる修了式に出席し、帰国後はそれぞれが所属する大学に復学し勉学に励みます。修了生の中には、本学や他大学の大学院への留学や、日本での就職のため再来日する学生が多数います。成長した修了生との再会を楽しみにしています。

本学は、引き続き多様な国からの留学生を受け入れ、国際交流を推進していきます。

【発表者及び題目（発表順）】

- スアンボーレ タンチャノク（タイ）
「日本人女性の前髪 一種類と印象」
- 栞 凱棋（ラン カイキ・中国）
「皮肉表現の多面性 一皮肉の分類及び日中皮肉の事例比較」
- 尹 婧禕（イン セイイ・中国）
「上野千鶴子ブームから見る中国の女性主義（フェミニズム）」
- グエン ファム トゥー ミン（ベトナム）
「日本とベトナムの水墨画の比較研究」
- 姚 政翼（ヨウ セイヨク・中国）
「「中国製日本語」についての考察
—岐阜大学の中国人日本語学習者を中心に—」
- ホイナツカ アリツィア マリア（ポーランド）
「ポーランドにおける日本の小説 一小説選択の傾向」

2024年度日本語・日本文化研修留学生の
修了論文発表会を開催



水墨画についての発表



「中国製日本語」についての発表



ポーランドにおける日本小説の発表



発表会終了後の集合写真

駐日東ティモール特命全権大使が本学を訪問

【概要】

令和6年8月26日（月）、イリディオ・シメネス・ダ・コスタ駐日東ティモール特命全権大使が本学に在籍する東ティモールからの留学生を激励するために本学を訪問し、また吉田和弘学長、小川武則医学部教授、高橋康宏工学部准教授との意見交換を行いました。

意見交換では本学の国際交流活動、国際協力機構（JICA）が実施するプログラムによる国際支援に関する紹介を行い、また東ティモールの自然・エネルギー・産業・大学教育等の話題に触れながら、協定大学である国立東ティモール大学と本学との交流における今後の展望などについて話し合われました。

今回の訪問を機に、同国の大学との学生・研究者交流の発展が期待されます。



イリディオ大使と東ティモールからの留学生、工学部教員との交流



集合写真

（左から小川教授、イリディオ大使、吉田学長、高橋准教授）

インド工科大学の研究者2名によるセミナーを開催

【概要】

2024年9月17日（火）に、岐阜大学で特別セミナー「化学、生物学、医学研究へのAIとITの応用に向けて」が開催されました。

このセミナーでは、インド工科大学グワハティ校(IITG)のChiranjib Sur博士、Karukriti Ghosh博士が、最新のAI技術を駆使した医療分野の研究成果を紹介されました。Ghosh博士は分子微生物学の分野やワクチン開発、抗菌薬耐性に関する研究を行われ、Sur博士はAI技術を用いた医療アプリケーションの革新に貢献されています。

セミナー後には学長室を訪れ、本学とインド工科大学が共同で進めているジョイント・ディグリープログラムに関する意見交換や今後のさらなる学術交流の発展について話し合いました。

これからも、岐阜大学はグローバルな学術ネットワークを活用し、研究と教育のさらなる発展を目指してまいります。



（左から）吉田学長、Ghosh博士、Sur博士、小山グローバル推進機構長

駐日リトアニア大使特別講演会を開催

【概要】

2024年10月29日（火）、岐阜大学グローバル推進機構は、岐阜大学講堂にて駐日リトアニア共和国特命全権大使 オーレリウス・ジーカス大使による特別講演会を開催しました。

本講演会は岐阜県主催の事業「リトアニアNOW2024」の一環として開催しました。冒頭の吉田学長による開会挨拶では、本学とリトアニアのこれまでの交流状況として、学術交流協定大学であるヴィータウタス・マグヌス大学及びカウナス工科大学との研究・学生交流や、2019年度にギターナス・ナウセーダ大統領による特別講演会を本学で開催したことなどを紹介しました。ジーカス大使は、2022年5月の大使就任前にはヴィータウタス・マグヌス大学のアジア研究センター長として在籍されており、2010年には本学と同大学の交流開始に尽力されました。ジーカス大使の本学への訪問は今回で5度目ですが、駐日リトアニア大使としての講演は今回が初めてとなりました。講演では、同国の地理的特徴、文化、歴史、現在のリトアニア社会やウクライナ支援などの現状について、丁寧な日本語で分かりやすく語り、学内外から参加した約200名の参加者が興味深く聞き入りました。また、参加者からは、リトアニアの高い食糧自給率や防衛・エネルギー政策、大手チェーンレストランと共同企画開発したリトアニア家庭料理についての質問が挙がるなど同国への高い関心が伺えました。

講演会終了後には、大使による著書へのサイン会及び学生・高校生約30名との交流会が行われ、リトアニアについての知見をさらに深める機会となりました。参加者からは、リトアニアという国について幅広い知識を得られたことや、現代日本との対比についての話を聞くことができ、非常に有意義だったという意見がありました。本講演会をきっかけに、学生・教職員・地域の方々のリトアニアに関する知識が深まり、本学とリトアニアの大学との交流がさらに促進されることが期待されます。

本学は今後も、多様な国の文化に触れる機会を提供し、学生・教職員・地域の方々が国際理解を深められるような活動を推進してまいります。



講演の様子



講演の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/10/31	中日	リトアニアもっと身近に ジーカス駐日大使 岐阜大で講演 母国は「勇気のある国」

モンゴル生命科学大学学長らが本学を訪問

【概要】

2024年11月8日(金)、モンゴル生命科学大学（MULS）のバダルチ・バーサンスフ学長らが本学を訪問しました。今回の訪問は、岐阜大学と連携に関する協定を締結している笠松町からのご紹介により実現したもので、笠松町は、一般財団法人日本礼儀作法協会を通してモンゴル生命科学大学と協定を締結しており、今回の訪問にも笠松町役場課長および一般財団法人日本礼儀作法協会代表理事らにご同席いただきました。

訪問当日は、リム・リーフ副学長（国際展開・多様性・ジェンダー(男女共同参画)(副)・図書館(副)担当）を表敬訪問し、お互いの大学紹介や、今後交流の可能性がある分野について話し合いました。

その後、岐阜大学内のキャンパスツアーを行いました。

本学は今後もMULSとの連携をより一層深め、今後の教育・研究交流を推進していきます。



集合写真

スブラス・マレット大学と共催で 気候変動に関する国際会議を開催

【概要】

岐阜大学大学院連合農学研究科（博士課程）は、11月6日（水）から8日（金）までの3日間、インドネシアのスブラス・マレット大学と共催で、「第10回 International Conference on Climate Change 2024」（ICCC: 気候変動に関する国際会議）を岐阜大学にて開催しました。今年は「気候変動、植物、健康」をテーマとして、対面とオンラインのハイブリッド形式で実施しました。

ICCCでは、はじめに本研究科の平松研究科長が開会挨拶を行い、その後、環境社会共生体研究センターの村岡教授が気候変動下における長期的森林生態系調査に関する基調講演を行いました。講演では、高山試験地で30年以上にわたり続けられてきた調査をもとに、気候変動が森林生態系に与える影響などについて解説しました。その他、千家前研究科長や千原元客員教授による招待発表などを実施し、3日間で対面56名・オンラインで66名が参加し、国際的な視点で多様な知見が共有されました。

また、ICCCと並行して、南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム(IC-GU12)による「IC-GU12 Roundtable Meeting 2024」（農学系博士教育国際連携円卓会議）が開催されました。9カ国21大学から25名のリエゾン教員らが対面・オンラインで出席し、博士課程教育における国際共同学位プログラム（コチュテル・プログラム）の導入について活発な意見交換が行われました。

11月7日（木）には、「UGSAS-GU Poster Presentation on Agricultural Science 2024」（農学分野に関するポスタープレゼンテーション）を行いました。学生28名が自身の研究成果を発表し、来場者による投票で4名がBest Presentation Award（最優秀発表賞）を受賞しました。

11月8日（金）には、希望者が高山市を訪れ、環境社会共生研究センター高山試験地と観測タワーを見学しました。参加者は2グループに分かれてそれぞれ見学し、地域の自然環境を肌で感じながら、研究の現場について学ぶ貴重な機会となりました。

本会議は、気候変動という地球規模の課題に対して、多国間で知見を共有し、次世代の研究者を育成する重要なステップとなりました。岐阜大学は、今後も国際的な連携を深化させ、持続可能な未来の構築に貢献してまいります。



農学系博士教育国際連携円卓会議の様子

スブラス・マレット大学と共催で気候変動に関する国際会議を開催



気候変動に関する国際会議 記念写真



ポスタープレゼンテーション



環境社会共生研究センター高山試験地

名古屋米国領事館首席領事が本学を訪問

【概要】

12月2日（月）、名古屋米国領事館のアンナ・ワン首席領事の表敬訪問を吉田学長が受けました。懇談の場では、岐阜大学と米国とのこれまでの学術・文化交流の歴史や今後の展望について、活発な意見交換が行われました。

本学は、サンディエゴ州立大学やノーザンケンタッキー大学、南フロリダ大学をはじめとするアメリカの大学と大学間および部局間で学術交流協定を締結しており、教育や研究を通じて長年にわたり密接な関係を築いてきました。今年1月には南フロリダ大学シミュレーションセンターとの研究者交流協定を締結し、医学分野での共同研究や人的交流の発展が期待されています。また、ノーザンケンタッキー大学とは教育学部の学生実習を通じた交流が続いており、昨年は同大学の国際教育センター事務局長が本学を訪問しました。

表敬訪問の後、ワン首席領事と本学の海外留学や渡航経験のある学生7名の交流会を行い、学生たちが海外で経験したことに関する疑問や、留学を通じて得た学びが現在の学生生活や将来設計にどのように影響しているかなど、多岐にわたる話題について意見交換が行われ、学生たちにとってはグローバルな視点を広げるとともに、国際的な経験を持つリーダーと直接対話することのできる貴重な機会となった様子でした。

本学は、アメリカの大学との協力関係をさらに深め、多様な分野での交流を今後も推進してまいります。



吉田学長らとの記念写真



学生交流会後の記念写真

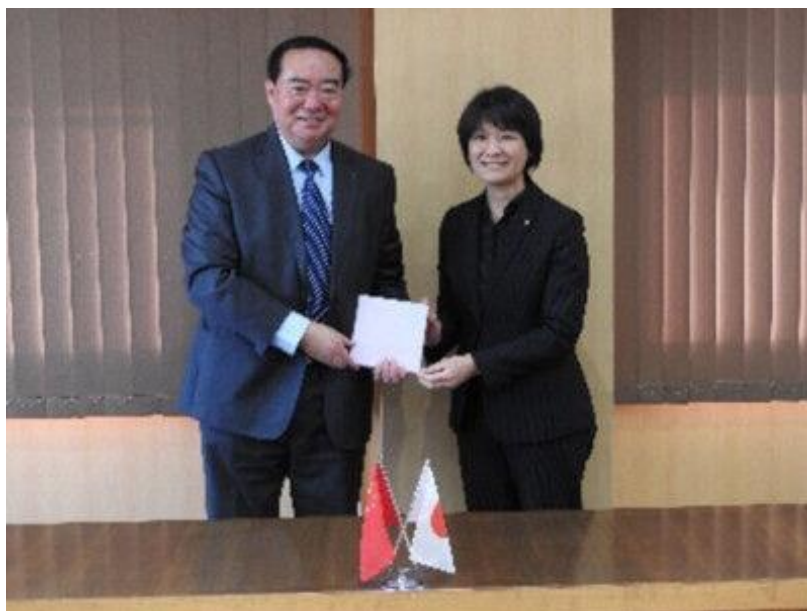
臨沂大学党委員会書記らが本学を訪問

【概要】

2024年12月3日(火)、中国山東省に位置する臨沂大学の王煥良党委員会書記らが本学を訪問しました。今回の訪問は、現在、臨沂大学の講師を務めている本学工学研究科修了生の協力によって実現し、両大学間の国際交流の促進や教育・研究分野での連携可能性を広げる機会となりました。

当日は、王党委員会書記らがリム・リーフ副学長を表敬訪問し、お互いの大学の概要や特色について情報を交換しました。特に、国際的な教育交流や研究連携など、交流の可能性がある分野について話し合いました。その後、工学部教員との懇談や学内キャンパスツアーを通じて、本学の教育・研究活動について理解を深めました。

本学は今後、臨沂大学との関係をさらに発展させ、大学間の交流を推進していきます。



王党委員会書記とリム副学長

岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2024を開催

【概要】

12月6日（金）糖鎖生命コア研究所において、「多文化共生を促進するジョイント・ディグリー」をテーマに、岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2024を開催しました。

メインシンポジウムで吉田学長は「ジョイント・ディグリープログラムは、多文化共生を促進する重要な手段の一つと考えており、異なる背景を持つ学生が交流し、共に学ぶことで、真の国際性を身につけた人材が育成されると確信している」と述べました。また文部科学省 高等教育局 武田 専門官による基調講演のほか、ジョイント・ディグリープログラム（JDP）修了学生からのメッセージ紹介、JDP実施大学(立命館大学、京都工芸繊維大学、岐阜大学、名古屋大学)による事例紹介およびパネルディスカッションを通じて、これからの多文化共生社会におけるJDPの果たしうる役割について、各大学の取り組みや成果が共有されました。

今後も各大学の連携が、さらなる発展に繋がっていくことを期待しています。



メインシンポジウムにて挨拶を述べる吉田学長



武田専門官によるコメントの様子



パネルディスカッションの様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/8	中日	共同学位の普及 考えるシンポ 岐阜大 ～「ジョイント・ディグリー・プログラム（JDP、共同学位）」の普及に向けたシンポジウム～

「十二単の着装と体験－日本の民族衣装－」を開催

【概要】

本学日本語・日本文化教育センター（以下日文センター）は、2024年12月11日（水）、日文センター和室において、日本文化ワークショップ「十二単の着装と体験－日本の民族衣装－」を開催しました。

当日は、インド工科大学グワハティ校とマレーシア国民大学から受け入れているウィンタースクール参加学生をはじめ、日文センター所属の日本語・日本文化研修コースの留学生（以下日研生）や社会文化プログラムの留学生等、本学に在籍する留学生や日本人学生及び教職員など、50名以上が参加しました。

本ワークショップでは、和服の着付けを専門に指導されている伊藤慶子（豊装慶）氏をはじめとした5名の講師陣によって指導が行われました。箏の生演奏も披露され、荘厳で優美な雰囲気の中、参加者たちに十二単の魅力が伝えられました。また、日文センターの土谷教授からは、日本語・英語の両言語で日本の歴史や十二単の基礎知識の説明があり、その後、着付けモデル希望者の中から選ばれたベトナム出身の日研生チャン・ティ・キム・トアさんが、小袖と長袴を身にまとい、化粧の下準備をして会場に入室しました。

講師は、作法に従い「御方様」であるチャンさんに敬意を表しながら、単、五衣、表着、唐衣、裳の順に着付けをしました。参加者からは「十二単は毎日着ていたのか」「どのように保管していたのか」「トイレはどうしたのか」等の多くの質問が次々と寄せられ、講師から丁寧な説明がありました。

十二単は重ねたままスルツと簡単に脱げ、その形を維持することができます。これを「空蟬」といいます。希望者は男女問わずこの空蟬の中に入り、重さを実感し、しきりと友だち同士で写真を撮り合っていて楽しんでいました。

参加者からは、日本の伝統文化の奥深さや美しさを堪能することができたとの感想が寄せられるなど、日本文化教育の充実につながる有意義な機会となりました。今後も、日本文化教育の充実を図るため、参加者が楽しみながら日本文化を理解することができるよりよい体験の場を提供していきます。



着付けの様子



完成した着付け



ウィンタースクール参加学生と着付けモデル



記念撮影

ジョイント・ディグリープログラム ウインタースクールの閉校式を挙行

【概要】

12月20日、グローバル推進機構は、インド工科大学グワハティ校（IITG）およびマレーシア国民大学（UKM）と共同で実施しているジョイント・ディグリープログラム（JDP）の一環で行っているウインタースクールプログラムの成果報告会および閉校式を開催しました。

このプログラムは、異なる文化や学問領域に触れる機会を提供し、JDPへの参加を促進することを目的とするもので、今年度はIITGから6名、UKMから2名の学生が参加し、約2週間にわたって岐阜大学で学びました。

成果報告会では、学生たちがプログラムを通じて学んだことをポスターセッション形式で発表し、吉田学長が1位と2位の学生を選出しました。その後の閉校式では、参加学生に修了証書を授与し、吉田学長は学生たちの努力と成果を称賛するとともに、プログラムを通じて日本の文化やビジネス環境に接したことが、今後の学問的なキャリアに繋がることを期待していると述べました。

このようにして、2024年のウインタースクールプログラムは無事に終了し、参加者全員が貴重な経験を得ることができました。



ウインタースクール参加者との記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/20	中日	加納高の2年生が短期留学生と交流 岐阜大 ～短期留学で岐阜大を訪れているインド工科大グワハティ校とマレーシア国民大の学生8人～

シビ・ジョージ駐日インド共和国大使が岐阜大学を訪問

【概要】

12月20日、シビ・ジョージ駐日インド共和国大使が岐阜大学を訪問し、吉田和弘学長、小山博之グローバル推進機構長、三輪真一特任教授、野々村晴子学務部長と岐阜大学とインドとの交流、国際的な教育・研究活動のさらなる推進や留学生や研究者の受け入れ・派遣の拡大等について意見交換を行いました。

学長訪問後、ジョージ大使は本学のインド人学生・教職員及び卒業生の計18名との交流会に出席しました。この交流会では、インドと日本の教育や研究に関する意見交換が行われ、学生や卒業生にとって貴重な機会となりました。

岐阜大学では、インド工科大学グワハティ校との日本唯一のジョイントディグリープログラム（JDP）を通じて、これまでに21名の修了生を輩出してきました。このプログラムを軸に、短期留学プログラムなど多様な教育機会を提供しており、毎年インド人学生が本学で学び、研究を行っています。本学の取り組みは日印両国の友好関係や産業振興、研究活動において着実な成果を上げております。

また、本学は、2025年3月にはインド・グワハティでJDPシンポジウムを開催する予定であり、日印両国の教育機関や地域間の連携を一層強化していく計画です。

今回のジョージ大使の訪問を通じ、岐阜大学はインドの大学等との交流と連携をさらに深化させ、教育・研究分野において新たな発展を目指していきます。



シビ・ジョージ駐日インド大使との記念撮影



岐阜大学に留学中のインド人学生と記念撮影

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/21	岐阜	インド大使、岐阜商議所訪問 印日関係の強化確認 ～吉田和弘 学長～
2024/12/21	中日	インド大使 岐阜商議所に 県内でビジネスセミナー提案 ～吉田和弘 学長～

第2回C²-FRONTS国際連携推進連絡会を開催

【概要】

1月24日、岐阜大学主催の「第2回C²-FRONTS国際連携推進連絡会」を開催し、本学のほか信州大学、静岡大学、名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学、豊田工業高等専門学校の国際担当副学長・副総長・副校長の皆様にご参加いただきました。

今回の連絡会では、慶應義塾大学の井上雅裕先生にオンラインでご参加いただき、「マイクロクレデンシャルの国内外の最新動向と国際連携」と題して、学習内容を細分化し、細分化された単位ごとに個別に認証するマイクロクレデンシャルの国内外における発展や、各機関が今後どのように対応すべきかについて詳しくご解説いただきました。特に、マイクロクレデンシャルを活用した国際連携の可能性や、導入における課題についての示唆は、参加者にとって非常に有益なものとなりました。

連絡会は和やかな雰囲気の中で進められ、各機関の国際交流に関する取り組み状況や課題、他機関との連携に関する要望や展望について活発な意見交換が行われました。

岐阜大学では、今後も国際連携を推進するため、関連機関との情報共有を深め、さらなる発展に向けて取り組んでまいります。



リム副学長による開会挨拶



閉会後の記念撮影

ヴィータウタス・マグヌス大学 アジア研究センター長らが本学を訪問

【概要】

2025年1月29日、ヴィータウタス・マグヌス大学（リトアニア）アジア研究センターのアルヴィダス・クンピスセンター長、シモナ・クンペ研究員、名城大学の稲葉千春教授が本学を訪問し、吉田 和弘学長、リム リーフ副学長（国際担当）、小山博之グローバル推進機構長、野々村 晴子学務部長らと両大のこれまでの学術・文化交流の歴史や今後の展望などについて、意見交換を行いました。特に、学生や研究者の交流をさらに深め、互いの連携を強化することや学生交流においては夏季休暇の時期の相違や資金的な支援が難しいことが課題となっている現状などについても話し合われ、非常に有意義な懇談の場となりました。

今回の訪問を通じては、両大学の交流がさらに促進されることが期待され、今後も本学は、学生や研究者の交流を通じて、国際的な連携を深めてまいります。



アルヴィダス・クンピスセンター長とシモナ・クンペ研究員



懇談後の記念撮影

社会貢献



- ・ 恵那市と連携に関する協定を締結
- ・ 清流の国ぎふ防災・減災センターがグランプリ・レジリエンスジャパン推進協議会長賞を受賞
- ・ 八百津町で次世代地域リーダー育成プログラムの学生が料理体験イベントを開催
- ・ 大藪千穂副学長（教育学部教授）が消費者支援功労者表彰「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞
- ・ 東白川村と連携に関する協定を締結
- ・ ぎふフューチャーセンター（岐阜県子育て支援課との共同開催）を実施
- ・ 七宗町と連携に関する協定を締結
- ・ 大藪副学長が藤井美濃加茂市長と懇談
- ・ 「サマースクール2024 in各務原」成果発表会を開催
- ・ 岐阜北高校で探求人ガイダンス「環境報告書を読んでみよう」を実施
- ・ 岐阜県地域学校協働活動フォーラム2024を実施
- ・ 富加町と連携に関する協定を締結
- ・ FC岐阜「パートナー企業展」に岐阜大学ブースを出展

社会貢献



- ・ 可児市と連携に関する協定を締結
- ・ アピ株式会社への紺綬褒章伝達式を執行
- ・ 文化的処方プログラムシンポジウムに参加
- ・ 笠松町「リバーサイドカーニバル2024」にて岐阜大学紹介ブースを出展
- ・ 留学生と企業をつなぐ「愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップ」を開催
- ・ 第9回岐阜大学地域協学センターCOC+事業外部評価専門委員会を開催
- ・ 熊本市教育委員会がぎふ地域学校協働活動センターを視察
- ・ 安八町「安八ふれあい祭り2024」にて岐阜大学紹介ブースを出展
- ・ 輪之内町と共催で「ぎふフューチャーセンター」を開催
- ・ 「OKB地域応援私募債（拍手喝債）～地域貢献型～」寄付金贈呈式を挙行
- ・ 大垣共立銀行と「遺言を活用した遺贈寄付に関する協定」を締結
- ・ 岐阜大学公開講座「『SDGs×地(知)の拠点』～人がつながる地域づくりと大学～」を開催
- ・ 令和6年度第2回地域学校協働活動推進員等フォローアップ研修を実施
- ・ 中部経済産業局および大垣共立銀行と「地域のオープンイノベーションの促進に関する連携協定」を締結
- ・ 産学金官連携人材育成・定着プロジェクト「成果発表会」を開催
- ・ 岐阜市との連携推進会議を開催
- ・ 第2回SPARC-GIFUシンポジウムを開催

恵那市と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和6年4月11日（木）に恵那市と連携に関する協定を締結しました。本学と恵那市は、これまでも大学教員がまちづくり審議会委員や高校生向けのまちづくりワークショップを行うなど連携を進めてきました。本協定では、本学と恵那市が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは39件目です。

協定締結式では、小坂喬峰恵那市長が、「少子高齢化や人口減少という深刻な課題解決に向けて、まずは人材確保が重要であると考えており、産業振興や教育においても必要不可欠である。進学等で市から離れても戻ってきてもらえるような体制づくりや対策について、お力をお貸し願いたい。」と述べました。吉田和弘学長からは、「岐阜大学は日本トップクラスの地域中核大学を目指しており、産業・まちづくり、ものづくり・食づくり、医療づくり、人づくりを強みにしている。大学の研究で得た知見を恵那市の企業等へ還元させていただくことで、地域産業のさらなる発展につながると考えている。また、人材育成・確保の分野でもお役に立てるのではと考えており、地域の課題解決に向けて学生が学ぶ場の提供をお願いするとともに、まちづくり、観光、医療等の分野においても、今まで以上に連携を図っていきたい。」と挨拶がありました。

今後、本学と恵那市は、少子高齢化対応や、教育・企業を支える人材育成・確保、安心・安全に訪れたい観光まちづくりの分野等で連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



協定書を手にする（左）小坂市長と吉田学長



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/4/12	中日	地域活性化や人材育成目指す 恵那市と岐阜大が包括連携協定 ～吉田和弘 学長～
2024/4/12	岐阜	岐阜大と恵那市が協定 人材育成、まちづくりで連携 ～吉田和弘 学長～

清流の国ぎふ防災・減災センターが グランプリ・レジリエンスジャパン推進協議会長賞を受賞

【概要】

岐阜大学と岐阜県が共同設置した清流の国ぎふ防災・減災センターでは、平成28年度より、地域防災・減災について主体的に担うことのできる人材を育成するため、「げんさい未来塾」に取り組んでいるところです。

この取組みが評価され、このたび、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会から「グランプリ・レジリエンスジャパン推進協議会長賞」を受賞しました。なお、岐阜県内の団体で本賞を受賞するのは、清流の国ぎふ防災・減災センターが初めてです。

今回の受賞は、この「げんさい未来塾」のこれまでの実績や継続性に加え、発展性を備えた防災人材育成システムである点が評価されたものです。受賞を受け、副センター長を務める環境社会共生体研究センターの小山真紀准教授は「育成した人材が相互に協力、連携しながら継続して活動できる仕組みが評価されたものと思います。げんさい未来塾のスーパーバイザーを担当いただいたコーディネーターの方々、主体的に活動をしている卒塾生の皆さん、これまでプログラムに関わってくださった皆さんのご尽力に感謝いたします。」と述べました。

今後も本学は地域で活躍する防災人材の育成や、活躍の場の創出・拡大に取り組んでいきます。



授賞式の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/4/24	岐阜	ぎふ防災・減災センターが最高位 国、地域づくり「日本強靱化大賞」 「げんさい未来塾」で人材育成 ～清流の国ぎふ防災・減災センター副センター長 小山真紀 准教授～
2024/5/10	朝日	強靱化社会へ 取り組み評価 ぎふ防災・減災センターが受賞 ～清流の国ぎふ防災・減災センター副センター長 小山真紀 准教授～

八百津町で次世代地域リーダー育成プログラムの学生が 料理体験イベントを開催

【概要】

2024年4月20日（土）に八百津町中央公民館において、次世代地域リーダー育成プログラム地域リーダーコースの学生5名とサポート学生2名が「やおつ de クッキング」と題した地元小学生を対象とした料理体験教室を開催しました。

本企画は岐阜大学の全学共通教育科目として、地域の事業者、住民、自治体職員等の方々にご協力いただきながら、学生自ら地域課題を設定し、実践活動を行う課題解決型学習プログラム（PBL）の一環で実施したものです。学生らは一年間の学習を通して八百津町の若者人口流出の課題に着目し、八百津の子どもたちが地域産業や地域の食材に理解を深め、人々との交流を深めることを通してふるさとへの誇りを育むことが、結果的に将来、若者の地域定着や関係人口の構築につながることを期待して企画を立案しました。今回、地元食品企業である内堀醸造株式会社にご協力いただき、本企画が実現しました。

イベント当日は親子6組13名が参加し、最初に学生たちから企画の趣旨説明をしたのちに、内堀醸造社員の方からお酢についてクイズを交えて楽しく学ぶレクチャーがありました。その後、学生が企画したアイスブレイクのゲームを参加者・スタッフが共に楽しみ、交流を深めました。続いて細野ちとせ氏（内堀醸造）を講師に、お酢を使ったレシピの料理教室を行いました。子どもたちは慣れない包丁さばきながら、保護者の方や学生らのサポートを受けながら八百津町や岐阜県産の食材を活用した3種の料理（生姜焼き、野菜たまごスープ、米粉のミルクレープ）を仕上げました。ホイップクリームの液体にイチゴ酢を混ぜ合わせると泡立たせることなく一瞬でクリーム状に変化する様子に、子どもたちは驚きの声を上げました。

最後に参加者全員で食事の団らんを楽しんだ後は、「80%山のまちを元気にする協議会」の武藤貴子氏より八百津町での農泊事業についてパンフレットを使いながらご説明を頂き、八百津町の豊かさについて理解を深めました。

岐阜大学は引き続き八百津町の関係者の皆様と連携を図りながら、次世代地域リーダーの育成と地域課題の解決に貢献してまいります。



大藪千穂副学長（教育学部教授）が 消費者支援功労者表彰「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞

【概要】

岐阜大学の大藪 千穂 副学長（多様性・ジェンダー(男女共同参画)・人権・広報・ブランディング・基金・図書館担当）（教育学部教授）が、令和6年度 消費者支援功労者表彰「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞しました。

消費者支援功労者表彰は消費者庁が実施する制度で、消費者利益の擁護・増進に尽力されている方々を表彰するものです。

大藪副学長は、本学において全学部の新入生が受講する消費者教育を担当し、学外においては、消費者ネットワーク岐阜を代表として立ち上げ、現在も代表として岐阜県の消費者被害防止・啓発活動を実施しています。また、日本消費者教育学会の会長を務め、全国の消費者教育の推進・啓発に貢献してきたことから、わが国および岐阜県の消費者教育への多大な寄与が認められ、今回の受賞となりました。

5月31日（金）には、吉田学長への受賞報告が行われ、大藪副学長から「長年にわたり大学における消費者教育をはじめ、市、県、国の委員を務めてきたことが評価されてきたことを嬉しく思うとともに、今後さらに消費者トラブルの内容が複雑化することに対応していきながら、引き続き貢献できるよう尽力したい」と語られました。

吉田学長は、「今回の受賞は大藪副学長の消費者を大事にする気持ちが評価されたものであり、岐阜大学としても誇りに思います。今後も大藪副学長を中心に消費者利益の擁護・増進に対する意識が益々広がっていき、次世代へも繋がっていくことを期待します。」と激励しました。本学は引き続き、消費者教育の充実と地域社会への貢献を目指していきます。



吉田学長と大藪副学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/6/1	中日	消費や教育に尽力30年 岐阜大、大藪副学長 内閣府大臣表彰 私もだまされた。「国の施策必要」～大藪千穂 副学長（生活経済学）～
2024/6/1	岐阜	消費者被害防止に尽力 大藪岐阜大副学長 大臣表彰～大藪千穂 副学長（生活経済学）～

東白川村と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和6年6月19日（水）に東白川村と連携に関する協定を締結しました。本学と東白川村は、これまでも本学医学部附属病院より医師を派遣するなど連携を進めてきました。本協定では、本学と東白川村が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは40件目です。

協定締結式において、東白川村の今井村長は、「少子高齢化や人口減少という課題については、避けて通れないが、いかに緩やかな減少に押さえるかがポイントであり、村の課題である地歌舞伎の伝承や診療所の医師確保、お茶やヒノキなどの農林業の担い手不足について、過疎化対策と並行して、この協定を機に大学生の若い力や研究成果を活かして、“元気な過疎の村”にしていきたい」と述べました。

吉田岐阜大学長からは、「岐阜大学は日本トップクラスの地域中核大学として、産業・まちづくり、ものづくり・食づくり、医療づくり、人づくりを強みにしている。地域から世界を目指す大学として、まず社会貢献が重要であり、村が抱えている数々の課題解決に向けて、連携して取り組むことでお役に立てるのではと考えている。また、学生の学ぶ場の提供をお願いするとともに、医療等においても、今まで以上の連携を図っていきたい」と挨拶がありました。

今後、本学と東白川村は、少子高齢化に伴う人口減少対策や、地歌舞伎の伝承、医師確保、地元産業の振興等の分野で連携を深め、多くの移住者を受け入れ、豊かな自然の中で、いきいきと暮らせる美しい地域としてさらに発展していけるよう、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



協定式で挨拶する吉田学長



協定書にサインする様子



協定書を手にする今井村長（右）と吉田学長（左）、東白川村公認キャラクターつつー（左）&のこりん（右）



記念写真

ぎふフューチャーセンター (岐阜県子育て支援課との共同開催) を実施

【概要】

令和6年7月8日（月）に、本学は岐阜県子育て支援課と共同で、「『こどもまんなか・ぎふ』を考える」をテーマにぎふフューチャーセンターを実施しました。ぎふフューチャーセンターは、地域の人々による未来志向の対話を通じて、地域が直面する複雑な課題を解決することを目的に開催しています。今回は、本学学生10人、教員1人、岐阜県職員3人、羽島市職員1人の計15人が参加しました。

現在、岐阜県では、こども基本法に基づき、県内の全てのこどもや若者が幸せに暮らせる社会を目指して「岐阜県こども計画」（仮称）の策定に向けて取り組んでいます。今回のぎふフューチャーセンターは新たな計画策定に向けた意見を聞く場である「こどもまんなか・ぎふ未来会議」として位置づけられ、計画の当事者となる大学生と、こども政策を担う行政職員などがチームとなって「こどもまんなか・ぎふ」の実現に向けて話し合いました。

はじめに、岐阜県子育て支援課の野寺氏が岐阜県こども計画について説明しました。その後、参加者たちは「こどもまんなか」な社会とは何か、現状と課題、そして課題解決に向けた具体策について意見を交わしました。議論の中で、こどもまんなかな社会とは「自分の居場所がある」「友達と遊ぶことができる」「こどものやりたいことができる」といった社会であるとの意見が出されました。また、その実現に向けた具体案として「国立大学の無償化」「こどもの視点に立つ」「かかわりをもつ・あいさつをする」「遊べる場所を増やす」「経済的支援」などが挙げられました。

最後に、各チームで「こどもまんなか」な社会が実現された岐阜県の将来ビジョンについて話し合い、「1人1人が夢を実現できる社会」「皆が自分事として捉え、子どもから広がる明るい社会」「こどもが大人になっても、活気ある社会」などのビジョンを提案しました。今後、今回の成果がこども計画の策定やさまざまな取り組みに活かされることが期待されます。

本学は今後も、ぎふフューチャーセンターを通じて地域が抱えている課題解決に貢献してまいります。



子育て支援課 野寺氏による説明の様子

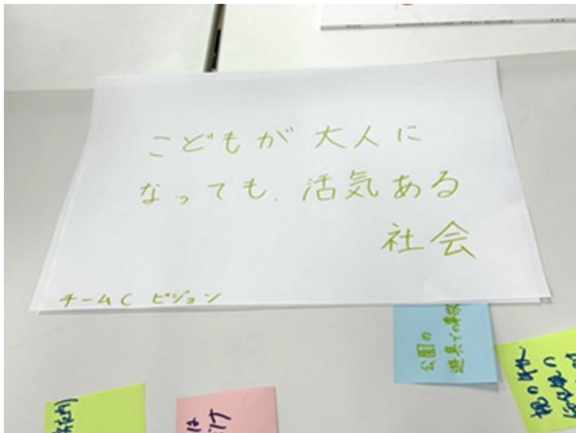


グループワークの様子

ぎふフューチャーセンター（岐阜県子育て支援課との共同開催）を実施



学生による発表の様子



グループワークの成果（将来ビジョン）

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/ 7 /29	岐阜	こども計画に若者の声 県が岐阜大で未来会議 ～こどもまんなか・ぎふ未来会議～

七宗町と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和6年8月1日（木）に七宗町と連携に関する協定を締結しました。

本学はこれまで、七宗町の総合計画策定に係る審議などにおいて連携を進めてきました。本協定では、本学と七宗町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは41件目です。

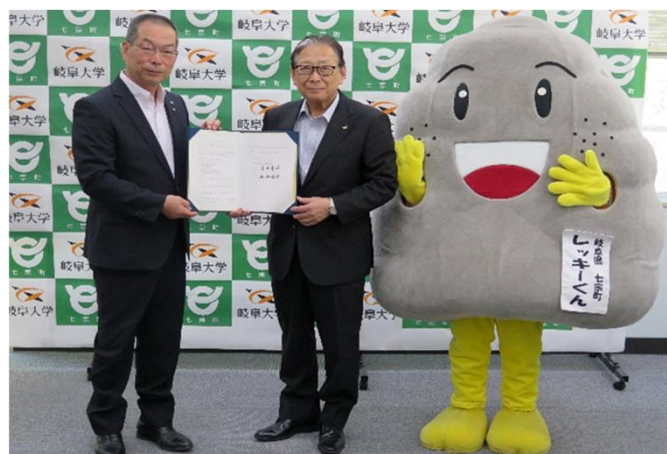
協定締結式において、加納福明町長は、「本町は岐阜県の中南部に位置する中山間地であり、日本の原風景が残る美しいまちであるが、人口減少が進み、高齢化率が県内で最も高いまちでもある。少子高齢化が深刻な状況にある本町において、今回の連携を機に、学生の皆さんの若い柔軟な発想や研究成果に基づく課題解決に向けた提案などをいただき、町民とともに岐阜大学と連携して課題解決に取り組んでいきたい」と述べました。

吉田和弘学長は、「岐阜大学は日本トップクラスの地域中核大学として、産業・まちづくり、ものづくり、食づくり、医療づくり、人づくりを強みにしている。日本最古の石があるまちとして七宗町の知名度を上げることや、特産である三番茶を活かした食品の研究など、まちの活性化に向けて連携して取り組むことでお役に立てるのではと考えている。具体的には、高大連携事業として実施している宇宙工学講座において、最古の石について県内の高校生が学ぶ機会を設け、また、特産である三番茶の成分分析や新たな製品開発などの分野において今まで以上に連携を図っていきたい」と述べました。

本学は今後、美しい日本の原風景が残る七宗町がさらに発展していけるよう、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



協定書にサインする様子



協定書を手にする加納町長と吉田学長、
七宗町公認キャラクター レッキーくん

七宗町と連携に関する協定を締結



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/8/23	読売	七宗の魅力発信 町、岐阜大と連携 ～吉田和弘学長～

大藪副学長が藤井美濃加茂市長と懇談

【概要】

令和6年8月2日（金）、大藪副学長が美濃加茂市役所を訪問し、ふるさと納税について意見交換を行うことを目的に藤井市長と懇談を行いました。美濃加茂市には、本学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学研究センターの美濃加茂農場があり、また、本学と美濃加茂市は、平成27年9月に地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的に包括連携協定を締結し、多様な分野で連携活動を進めています。

今回の懇談では、岐阜大学の大学支援型ふるさと納税「（仮）大学応援プロジェクト」※の実施に向けたアイデアを説明し、美濃加茂市がプロジェクトを導入した際には新規寄附者の獲得による増収が期待できるメリットがあることや他の自治体の成功事例などを紹介しました。藤井市長は、美濃加茂市のふるさと納税額がピーク時に比べて大幅に減少している現状に触れ、新たな戦略の必要性を強調し、「今後は返礼品の競争ではなく、ふるさと納税で実施する事業そのものに焦点を当てるべきであり、早急に検討して進めていきたい」との意向を示しました。

また、地域活性化策についても意見交換し、今後の協力体制について議論を深めました。今後はお互いに実務者レベルで具体的な検討を進め、大学応援プロジェクトの実現に向けて共に取り組んでいきます。

※ 大学応援プロジェクト：

自治体へのふるさと納税を通じて、その地域にある大学を支援するための寄附金を募るプロジェクトです。寄付者は、自分が応援したい大学やプロジェクトを選んで寄付を行うことができ、通常のふるさと納税と同様に税控除の対象となります。このような取り組みにより、大学と地域社会が協力して地域の課題に取り組むことが期待されており、地域全体の発展にもつながります。



懇談の様子



大藪副学長と藤井市長

「サマースクール2024 in各務原」成果発表会を開催

【概要】

岐阜大学が幹事校を務めるCOC+事業推進コンソーシアムは、各務原市商工振興課と連携して、8月28日、29日、9月4日の3日間にわたって「サマースクール2024 in 各務原」を実施しました。今回のサマースクールでは、コンソーシアム参加大学の学生20名が大学の枠を超えた3つの混成チームを結成し、「航空宇宙のまち、各務原市のイメージ戦略を考える」というテーマ課題に取り組みました。

1日目は、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館において、各務原市の概要や同市における航空宇宙産業の歴史や現状について学びました。その後の企業見学では、各務原市の発展に重要な役割を果たしてきた川崎重工業株式会社を見学したのち、地元のサプライヤー企業にあたる榎本ビーエー株式会社やウイングフィールド株式会社を訪れ、各企業の強みや特色を学びました。

2日目は、今回のテーマにある「イメージ戦略」に関して、各務原市商工振興課の永木氏よりブランディングとマーケティングに関するレクチャーを受けました。その後、1日目に訪問した各企業の方々とインタビュー交流を通じてイメージ戦略の理解を深め、具体的な提案に向けたグループワークを進めました。

3日目は、各務原市産業文化センターにて、浅野各務原市長をはじめ、お世話になった各企業・団体の方々や各務原市商工振興課の方々に向け、最終成果発表を行いました。

【各グループの提案内容】

- ・工業系の学生を対象にした短期／長期2つのプランの職場体験で、各務原で働き暮らすことのリアルを体験する
「航空業の魅力を体感！各務原で職場体験」
- ・航空宇宙が好きな人を対象にした5日間のツアーを通して航空宇宙の街である各務原市のファンになってもらう
「航空宇宙のまちで推し活ツアー」
- ・街全体のアミューズメントパーク化と未来へ繋げる人材育成プログラムを通してつくる
「身近に感じる航空宇宙の街」

成果発表では、特に「航空宇宙のまちで推し活ツアー」（チーム名：みっばらさん）の実現性や地域特性を最大限に活かしたアイデアが評価され、各務原市長賞に選ばれました。

参加学生からは、「他大学の学生とかがかわることで、新たな気づきを得ることができた」、「実際に市の魅力を考えて、提案するというのはとても難しく大変だったが、他大学の学生とコミュニケーションをとることで、自身の成長にも繋がったと感じる」などの感想がありました。

今後も、ぎふCOC+事業推進コンソーシアムは、岐阜の地域振興に貢献する学生たちを育成するため、サマースクールなどのプログラムを継続して実施する予定です。

「サマースクール2024 in各務原」成果発表会を開催



各務原市商工振興課の永木氏によるレクチャー



企業インタビュー



最終成果発表



集合写真

岐阜北高校で探求人ガイダンス 「環境報告書を読んでもみよう」を実施

【概要】

2024年9月9日（月）、岐阜県立岐阜北高等学校にて、岐阜大学・名古屋大学で環境活動や環境報告書の制作に携わる学生や教員ら11名が、高校生を対象とした探求人ガイダンス「環境報告書を読んでもみよう」を実施しました。このガイダンスは、環境報告書を通じて高校生に環境問題への関心を高めてもらい、岐阜大学や名古屋大学での環境活動や教育研究について知ってもらうことを目的として開催しています。

東海国立大学機構の環境報告書は、岐阜大学と名古屋大学の学生及び教職員を中心とした編集委員が企画・編集を行い、両大学の環境に関する教育・研究・社会貢献活動について紹介しています。今回のガイダンスでは、学生編集委員が携わった学生企画や研究室インタビューなどの活動を中心に紹介しました。また、岐阜大学環境サークルG-ametの生物多様性保全・自然再生を目的とした「鵜ヶ池ばんがいけ再生プロジェクト」の一環で実施する、池の水を抜いて水質を改善させる「かいぼり実験」などの取り組みについて紹介しました。さらに、名古屋大学環境サークルSong of Earthが開催する、卒業生から家具や家電を譲り受けて新入生へ譲渡しリユースを促進するイベント「下宿用品リユース市」についても紹介しました。高校生からは、学生が取り組む活動などについて質問が寄せられ、環境活動に対する関心の高さがうかがえました。ガイダンス全体を通じて、高校生たちが岐阜大学や名古屋大学の取り組みに触れ、大学での環境活動への興味を引き出す良い機会となりました。

今後も岐阜大学は、地域や次世代との連携を深め、持続可能な社会の実現に向けた教育・研究活動を積極的に推進していきます。



岐阜北高校での探求人ガイダンスの様子

岐阜県地域学校協働活動フォーラム2024を実施

【概要】

令和6年9月17日（火）に、ぎふ地域学校協働活動センターの1年間の成果報告および学び合いの機会として「岐阜県地域学校協働活動フォーラム2024」をオンラインで実施しました。

ぎふ地域学校協働活動センターは、地域・自治体・学校における地域学校協働活動を支援・促進し、子どもたちの成長を地域全体で支えるとともに、活動を通じて地域の活性化を図ることを目的に、岐阜県と岐阜大学によって共同で設置しました。

「岐阜県地域学校協働活動フォーラム」は、地域学校協働活動関係者（社会教育委員、社会教育士、公民館職員、地域学校協働活動推進員、青少年育成関係者、まちづくり協議会関係者、地域づくり関係者等）、市町村等行政職員、学校関係者を対象に、地域学校協働活動にかかわる学術的知見や岐阜県内における実践の情報を共有する目的で行っています。

今年度は岐阜県内各地域において活躍している地域学校協働活動関係者、市町村等行政職員、社会教育行政職員、学校関係者を含む280名の参加者が集まりました。

フォーラムでは、大阪成蹊大学大学院／京都教育大学非常勤講師・元文部科学省CSマイスターの西孝一郎氏が「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進～こどものためにみんなでつなぐ地域とともにある学校～」と題して講演を行いました。西氏は、コミュニティ・スクールの目的や「地域とともにある学校」という概念を読み解きながら、学校支援ボランティアのような支援活動から地域と学校の協働活動とするには何が必要か、学校運営協議会の一体的な推進と関わらせて地域と学校双方をつなぐにはどうすればよいか、地域の未来を考える協働をどのように築くかといった内容について、「コミット」「熟議」といったキーワードを軸に、ご自身の経験と照らし合わせながら解説しました。

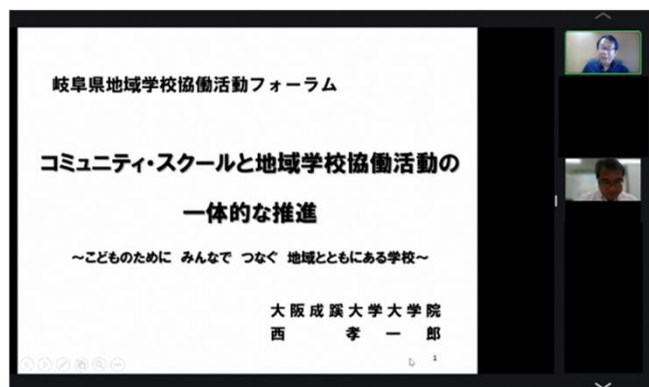
続いて、岐阜市立芥見東小学校長 種田伸和氏と社会福祉協議会芥見東支部長・芥見東自治会連合会顧問 多田喜代則氏から「地域社会と学校との協働」をテーマとした実践紹介がありました。種田氏からは芥見東小学校における地域学校協働活動の概要や具体的な活動の状況、今後の展望などの説明がありました。また、多田氏からは活動に参加する住民の立場から、活動に対する思いや地域から見た活動の意義について講演がありました。

講演・報告の後には、質疑応答の時間を設けました。地域と学校がつながる場の持ち方や規模、活動がパターン化し停滞している地域を活気づける方法、活動がもたらす子どもの反応など、さまざまな角度での地域学校協働活動に関する質問や、協働に関連した防犯対策や他の学内活動との調整といった具体的な課題についての質問があり、参加者の理解がより深まりました。

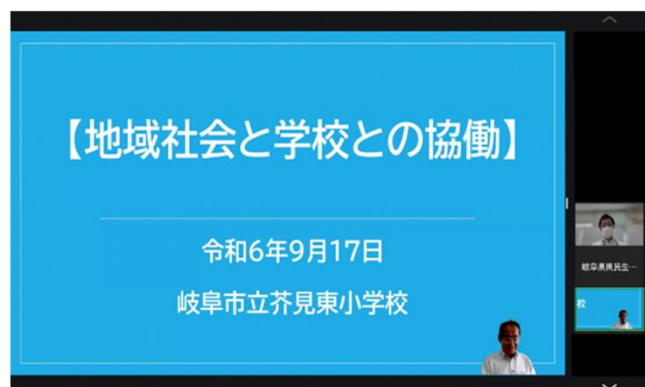
最後に、ぎふ地域学校協働活動センター長の益川浩一教授がセンターの1年間の活動成果を報告し、フォーラム全体を総括して閉会しました。

ぎふ地域学校協働活動センターでは、今後もこのようなフォーラムや研修会等を開催し、地域学校協働活動の普及促進に努めていきます。

岐阜県地域学校協働活動フォーラム2024を実施



西氏による講演の様子



種田氏・多田氏による実践紹介の様子



益川センター長による報告の様子

富加町と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和6年9月19日（木）に富加町と連携に関する協定を締結しました。本学と富加町は、これまで、まちづくり・ICT（情報通信技術）研修・古墳調査・幼児教育等多岐にわたって連携を進めてきました。本協定では、本学と富加町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは42件目です。

協定締結式において、渡邊圭太町長は、「令和4年に夕田墳墓群（ゆうだふんぼぐん）が国指定史跡に認定されたことを機に、本史跡をふるさと教育に生かしつつ、町の知名度アップにもつなげたいと考えている。また、当町は人口増の傾向にありますが、この先の人口減少を見据えて、住民の満足度向上と町の活性化を目指していきたい。今回の連携を機に、学生の皆さんの若い柔軟な発想や大学の研究成果に基づく課題解決に向けた提案などをいただき、町民とともに岐阜大学と連携して課題解決に取り組んでいきたい」と述べました。

吉田和弘学長は、「岐阜大学は日本トップクラスの地域中核大学として、産業・まちづくり、ものづくり、食づくり、医療づくり、人づくりを強みにしている。人口増加傾向にある富加町では、幼児教育及び小学校の英語教育をはじめとする教育面強化と文化継承及び子育て支援施策などが充実しており、幼児や児童生徒数が増えている。そのような地域の間を学生や外国人留学生の学びや交流の場、さらには研究の場として、今まで以上に連携を図っていきたい」と述べました。

本学は今後、これまで培ってきた知見と技術を活かし、富加町とともに地方創生を目指す取り組みを推進していきます。



協定書にサインする吉田学長(左)と渡邊町長



記念写真

FC岐阜「パートナー企業展」に岐阜大学ブースを出展

【概要】

岐阜大学は、9月28日（土）に長良川競技場芝生広場にて開催された株式会社岐阜フットボールクラブ（FC岐阜）主催イベント「わくわくいっぱいパートナー企業展」でカーボンニュートラルをテーマにしたブースを出展しました。

ブース展示は、FC岐阜のホームゲーム観戦来場者に対し、本学が実施するカーボンニュートラルに関する教育・研究・社会貢献の取り組みを広く知ってもらうことを目的としています。

岐阜大学ブースでは、地域協学センター、環境社会共生体研究センター、環境対策室の活動紹介パネルや岐阜県気候変動適応センター作成の「安心な暮らしのヒントBOOK 2」紹介パネルを展示したほか、家庭でできる省エネ行動クイズのコーナー、家庭で行っている省エネ行動の投票パネルの設置、マイうちわの作成体験コーナーを設け、来場者に省エネ行動を始めるきっかけを提供しました。

本学のブースには、親子連れをはじめ幅広い年齢層の方々など約120人が訪れ、マイうちわ作りを楽しんだり、投票コーナーや省エネクイズコーナーでは省エネ行動について考え理解を深めたりしました。またクイズ正解者にはエコバッグをプレゼントしました。

FC岐阜と本学は2017年に連携協定を締結しており、今回の出展は本協定に基づく取り組みの一環です。今後も本学は、FC岐阜と協働で持続可能な地域づくりに貢献するための活動を展開してまいります。



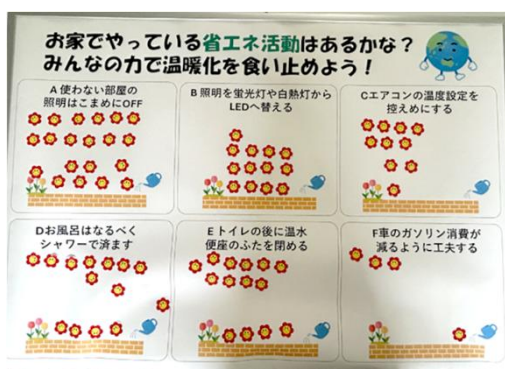
岐阜大学出展ブース



パネル展示



マイうちわの作成体験コーナーの様子



家庭で行っている省エネ行動の投票パネルの様子

可児市と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和6年10月1日（火）に可児市と連携に関する協定を締結しました。本学と可児市は、これまで、大学教員が生涯学習コーディネーター養成講座の講師を務めるなどの連携を進めてきました。本協定では、本学と可児市が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

本学が岐阜県内の自治体と包括連携協定を締結するのは43件目であり、今回で岐阜県を含めた県内すべての自治体と協定を締結しました。

協定締結式において、富田成輝市長は、「本市は外国人が多く居住しており、学校では日本語・ポルトガル語・タガログ語が飛び交っている。児童生徒に対する日本語学習支援が必要であるが、それを支える支援員の人員確保などの課題があり、他にも役所や医療機関などでは専門用語を通訳するのにとても苦慮している。このような本市ならではの課題に対して、多様な学生さんや大学の専門的な研究成果に基づいた解決に向けた提案などをいただき、市民とともに岐阜大学と連携して課題解決に取り組んでいきたい」と述べました。

吉田和弘学長は、「岐阜大学は日本トップクラスの地域中核大学として、産業・まちづくり、ものづくり、食づくり、医療づくり、人づくりを強みにしている。歴史と文化が受け継がれ、広大な土地と工業団地を有して、たくさんの企業が立地する可児市では、日本人学生だけではなく外国人留学生の企業でのインターンシップの場として、また、学校での実習の場として、さらには研究の場としても適しており、今まで以上に連携を図ることができると期待している」と述べました。

本学は今後、これまで培ってきた知見と技術を活かし、可児市とともに地方創生を目指す取り組みを推進していきます。



挨拶する吉田学長



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/10/3	岐阜	岐阜大が可児市と協定 地域課題解決 全自治体と締結 ～吉田和弘 学長～
2024/10/3	中日	地域づくりに学生が参加へ 可児市と岐阜大 人材育成 で連携協定 ～吉田和弘 学長～

アピ株式会社への紺綬褒章伝達式を執行

【概要】

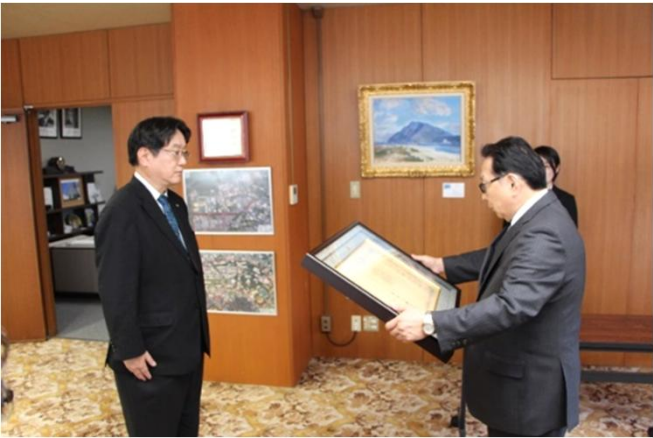
令和6年10月9日（水）、アピ株式会社への紺綬褒章伝達式を執り行いました。

紺綬褒章とは、国の栄典制度の一つで、公益のために私財（個人：500万円以上、団体：1,000万円以上）を寄附した方に対して授与される褒章（法人の場合は褒状）です。

岐阜大学が創立70周年を迎えるにあたり、将来、地元産業界において「ものづくり」に従事することを視野に入れている成績優秀な学部学生等に奨学金を支給することで、勉学に一層精励する環境作りに役立ててほしいとの思いから、アピ株式会社から本学へ総額2,400万円の寄附をいただきました。この功績により、アピ株式会社に対して国から紺綬褒章が授与されました。

伝達式では、吉田学長が謝意とともに「奨学生はそれぞれ特色ある取り組みをして、資格取得など成果を上げることができました」と述べ、褒状を手渡しました。アピ株式会社の野々垣孝彦社長は「多大な評価をいただき感謝している。これからも地域に根差したものづくり企業として、地域発展と健康産業へ貢献していきたい」と述べました。

本学は今後も多方面にわたりアピ株式会社と連携し、地域発展に努めてまいります。



伝達式の様子



記念写真
(左から) 大藪千穂 副学長、野々垣 孝彦 社長、
野々垣 裕香 秘書課長、吉田 和弘 学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/10/17	岐阜	アピに紺綬褒章 岐阜大に5年間奨学金寄附 ～吉田和弘 学長～

文化的処方プログラムシンポジウムに参加

【概要】

吉田学長が10月16日（水）に、「文化的処方プログラムシンポジウム」に参加し、挨拶を行いました。このシンポジウムは、「清流の国ぎふ」文化祭2024の一環として開催され、文化・芸術の力でウェルビーイングを高めることを目的として開催されたものです。

吉田学長は、岐阜大学がこのプログラムに参加していることを誇りに思い、文化が人々の幸福感を高める「文化的処方」の重要性について述べ、岐阜県の文化が日本全国、そして世界へと発信されることへの期待を語りました。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/10/17	岐阜	芸術は"癒やしの薬" 「文化的処方」日比野克彦さんら シンポ ～塩入俊樹 教授～
2024/10/17	中日	国民文化祭ぎふ2024 文化的処方 岐阜から広がれ 県庁でシンポ 日比野克彦さんら登壇 ～塩入俊樹 教 授～

笠松町「リバーサイドカーニバル2024」にて 岐阜大学紹介ブースを出展

【概要】

令和6年10月27日（日）に、包括連携協定を締結している笠松町の支援のもと、「リバーサイドカーニバル2024」に岐阜大学紹介ブースを出展しました。

このイベントは、かさまつまちづくりイベント実行委員会が主催し、木曽川の河川敷を活用した住民主体のまちづくり推進を目指して毎年開催されています。地元の事業者や市民団体が出展するほか、今年は笠松町プロモーション協会主催の「かさマルシェ ハロウィンパーティー」も同時に開催されました。

本学ブースでは、地域協学センターの取組みを紹介するポスター展示に加え、大学案内や地域協学センター・次世代地域リーダー育成プログラムパンフレット、地域志向学研究Vol.8など、大学の取組みを紹介する資料を来場者に配布しました。また、短冊状の紙を組んで多面体を作るペーパークラフト体験と、マイうちわ作成体験のコーナーを設け、多くの来場者から好評を得ました。本学ブースには100名以上の方が訪れ、来場者らは大学と地域協学センターの取組みに関して理解を深めました。また、子どもや保護者の方にとっては体験を通じて大学と楽しく触れ合う機会となりました。

今後も地域協学センターは、県内自治体との連携を深め、大学紹介ブースの出展や地域密着型のアウトリーチ活動を積極的に推進していきます。



岐阜大学ブースの様子



岐阜大学ブースの様子

留学生と企業をつなぐ「愛岐留学生就職支援 コンソーシアム岐阜地区ワークショップ」を開催

【概要】

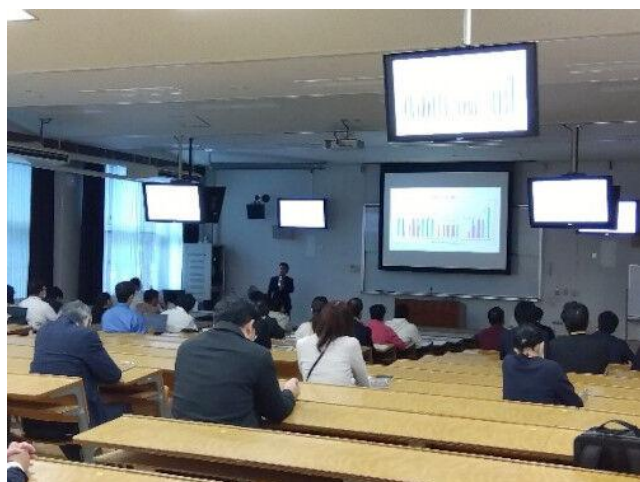
10月30日（水）、岐阜大学全学共通教育講義棟において、2024年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催しました。

今年度で7回目となる本ワークショップは、愛岐留学生就職支援コンソーシアムに参画している本学、岐阜県、岐阜県経営者協会、日本貿易振興機構（JETRO）岐阜貿易情報センターの県内4機関が共同で開催し、留学生と県内企業に就職マッチング機会を提供することを目的としています。

ワークショップは2部構成で、第1部では「東海圏における高度外国人材の活用に向けて：定着促進の視点から」と題し、事業主と外国人労働者それぞれの立場から講演がありました。はじめに、株式会社キョウワの代表取締役社長 臼田 龍司氏が、自社でベトナム人を雇用するに至った経緯や、雇用したベトナム人社員の定着を目指す現在の取り組みについて、具体的なエピソードを交えながら紹介しました。次に、株式会社テクノプレニードヒダで活躍しているクナラッタナ スワピス氏は、自身が外国人として日本で就職活動をした体験談や現在従事している仕事、日本でのキャリア形成について日本語で紹介しました。第2部では、留学生が参加企業のブースを訪ねて企業担当者と直接交流を行いました。今年度は企業11社から13名の企業担当者と、留学生（6か国）14名が参加しました。

参加した留学生からは「留学生に特化したワークショップで大変良かった、外国人として日本に就職するための情報が得られた、住む場所、働く場所として東海地区の魅力を実感した」と好評を得ました。企業担当者からは「採用までの実際の取り組み事例を聞き、自社にも取り入れたいと思った」「実際に日本で就職した人の話を聞くことは非常に有意義だった」「今後自社が外国人を採用するにあたって情報共有できる方や機関とつながりができ良かった」と次へとつながるコメントも寄せられました。

本学では今後も、留学生と県内企業のマッチングを積極的に支援し、留学生が日本での就職を実現できるようサポートしていきます。



第1部 講演の様子



第2部 交流の様子

第9回岐阜大学地域協学センターCOC+ 事業外部評価専門委員会を開催

【概要】

令和6年10月31日（木）、岐阜大学において、第9回岐阜大学地域協学センターCOC+事業外部評価専門委員会を開催しました。

本委員会は、平成27年度に文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に岐阜大学が主幹校として採択されたことを受けて組織された「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」（岐阜大学・中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学および関係機関により構成）が実施するCOC+事業の進捗状況等を客観的に評価するために設置されたもので、学外の有識者により構成されています。COC+事業では、産業界ニーズに適合した人材を育成し、産官学共同による雇用創出によって、学生の地元就職と岐阜県へのUターン就職を推進し、地方創生に貢献することを目的としています。

当日は、以下の委員6名によって令和5年度実績に係る評価が行われ、今後の事業の推進や事業協働機関との連携について意見交換が行われました。

一般財団法人農政調査委員会理事長・元高崎経済大学長
株式会社岐阜新聞社元飛騨支局長
株式会社岐阜放送報道情報局長兼解説委員長
株式会社秋田屋本店代表取締役会長
一般社団法人岐阜県観光連盟常務理事
岐阜県観光国際戦略アドバイザー

吉田 俊幸 氏（委員長）
一川 哲志 氏
高井 博文 氏
中村 源次郎 氏
服部 敬 氏
古田 菜穂子 氏

委員からは、事業協働機関との確かな連携のもとでコンソーシアムを長年にわたり継続しており、各参加大学の強みや専門性を活かした教育プログラムを実施し着実に修了生を輩出していること、岐阜県内の自治体や企業との連携強化を図り教育も含めた共同事業を推進・実施していること、各事業協働機関においてもコンソーシアムの取組みに寄与する事業や活動を確実に実施していることが高く評価されました。一方、岐阜県や愛知県の大学生が岐阜県内企業を知り学ぶ機会を拡充するなどの様々な方策を講じて、県内就職率の向上に努めてもらいたいとのコメントもありました。

今後、本委員会で決定された外部評価を基に、ぎふCOC+事業推進コンソーシアム運営会議において令和5年度実績に係る評価の結果が確定します。その結果を地域における事業展開や協働機関との連携強化に活かしていく予定です。



委員会の様子



委員会の様子

熊本市教育委員会が ぎふ地域学校協働活動センターを視察

【概要】

令和6年11月7日（木）、熊本市教育委員会が、岐阜大学と岐阜県が共同設置する「ぎふ地域学校協働活動センター」の視察に訪れました。同センターは、地域と学校が連携・協働する仕組みを通じて、子どもたちの成長を地域全体で支えるとともに、地域社会の活性化を目指す全国に先駆けた先進的な取り組みを展開しています。

視察には、熊本市教育長の遠藤洋路氏をはじめ、教育委員や教育委員会事務局の職員が参加しました。はじめに、本学の後藤誠一助教と岐阜県生涯学習企画監の安藤由美子氏が、センターの概要や取り組みについて説明しました。その後、お互いの自治体の状況や取り組みにおける課題について、センター長の益川浩一教授や二村玲衣助教も交えて意見交換を行いました。議論の話題は、地域学校協働活動の具体的な進め方から社会教育士の活躍、家庭との関わりなど、幅広いテーマに及び、双方にとって新たな知見や視点を得る刺激的な場となり、有意義な交流が実現しました。

今回の視察を通じて、遠藤教育長は「全国でも例をみない、大学と自治体の共同設置によるセンターの取組や支援事業を参考にしていきたい」と述べ、センターの活動を高く評価しました。

岐阜大学は、ぎふ地域学校協働活動センターを通じ、岐阜県と連携しながら、地域学校協働活動の推進と地域支援のさらなる充実に取り組んでいきます。



センターの概要について説明する様子

安八町「安八ふれあい祭り2024」にて 岐阜大学紹介ブースを出展

【概要】

令和6年11月9日（土）に、包括連携協定を締結している安八町の支援のもと、「安八ふれあい祭り2024」に岐阜大学紹介ブースを出展しました。

このイベントは、安八町ふれあい祭り実行委員会が主催し、町民の交流の場として、活気と活力のあるまちをつくり上げるきっかけとなることを目的に、安八町役場周辺を会場に毎年開催されています。今年度は「清流の国ぎふ」文化祭2024の一環として位置付けられ、地元の事業者や団体、企業等がブースを出展したほか、有名人のステージショーや子どもたちによる演技などが開催されました。

本学ブースでは、地域協学センターの取組みを紹介するポスター展示に加え、大学案内や地域協学センター・次世代地域リーダー育成プログラムパンフレット、地域志向学研究Vol.8など、大学の取組みを紹介する資料を来場者に配布しました。また、短冊状の紙を組んで多面体を作るペーパークラフト体験と、マイうちわ・クリスマスオーナメント作成体験のコーナーを設け、多くの来場者から好評を得ました。工作体験では「次世代地域リーダー育成プログラム」を修了した大学生が来場者と交流しながら工作をサポートするなど、地域の未来を担う学生と町民が直接触れ合う機会となりました。

本学ブースには70名以上の方が訪れ、大学と地域協学センターの取組みに関して理解を深め、来場者から「大学の活動を身近に感じた」、「大学の様々な取組みを知ることができて良かった」などの感想が寄せられました。

今後も地域協学センターは、県内自治体との連携を深め、大学紹介ブースの出展や地域密着型のアウトリーチ活動を積極的に推進していきます。



岐阜大学ブースの様子



岐阜大学ブースの様子

輪之内町と共催で「ぎふフューチャーセンター」を開催

【概要】

令和6年11月24日、岐阜大学地域協学センターと輪之内町は共催で「ぎふフューチャーセンター」を輪之内町文化会館にて開催しました。ぎふフューチャーセンターは、地域の人々による未来志向の対話を通じて、その地域が直面する課題を解決することを目的としています。

今回のフューチャーセンターは、輪之内町議会が2022年に「ゼロカーボンシティ宣言」をしたことを受け、本学が輪之内町から受託した「輪之内町における『ゼロカーボンシティ』推進及び環境人材育成事業」の一環として開催しました。当日は、「楽しく知って広めよう！始めないともったいない！？家庭でできる省エネ行動」をテーマに、輪之内町民8人と岐阜大学生13人が参加しました。

前半は、輪之内町が「ゼロカーボンシティ宣言」をするに至った社会的背景について、地域協学センターの伊藤浩二助教がミニレクチャーを行い、脱炭素社会づくりの重要性について理解を深めました。その後、環境省が提供するWEBアプリ「うちエコ診断」を活用して、各家庭の省エネ診断を実施しました。

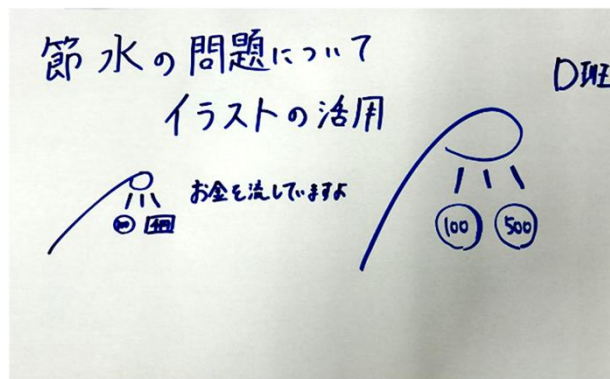
後半は、グループワーク形式で「周りに広めたいエコ行動」と「その行動が広がらない原因」について意見を出し合いました。さらに、人々が進んで行動を起こしやすいための行動科学の知見を活用した働きかけ手法の一つ「ナッジ」のアイデアを考案し、全体で共有しました。各グループからは、お風呂を家族で効率的に入るためのアイデア「お風呂でタイムアタック!」、シャワーの節水と呼び掛けるためのシャワーヘッドから小銭が出るイラストなど、ユニークで人の心を動かすナッジが提案されました。

参加者アンケートでは「学生や町民の方など幅広い年齢層でグループワークでき、とても楽しかった。自分だけでは気づけなかった発見もあり、勉強になった」「ナッジが重要な取組だと知っていたが、具体的なナッジ案を考える機会はまだ無かったので、大変有意義な時間で勉強になった」といった前向きな回答が多く寄せられました。

本学は今後も地域と連携して、脱炭素社会の実現に向けた人材育成に取り組んでいきます。



ぎふフューチャーセンターの様子



実際に提案されたナッジ（一部抜粋）

「OKB地域応援私募債（拍手喝債）～地域貢献型～」 寄付金贈呈式を挙行

【概要】

11月28日（木）、OKB岐阜大学プラザにて、「OKB地域応援私募債（拍手喝債）～地域貢献型～」寄付金贈呈式が行われました。

私募債とは、企業が銀行を通じて資金を調達するための債券の一種です。今回の「OKB地域応援私募債（拍手喝債）～地域貢献型～」は、企業が資金調達する際に、大垣共立銀行が引き受けた発行金額の0.2%相当額の範囲内で地域の学校や公的機関、医療機関などに物品・寄付金を寄贈する仕組みです。

この度、株式会社オンダ製作所、株式会社ドリームバンク、株式会社日本タクシー、株式会社ムーンフェイスの4社が発行した私募債を通じて、初めての寄付金贈呈が行われました。贈呈式には、大垣共立銀行の後藤勝利常務執行役員、亀井篤法人営業部長、私募債を発行した4社の代表者、本学の吉田和弘学長、大藪千穂副学長が出席しました。

最初に後藤常務執行役員から、今回の取り組みについて「起業家育成に力を注ぐ岐阜大学や研究機関などを支援したい大垣共立銀行が、地域と人類の課題解決に貢献する地域活性化の中核拠点を目指す岐阜大学のビジョンに共感して応援するものです」と挨拶があり、寄付金目録の贈呈が行われました。その後、発行企業の代表者から本学との関わりや事業紹介などがあり、最後に吉田学長から「近年の物価高騰により、大学運営は極めて厳しい状況が続いております。皆様のご支援は岐阜大学にとって大変貴重であり、学生たちの学びや教育研究を支える大きな力となります。この寄付金は、学生への奨学金や教育研究活動に活用させていただきます」と謝辞を述べました。

岐阜大学は、地域と人類の課題解決に貢献する地域活性化の中核拠点を目指し、地域の皆様と共に歩み、さらなる発展を遂げていきます。



左から 後藤勝利常務執行役員、吉田和弘学長



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/11/29	中部経済	4社の私募債で岐阜大に寄付金 大垣共立銀行 ～吉田和弘 学長～
2024/11/29	岐阜	県内4社と大垣共立銀行 岐阜大に46万円寄付 ～吉田和弘 学長～

大垣共立銀行と「遺言を活用した遺贈寄付に関する協定」を締結

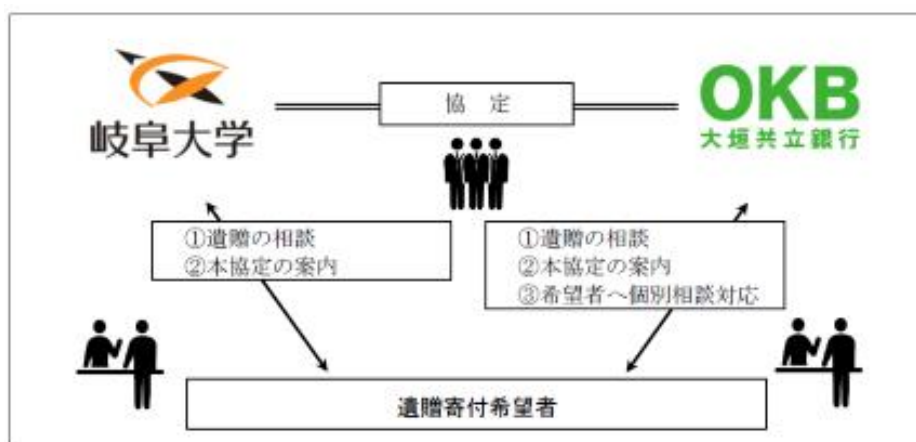
【概要】

12月10日（火）、OKB岐阜大学プラザにおいて、岐阜大学と株式会社大垣共立銀行による「遺言を活用した遺贈寄付に関する協定」締結式を行いました。

本協定は、本学への遺贈寄付を検討する方に対して、大垣共立銀行が専門的な知見を活用して助言を行い、遺贈寄付を円滑に実現するための体制を構築することを目的としています。遺贈寄付を検討する方が相談先として大垣共立銀行を選択された場合、信託業務を取り扱う同行が、遺贈や遺言作成の手続きなどに関する専門的な知見を活用して個別相談に応じます。この協定により、遺贈寄付を検討する方々が安心して寄付の手続きを進められる環境を整備し、遺贈寄付によって大学の教育・研究活動や地域社会の発展につながることが期待されます。

締結式では、吉田学長が「遺贈寄付が注目されるようになってきた昨今において、本協定は寄付者、銀行、大学にとって非常に意義深い取り組みです。今回の協定によって、さらに多くの方のご厚意を受けることができるようになり、これにより本学の教育・研究活動が一層充実し、社会に貢献できることを期待しております」と挨拶しました。続いて、大垣共立銀行 林頭取は「昨今、社会貢献意識の高まりもあり、ご自身が亡くなった後に、これまで築いてきた財産の一部を遺贈寄付したいと考える方が増えてきています。本協定は、こうした尊い意志を持つ方々に対し、当行がサポートすることによりご遺志を円滑に実現することが可能となるものです。今回の協定を機に岐阜大学との連携をさらに深めて、地域のお客様の問題解決や利便性の向上に努めてまいります」と挨拶されました。その後、両者ともに協定書に署名を行い、本協定を締結しました。

本学は、これからもご支援をいただいた多くの方の想いに応えるよう地域社会と連携し、教育・研究活動を通じて社会に貢献してまいります。今後とも、引き続きのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



「遺言を活用した遺贈寄付に関する協定」スキーム図

～社会貢献に関連する取組～

大垣共立銀行と「遺言を活用した遺贈寄付に関する協定」を締結



左から 亀井 篤 法人営業部長、林 敬治 頭取、吉田和弘 学長、大藪千穂 副学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/11	岐阜	遺贈寄付支援 岐阜大と協定 大垣共立銀 ～吉田和弘学長～
2024/12/12	中部経済	遺贈寄付で岐阜大と協定 遺言書作成などサポート 大垣共立銀 ～吉田和弘 学長～
2024/12/12	中日	遺贈寄付相談 O K Bが支援 岐阜大と協定 ～吉田和弘 学長～
2024/12/13	朝日	人生最後の貢献 遺贈寄付で協定 岐阜大と大垣共立銀行 ～吉田和弘 教授～

岐阜大学公開講座「『SDGs×地(知)の拠点』 ～人がつながる地域づくりと大学～」を開催

【概要】

岐阜大学地域協学センターは、2024年12月7日（土）、岐阜大学公開講座「『SDGs×地(知)の拠点』～人がつながる地域づくりと大学～」をオンラインで開催しました。今回のテーマは「ウェルビーイングと地域活性化を実現する働き方」です。当日は岐阜県内の自治体関係者や企業関係者、全国の教育機関の関係者、地域住民の方々など27名が参加しました。

基調講演では、アイスランド在住でアイスランド大学非常勤講師の西田めぐみ氏が、「アイスランドでのワークライフバランス実現可能性：インクルージョンの中で生きる日本人な私」と題して、アイスランドの文化的背景と現地でのワークライフバランス（WLB）の実情を紹介しました。また、自分が教育者や研究者として働きながら、家庭生活を両立させる中でさまざまな葛藤や、それを通じて得た気づきなどを語り、最後には「自分と周りの人を大切にする人権意識と心の余裕」「自分自身がどう生きたいか」が大切だと述べました。

続いて、県内の事例紹介として、3名の講師が講演を行いました。十六フィナンシャルグループ 十六総合研究所の森俊介氏は「過疎化する地方は「多様な働き方」で活性化するか？」と題して、兼業・副業を通じた地域活性化事例を紹介しました。次に、美濃市地域プロジェクトマネージャー大谷一夫氏は「保育園留学から見た新たな家族と地域の可能性」と題して、保育園留学という仕組みを活用したワーケーションと子育てを融合した新たな関係人口づくりの展開について語りました。最後に、岐阜県健康福祉部子ども・女性局 男女共同参画・女性の活躍推進課 宮田敏生氏は「岐阜県におけるワーク・ライフ・バランス推進の取組み」と題して、岐阜県が認証する「ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業」認証制度の紹介や、県内企業のWLB実現につながる優良事例の紹介をしました。

その後のトークセッションでは、岐阜大学教育学部3年生の繁ハナ子さん、地域協学センターの後藤誠一助教を交え、「個人と地域の幸せを実現する働き方や地域とのかかわり方とは？」をテーマに意見交換を行い、地域でのWLB実現に向けた問題提起や提案がありました。

参加者アンケートでは、「WLBの充実と『心のゆとり』といった関連性について気づきとなった」「WLBの充実している企業が選ばれる企業になってきている現状を再認識することができた」等の感想が寄せられ、今回の公開講座を通じて多様な働き方や地域づくりの可能性を考える貴重な機会となりました。

岐阜大学はこれからも地域と連携し、持続可能な社会の実現を目指していきます。

岐阜大学公開講座「『SDGs×地(知)の拠点』
～人がつながる地域づくりと大学～」を開催



西田めぐみ氏による講演の様子



トークセッションの様子



講演者・パネリストとの集合写真

令和6年度第2回地域学校協働活動推進員等 フォローアップ研修を実施

【概要】

令和7年1月21日（火）、ぎふ地域学校協働活動センターの人材育成事業の一つである「地域学校協働活動推進員等フォローアップ研修」を実施しました。

ぎふ地域学校協働活動センターは、地域・自治体・学校における「地域学校協働活動」を支援・促進し、子どもたちの成長を地域全体で支えるとともに、活動を通じて地域の活性化を図ることを目的に、岐阜県と岐阜大学の共同で設置されました。同センターは、①人材育成・確保、②調査研究、③普及促進を行っております。

本研修は、地域学校協働活動推進員等育成研修を修了後、県内各地域の社会教育行政、公民館等の施設、学校、地域団体等で活躍されている方を対象に、より深い地域学校協働活動の理解を促すことを目的とした、発展的な学びや情報共有の場です。今年度は22市町から57名の受講がありました。

はじめに、揖斐川町小島公民館 公民館主事の衣斐淳美氏が「地域みんなで子どもをはぐくむために～多世代が学びあい、育ちあう地域づくり～」と題した講演を行いました。講演では、地域全体で子どもを育むために重要である、①地域のことを考え、学び、創り出す人材の育成、子どもと大人が学び合い、成長できる場づくりといった「人づくり・土壌づくり」、②地域づくり協議会といった「大人が活躍できる場」について、自身の経験や現在の揖斐川町での取り組みをもとに話されました。質疑応答では、公民館職員等も含めた施設運営体制、地域づくり協議会の設立背景や現状・課題、学校・社会教育施設・教育委員会とのコミュニケーションや連携体制等について活発な情報交換が行われました。

その後、ぎふ地域学校協働活動センター長の益川浩一教授のファシリテートにより、受講者間でKPT法を用いたグループワークを行い、受講者がそれぞれの実践で行っていること(Keep)、課題や問題点(Problem)、改善に向けて挑戦したいこと(Try)を共有しました。最後に、今後挑戦したいことを一人一枚の紙にまとめ、全体に向けて参加者が一人ずつ発表し、研修を終えました。

なお、今回の研修には、静岡県教育委員会職員2名が視察に訪れ、岐阜県の地域学校協働活動やその支援活動について県域を越えて周知する機会となりました。

フォローアップ研修は今回で終了となりますが、これまでの研修で学んだことを生かしながら、それぞれの地域でご活躍いただけることを期待しています。



衣斐淳美氏による講演の様子



グループワークの様子

中部経済産業局および大垣共立銀行と「地域のオープンイノベーションの促進に関する連携協定」を締結

【概要】

2025年1月28日、岐阜大学は経済産業省中部経済産業局及び株式会社大垣共立銀行と「地域のオープンイノベーションの促進に関する連携協定」を締結しました。本協定は、三者のリソースを最大限に活用し連携して取り組むことで、岐阜県内をはじめとする地域企業や大学等におけるオープンイノベーションの更なる促進を図り、地域経済の持続可能な発展に貢献することを目的とするものです。

OKB岐阜大学プラザで行われた締結式では、協定書への署名後、吉田学長から「本学がこれまで取り組んできた産学連携やスタートアップ創出支援、また、これまでも連携を深めてきた株式会社大垣共立銀行との活動などの各種取り組みを基盤として、経済産業省中部経済産業局の様々な施策や企業等とのネットワークを活用させていただくことで、地域社会の学術の中心たる本学として、産学連携やオープンイノベーションの更なる促進を図り、地域社会への貢献を通じて地域の中核大学となることを目指していきたい」と挨拶しました。また、経済産業省中部経済産業局 寺村局長及び株式会社大垣共立銀行 林頭取からも、本協定に基づくオープンイノベーションの促進につながる活動への期待と抱負が述べられました。

今回の協定締結を契機として、三者の関係をさらに深め、より良い地域社会の未来を築くために、連携を進めてまいります。今後とも、引き続きのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○主な連携内容

- ① 地域の企業等に対するオープンイノベーションを普及啓発するセミナー及びイベントの実施
- ② 地域の企業と大学との共同研究等によるオープンイノベーションに向けたマッチング支援
- ③ 地域の企業とスタートアップなどとの協業によるオープンイノベーションに向けたマッチング支援
- ④アントレプレナーシップ教育や大学発ベンチャーへの支援
- ⑤ 地域の企業と学生との接点を強化することで創出されるオープンイノベーションに向けたプログラムの検討



左より 林 頭取、寺村 局長、吉田 学長

中部経済産業局および大垣共立銀行と
「地域のオープンイノベーションの促進に関する連携協定」を締結

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/1/29	岐阜	異分野で連携、価値創出 岐阜大、大垣共立銀、経産省が協定 ～オープンイノベーション創出支援拠点「OKB SCLAMB」、吉田和弘学長～
2025/1/29	中部経済	大垣共立銀 経産局、岐阜大と連携 地域一体で事業創出へ ～オープンイノベーション創出支援拠点「OKB SCLAMB」、吉田和弘学長～
2025/1/30	日刊工業	中部経産局・岐阜大・大垣共立銀 技術・事業革新で連携 ～オープンイノベーション創出支援拠点「OKB SCLAMB」、吉田和弘学長～
2025/2/3	中日	新事業創出へ岐阜大が協定 OKB、中部経済産業局と～オープンイノベーション創出支援拠点「OKB SCLAMB」、吉田和弘学長～
2025/2/8	岐阜	スタートアップ支援でファンド 大垣共立銀が設立 ～オープンイノベーション創出支援拠点「OKB SCLAMB」～

産学金官連携人材育成・定着プロジェクト 「成果発表会」を開催

【概要】

1月30日（木）、本学は「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」の一環として、工学部の学生や地域協学センター教員らによる成果発表会を本学講堂にて開催しました。

本プロジェクトは、岐阜県、産業界、大学、さらには金融機関が連携し、県内企業の高度技術者等の確保・育成及び定着を支援し、地域経済の活性化を目指すものです。

本プロジェクトの一環として、工学部の学生は授業「機械工学創造演習」において、グループごとで県内企業による講義や実習に参加しました。また、本学が推進する「次世代地域リーダー育成プログラム」の授業の一つで、地域協学センターが開講する「地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る」を受講した学生は、県内企業で活躍する若手社員の方々取材し、企業紹介のレポートを作成しました。この成果を冊子体としてまとめ、発表会に参加した全員に配布しました。

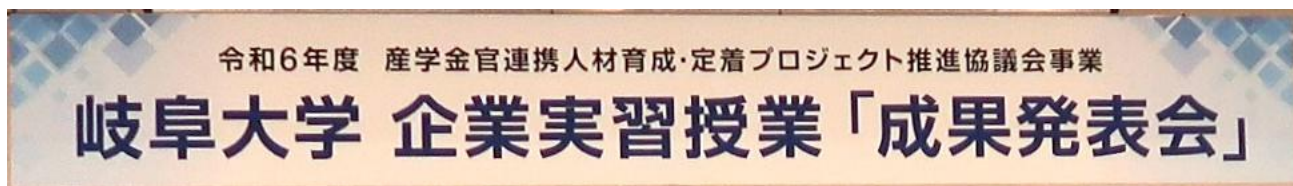
発表会では、王志刚副学長から「このプロジェクトは9年目を迎え、ご尽力いただいた関係者各位に厚くお礼申し上げます。イノベーション創出のための人材育成には、大学の教育だけでなく、企業現場での活きた課題に取り組むことが重要だと思います。実習を通して、ものづくりの楽しさと難しさを理解するとともに県内企業の技術力の高さやそこで働く人々の温かさを体感できたのではないかと思います。今後とも皆様と連携してこのプロジェクトを継続して行っていきたいです」と挨拶がありました。

続いて、地域協学センターの伊藤浩二助教が「地域産業と企業戦略入門」の受講生による県内企業の取材を通じた学びの成果を報告し、センターの活動について紹介しました。その後、28の学生グループが企業での実習で得られた学びの成果を発表しました。学生からは「岐阜県内の企業活動をよく知る貴重な機会となった」などの感想が寄せられました。

閉会の挨拶では、益川浩一地域協学センター長が「本プロジェクトにおいて、学生は企業や地域の皆様からの指導を受けつつ、企業や地域の課題を自分たちで発見し、その課題解決に向けた提案を行うといったデザイン思考を学ぶことができたと思います。学生をご指導いただいた皆様にとっては、学生の若いアイディアを採り入れていただく機会になり、そして何よりも、若者との接点を強化していただく貴重な機会としていただけたのではないかと思います。岐阜大学では、引き続き、皆様にご指導いただきながら産学金官共創教育を推進していきます」と述べました。

本学は今後も、本プロジェクトを通して産学金官が一丸となり、地域・地元産業界の課題解決に向けて行動できる人材の確保、育成、定着を推進し、地域活性化に貢献していきます。

産学金官連携人材育成・定着プロジェクト「成果発表会」を開催



開会挨拶（王副学長）



成果発表（伊藤助教）



成果発表（工学部学生）



閉会挨拶（益川センター長）

岐阜市との連携推進会議を開催

【概要】

2月13日（木）、本学は岐阜市との連携推進会議を開催しました。

本会議は、岐阜市と本学との連携に関する協定に基づき、相互の意見・情報交換を通じて理解を深め、協力関係を一層強化することを目的としています。これにより、地域社会が直面する多様で高度な課題の解決を図り、持続可能で魅力あるまちづくりを推進することを目指しています。

会議には、柴橋市長、後藤副市長、阿部副市長をはじめとする岐阜市の関係部局長、本学からは吉田学長、副学長らが出席しました。冒頭では、柴橋市長と吉田学長がそれぞれの取り組みについて説明を行いました。その後、教育、人材育成、産業、まちづくりといった幅広い分野にわたる意見交換を行い、今後の連携の方向性について議論しました。

本学は今後も地域創生に貢献しつつ独自の強みを活かしてさらなる発展を目指すとともに、自治体との連携を一層深め、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。



取り組み説明・意見交換の様子



取り組み説明・意見交換の様子



吉田学長と柴橋市長



集合写真

第2回SPARC-GIFUシンポジウムを開催

【概要】

令和7年2月11日（火）、第2回SPARC-GIFUシンポジウム「みんなで考えよう！元気な地域の人づくり～地域課題の探究と解決に向けて～」をホテルリソル岐阜にて開催しました。本シンポジウムは、岐阜大学・中部学院大学・岐阜市立女子短期大学が連携し、地域社会の活性化に貢献する人材育成を目的とした「SPARC-GIFU（ぎふ地域創発人材育成プログラム）」の一環として実施したものです。当日は、対面とオンラインあわせて100名以上の方が参加しました。

今回のシンポジウムでは、SPARC-GIFU地域連携プラットフォームが示す「地域社会が求める人材像」の育成を目指し、各大学や地域社会がどのように人材育成に取り組むべきかを考える場としました。各大学の取り組みや地域での実践例を紹介しながら、「地域の人づくり」について議論しました。

開会にあたり、主催する3大学の学長が挨拶し、続いて、文部科学省高等教育局大学教育・入試課専門職の佐藤一樹氏から来賓挨拶がありました。その後、各大学のSPARC-GIFU事業の取り組みを紹介し、Global Mobility Service株式会社の中島徳至代表取締役社長 CEOによる招待講演を行いました。

また、中津商業高等学校・中部学院大学・岐阜市立女子短期大学の生徒・学生らによる地域課題探究の成果発表や、「みんなで考えよう！岐阜！地域課題！そして未来！」をテーマとしたパネル・ディスカッションを実施しました。パネル・ディスカッションでは、若い世代の地域課題探究の成果発表への総評や、産官学金それぞれの視点から地域の課題や人材育成について活発な議論が交わされ、参加者にとって地域社会の未来を考える貴重な機会となりました。

岐阜大学では、今後もSPARC-GIFU事業をはじめとする地域連携の取り組みを推進し、地域社会の発展に寄与する人材育成に努めてまいります。



パネル・ディスカッションの様子

第2回SPARC-GIFUシンポジウムを開催



吉田学長



佐藤氏による来賓挨拶



招待講演を行う中島氏



会場の様子

大学病院



- ・ 当院の医師がベストドクターズに選出
- ・ 岐阜大学医学部附属病院に「県脳卒中・心臓病等総合支援センター」を開設
- ・ 「健康ハートの日2024 in GIFU」をじゅうろくプラザで開催
- ・ 「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展を開催
- ・ 令和6年度「患者紹介・受入医療機関への感謝状」を贈呈
- ・ 古家琢也教授がロボット外科学会のRobo-Doc Pilot 国際A級を取得
- ・ クリスマスイルミネーション点灯式を開催
- ・ 令和6年度看護師特定行為研修修了式を執行

当院の医師がベストドクターズに選出

【概要】

下記の医師がベストドクターズ社から“The Best Doctors in Japan 2024-2025”に選出されました。

脳神経内科	教授	下畑	享良
脳神経外科	教授	出雲	剛
産婦人科	教授	磯部	真倫
小児科	教授	大西	秀典
	臨床准教授	小関	道夫
放射線科	教授	松尾	政之

Best Doctorsは、ベストドクターズ社が医師に「あなた自身またはあなたの大切な人が特定の専門分野の医師を必要とした場合、誰を選びますか？」という質問をし、医師同士による相互評価調査（ピアレビュー調査）で選出されます。

ベストドクターズ社は米国に拠点を置き、世界各国で病状に応じた適切な治療やセカンドオピニオン取得のための名医紹介などを行っています。日本でベストドクターズの医師として認定されている医師は約7100名です（2024年6月現在）。ベストドクターズ社は医師の生涯教育単位（CME）を付与できる機関として、生涯教育認定機構から認定されています。

岐阜大学医学部附属病院に 「県脳卒中・心臓病等総合支援センター」を開設

【概要】

脳卒中や心臓病は、ある日突然発症することがほとんどです。多くの患者さんやそのご家族にとっては、心の準備が何もできていない状況でいきなり治療が始まる、そして多くの患者さんが後遺症も含めた何らかの症状に悩まされることになります。これまで普通に営んでいた活動に支障が生じることも多く、それに伴う不安を抱えて生活されている方も決して少なくないと思います。

本センターのミッションは、これらの不安を抱える患者さんとそのご家族に対して、その解決の糸口となる適切な情報を提供することにあります。具体的には、病気の再発予防・リハビリテーションや緩和ケアサービス・治療とお仕事両立や就労に関わる支援・小児期の循環器病患者さんへの支援などを行います。

また、このような患者さんおよびそのご家族の支援を円滑に進めるためには、かかりつけ医をはじめとした地域の医療機関との情報交換と連携が必須となります。

岐阜大学医学部附属病院は、令和6年度に上記のような脳卒中・心臓病などの患者さんへの支援を総合的に行うセンターを開設する施設として、岐阜県および国から選定されました。

脳卒中そして心臓病の患者さんとそのご家族が、安心してより良い生活をお送りいただけるように、当センターが中心となって『オール岐阜』でこの事業に取り組んでいくことが出来ればと願います。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/7/30	岐阜	循環器病の支援強化 県、岐阜大病院に相談拠点 ～「県脳卒中・心臓病等総合支援センター」出雲剛センター長～

「健康ハートの日2024 in GIFU」を じゅうろくプラザで開催

【概要】

2024年8月10日（土）、岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センター主催 「健康ハートの日2024 in GIFU」を、じゅうろくプラザにて開催しました。

101名の方にご参加いただき、「分かりやすかった」「さらに詳しく聞きたかった」など、ご好評いただきました。

【実施内容】

○講演「ここまで進んだ狭心症の診断と治療」

講師：岐阜大学医学部附属病院 循環器内科 教授 大倉 宏之先生

○デモンストレーション「命を救おう！みんなで学ぶ心肺蘇生講座」

「チームで行う、心臓カテーテル治療最前線」

○座談会「急性心筋梗塞にならないために、なってしまったら」

講師：岐阜大学医学部附属病院 大倉 宏之先生

岐阜ハートセンター 松尾 仁司先生

メディカルスタッフ他



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/8/11	岐阜	心臓病の治療法 県内病院が紹介 岐阜市でイベント ～医学部附属病院循環器内科 成瀬元気 医師～

「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展を開催

【概要】

2024年9月28日（土）から10月18日（金）までの期間、「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展を開催いたします。

この写真パネル展は、遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）当事者の声を広く社会に伝えることにより、社会啓発、遺伝医療 への貢献、当事者とご家族のサポート、エール（応援）を送ることを目的に、遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）当事者会クラヴィスアルクスと東海地区の遺伝カウンセラー、当院のゲノム疾患・遺伝子診療センターが共催して行います。

今回のパネル展は、昨年度から巡回箇所が増え、今年度は東海地方9ヶ所を巡回しています。患者さんやご家族、地域の皆様のご来場をお待ちしております。

「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展

日時：2024年9月28日（土）～10月18日（金）8時30分～17時00分

場所：岐阜大学医学部附属病院 1階イベントコーナー

主催：岐阜大学医学部附属病院 ゲノム疾患・遺伝子診療センター

共催：特定非営利活動法人クラヴィスアルクス

* 遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）とは生まれつきBRCA1もしくはBRCA2遺伝子のいずれかの変化が原因で乳がん、卵巣がん、膵がん、前立腺がんなどが発症しやすくなる体質のひとつです。遺伝子の変化の有無を調べて確定診断されれば、がんの予防や早期発見のための対策がとれますが、一方で自分自身や家族への影響を心配し心理的不安を抱えることもあります。

「遺伝性がん当事者からの手紙」

写真パネル展



（東海りしー開催）

☆どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

2024年	7月 1日(月)～ 7月26日(金)	静岡県立総合病院 〒420-8527 静岡県浜松市東区4丁目222番1号
	7月29日(月)～ 8月30日(金)	松波総合病院 〒5001-6502 岐阜県岐阜市堀切町1055-1
	8月30日(金)～ 9月19日(木)	名古屋市立大学病院 〒460-0002 名古屋市中区錦区西郷町1番1号
	9月28日(土)～ 10月18日(金)	岐阜大学医学部附属病院 〒500-1194 岐阜県岐阜市昭和1番1号
	10月24日(水)～ 11月13日(火)	愛知県がんセンター 〒464-0581 名古屋市中区赤坂三丁目1番1号
	11月18日(日)～ 11月29日(金)	浜松医科大学医学部附属病院 〒431-3192 浜松市中区平田山一丁目20番1号
	12月 4日(水)～ 12月25日(水)	藤田医科大学病院 〒470-7192 愛知縣豊橋市森岡町南4丁目1番1号
2025年	1月 6日(日)～ 1月24日(金)	三重大学医学部附属病院 〒514-8507 三重県津市江原町2-174
	2月 3日(月)～ 2月21日(日)	岐阜卓総合医療センター 〒500-8717 岐阜市柳一丁目4-1

協力：東海連医カウセリング研究会、一般社団法人日本遺伝カウンセリング学会、特定非営利活動法人クワイース アルクス

令和6年度「患者紹介・受入医療機関への感謝状」を贈呈

【概要】

岐阜大学病院では例年、前年度の実績より本院に多数の患者を紹介・受け入れていただいた上位の医療機関へ直接訪問しています。感謝とさらなる連携のお願いの意を込めて、岐阜大学病院 秋山病院長、総合患者サポートセンター副センター長より各病院、各診療所の病院長、理事長、院長へ感謝状の贈呈を行いました。



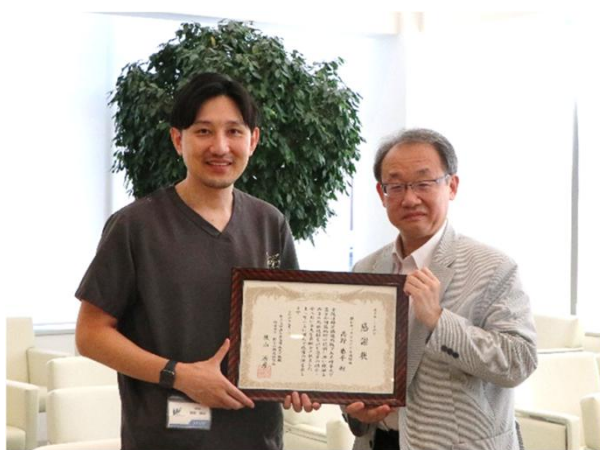
操健康クリニック（右）操潤 理事長
（中）清王 英子 副院長



あいレディースクリニック 坂口 英樹 院長



（右）松波総合病院 松波病院長
（左）堀川副センター長



（左）操レディースホスピタル 高野病院長
（右）堀川副センター長



（中央右）朝日大学病院 日下病院長
（中央左）堀川副センター長

古家琢也教授がロボット外科学会の Robo-Doc Pilot 国際A級を取得

【概要】

泌尿器科長 古家琢也 教授がロボット外科学会のRobo-Doc Pilot 国際A級を取得しました。

国際A級の取得者は、全診療科において県内初となります。

Robo-Doc Pilotは日本ロボット外科学会により認定される専門医資格です。国際A級の取得には、豊富な執刀症例数やプロクター（他施設での手術指導）経験に加え、ロボット関連の英文論文が必要とされています。

（申請クラス）

ポイント数が下記のいずれかを満たす者

- ・ 国際S級 3000ポイント以上取得者
- ・ 国際A級 1000ポイント以上取得者
- ・ 国際B級 500ポイント以上取得者
- ・ 国内A級 300ポイント以上取得者
- ・ 国内B級 30ポイント以上取得者

（ポイント算出方法）

Robo Doc certificateポイント算出方法

- ・ 計算式：症例数× 術式係数× 役割係数

詳しくは、日本ロボット外科学会ホームページ（外部リンク）をご覧ください
<https://j-robo.or.jp/senmon/>

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/1/12	中日	古家医師 県内初の取得 ロボット外科手術「国際A級」認定 迅速でより正確「患者のために」 ～医学部附属病院泌尿器科 古家琢也医師～

クリスマスイルミネーション点灯式を開催

【概要】

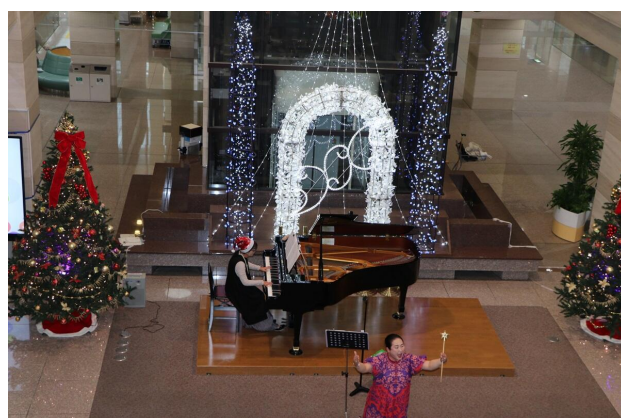
令和6年11月20日（水）、病院1階イベントコーナーにおいて、クリスマスイルミネーションの点灯式を開催しました。

イベントコーナーには高さ3.5メートルのクリスマスツリー、また中庭には可愛らしいサンタクロースや雪だるまの人形を設置し、それらにイルミネーションを施すことで、訪れる皆さんに楽しんでいただける趣向としています。

点灯式では、病院長の挨拶に続き、さわやかサービス推進室長の音頭により会場に集まったみなさん全員でカウントダウンを行い、イルミネーションが一斉に点灯されました。

続いて"師弟コンビ 紅い花音♪"のお二人を迎え、ピアノ伴奏による歌とおしゃべりのコンサートを開催しました。軽快なトークを織り交ぜた愉快的ステージに、つめかけた皆さんは十分に満足された様子でした。

イルミネーションは来年1月中旬ごろまでお楽しみいただけますので、ぜひご覧ください。



令和6年度看護師特定行為研修修了式を執行

【概要】

3月10日（月）、看護師特定行為研修修了式を開催しました。

本研修の第5期生として修了した看護師15名に対し、秋山病院長から修了証書が手渡されました。

秋山病院長は「ぜひ実地でこの研修の成果を遺憾なく発揮してほしい」、土井特定行為研修センター長は「医師のタスクシフトは喫緊の問題であり、皆さんの活躍が必要不可欠となる」と祝辞を述べました。

研修生代表は「研修で得た知識・技術を用いて、手術部看護師・及び特定看護師として、手術看護の質向上に努めます。また、医師の働き方改革の一環として、麻酔管理補助業務に積極的に携わり、医師のタスクシフト・シェアに貢献できるように頑張りたいと思います。」と抱負を語りました。

本院は今後も、社会に貢献できる自律した看護師を育成することに努めます。



研修生代表挨拶



記念撮影



病院長祝辞



センター長祝辞

学生活動等



- ・「Tongaliビジネスプランコンテスト2024」で2つの学生チームが入賞
- ・飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！「東海クライマックスシリーズ2024」を開催
- ・岐阜大学フォーミュラレーシングチームが「学生フォーミュラ日本大会2024」で総合5位を獲得
- ・AIアイデア作品を制作した学生がAIスペシャリストの認定資格を取得
- ・学生ボランティア団体「ゆにiinくる」が「医療的ケア児者を応援する市区町村長ネットワーク」から受賞
- ・「Tongaliアイデアピッチコンテスト2024」で2つの学生チームが入賞
- ・土木デザイン設計競技イベント「景観開花。」において学生グループが優秀賞を受賞
- ・「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を開催
- ・本学学生チームがVR作品制作大会「IVRC2024」で総合優勝
- ・岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施
- ・学生が企画・運営する企業展「業界研究セミナー」を開催
- ・岐阜大学基金「バロー・Vドラッグ海外研修奨学金 助成事業」派遣学生（2名）による報告会を開催

「Tongaliビジネスプランコンテスト2024」で 2つの学生チームが入賞

【概要】

令和6年6月15日（土）に開催された学生発ベンチャーの創出と起業家育成を目的としたコンテスト「Tongaliビジネスプランコンテスト2024」において、本学学生チームが優れた成績を収めました。

今年は予選で過去最多の65チームが参加し、その予選・準決勝を勝ち抜いた16チームが競い合う決勝の舞台で、本学から参加した2チームが見事に入賞（5位以内）を果たしました。複数チームが入賞を果たすのは本学にとって3年連続の快挙です。

7月4日（木）には、入賞した2チームの学生が学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。入賞者からはコンテストで披露したビジネスプランの報告があり、優秀賞チーム「GenomicGarden」代表の斉藤海星さんは、「ダメ元で挑戦したコンテストでしたが、優秀賞・海外チャレンジ賞を受賞することができうれしく思います。私たちのアイデアが評価され、自信につながりましたし、今後もこの経験を活かして、更に活動を展開していきたいです」と語りました。また、5位チーム「乳牛を救いたい」代表の山本真菜さんは、「乳牛を救いたいという思いで、チーム一丸となって努力した結果が報われてうれしいです。この経験を通じて多くのことを学びましたし、今後も挑戦を続けていきたいです」と述べ、それぞれ入賞の喜びや今後の抱負を吉田学長に伝えました。

吉田学長からは、「今回の入賞は皆さんの努力と創造力の賜物です。素晴らしい成果を挙げられたこと、また岐阜大学が3年連続で複数チーム入賞を果たしたこと大変うれしく思います。これからも常に学び、自分たちの可能性を信じて何事にも挑戦してください。皆さんの成長と成功を応援しています」と激励がありました。

本学は今後も学生たちの挑戦と成長を全力でサポートし、「学び、究め、貢献する」人材の輩出に努めてまいります。

入賞した学生チームのメンバーは以下のとおりです。

■チーム「GenomicGarden」

テーマ：ミニブタを用いたPharm Technology

代表：応用生物科学部共同獣医学科4年 斉藤 海星

メンバー：高等研究院 高須 正規准教授、杷野 一輝研究員

受賞名：Tongali賞 優秀賞（2位）、海外チャレンジ賞

■チーム「乳牛を救いたい」

テーマ：いちごで飛驒牛！？

代表：自然科学技術研究科生命科学・化学専攻1年 山本 真菜

メンバー：自然科学技術研究科生命科学・化学専攻1年 山本 慶香、寺田 昂太郎、
近間 琴海

受賞名：Tongali賞 5位、OKB賞

「Tongaliビジネスプランコンテスト2024」で2つの学生チームが入賞



コンテスト当日の様子：斉藤さんによる発表の様子



コンテスト当日の様子：
チーム「乳牛を救いたい」入場シーン



吉田学長への入賞報告の様子



記念写真
(奥左から)大藪副学長、吉田学長、上原教授
(手前左から)斉藤さん、山本真菜さん、山本慶香さん、
近間さん、寺田さん

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/7/5	岐阜	中高生・学生ビジネスプランコンテスト 岐阜大生2チーム 全国入賞 ～応用生物科学部共同獣医学科4年 斉藤海星さん、 自然科学技術研究科1年 山本真菜さん、山本慶香さん、 寺田昂太郎さん、近間琴海さん～
2024/7/24	中日	岐阜大チーム2位、5位 トンガリビジネスプランコン 臓 器移植用のミニブタ生産推進／イチゴのはで飛驒牛の受精率 向上 ～応用生物科学部共同獣医学科4年 斉藤海星さん、 自然科学技術研究科1年 山下真菜さん、山本慶香さん、寺 田昂太郎さん、近間琴海さん～

飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！ 「東海クライマックスシリーズ2024」を開催

【概要】

岐阜大学 航空宇宙生産技術開発センターは、9月20日(金)に岐阜メモリアルセンターにおいて、飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦「東海クライマックスシリーズ2024」を開催しました。

本大会は、岐阜大学 工学部所属の4年生、名古屋大学 工学部所属の3年生を対象とした、飛行ロボット(自律滑空機)を設計・製作する授業より選抜された機体に参加し、どの機体が最も優れた飛行を見せるかを競いました。

これらの様子は東海国立大学機構の松尾清一機構長、吉田和弘岐阜大学学長、今年度より顧問に就任された森脇久隆氏(前岐阜大学学長)をはじめとする関係者、および一般観覧者96名の方が会場にて観覧され、オンラインでは後日配信で59名(9月26日時点)の方が視聴される予定です。

今大会は、岐阜大学2チーム、名古屋大学2チームの合計4チーム12名の学生により競技が行われ、各チーム3回のフライトを行った中で発射台(離陸台)からの距離と、中心線からの角度、壁まで到達した場合、到達点の高さを独自の計算式に当てはめて計算し、その総合得点をチーム記録とするルールで行いました。また、コース上に初めて業務用送風機が登場し外乱を発生させるなど、今までより難易度の高い競技となりました。

競技会は名古屋大学Bチームが総合得点37点で優勝し、3回のフライトとも35メートルを超える素晴らしい飛行を見せました。また、川崎重工業株式会社の有志チームと岐阜大学TAチームによるエキシビションマッチも行われたほか、各学生チーム機体のデザイン投票を来場者全員にご参加いただき、最も投票の多かったチームにデザイン賞を授与する等、今までにない盛り上がりを見せました。

競技後に大反省会として、それぞれの飛行ロボットのフライト動画を見ながら反省点を述べるとともに、他チームからの質問に答えるなど、普段交わることが少ないそれぞれの大学の学生間での交流が生まれ、貴重な体験となりました。

最後に、東京大学名誉教授、鈴木真二先生から、「航空機開発の最新動向：脱炭素化と次世代エアモビリティ」と題して特別講演をいただき、学生にとってはまたとない貴重なお話を伺う機会となりました。

次回以降も盛大なイベントとなるように、これから企画を進めていく予定としています。



競技中の様子(1)



競技中の様子(2)

飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！
「東海クライマックスシリーズ2024」を開催



大反省会で両大学の学生が交流する様子（１）



大反省会で両大学の学生が交流する様子（２）



最優秀賞（名大Bチーム）



優秀賞（岐大Bチーム）



特別講演を行う 鈴木 真二先生



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/9/21	岐阜	飛行ロボ「東海シリーズ」 岐阜大生と名大生、距離競う～航空宇宙生産技術開発センター、岐阜大Aチーム 池田凜さん～
2024/9/22	中日	学生の飛行機 岐阜大VS名大 岐阜で飛行距離競う大会～航空宇宙生産技術開発センター、岐阜大Aチーム 池田凜さん～

岐阜大学フォーミュラレーシングチームが「学生フォーミュラ日本大会2024」で総合5位を獲得

【概要】

令和6年9月3日（火）～14日（土）にオンライン及びAichi Sky Expo（愛知県国際展示場）で行われた「学生フォーミュラ日本大会2024」において、本学学生チームの岐阜大学フォーミュラレーシングが2年連続の入賞となる総合5位を獲得しました。本大会は、学生が自ら構想・設計・製作した車両により、ものづくりの総合力を競う大会で、国内外から参加した78のチームが激しい競争を繰り広げました。

10月8日（火）には、学生3人と指導教員の菊地准教授が吉田学長を訪問し、受賞の報告を行いました。学生を代表して自然科学技術研究科1年の高木 寛登（たかぎ かくと）さんは「総合5位という好成績を収められたことは嬉しいが、もっと上を目指せた部分もあった。特に種目別では2種目で2位を獲得したが、1位とは僅差であり、悔しさも感じた。来年は今年の課題をしっかりと分析し、より上位を目指したい」と話しました。

吉田学長からは「タイムを競うだけでなく、ものづくりの総合力を競う大会で総合5位という結果は素晴らしい。生産技術は岐阜大学の強みの1つであり、大会を通じて得られた技術や経験をこれからも受け継いでいって欲しい。卒業後も大学との関わりを持ち続け、大学の力になって欲しい」と激励と期待の言葉が述べられました。岐阜大学フォーミュラレーシングのより一層の活躍に期待が寄せられます。



大会での集合写真



学長への報告の様子



記念写真（左から）菊地准教授、宮崎さん、安藤さん、高木さん、吉田学長、大藪副学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/10/11	岐阜	岐阜大チーム総合5位 レース車設計製作「学生フォーミュラ」 学長に報告 旋回、走行性能で検討 ～学生サークル「岐阜大フォーミュラレーシング」自然科学技術研究科2年 安藤丈流さん、同1年 高木寛登さん、工学部機械工学科3年 宮崎凌太さん、吉田和弘 学長～

AIアイデア作品を制作した学生が AIスペシャリストの認定資格を取得

【概要】

岐阜大学工学部情報コースの3年生約70人を対象とした必修科目「情報工学実験Ⅲ」の一環で、一部のチーム学生がNVIDIA社の提供するAI認定資格「Jetson AI Specialist」を取得しました。この資格は、大手半導体メーカーであるNVIDIA社が提供するAI技術の実践力を証明する認定資格です。

「情報工学実験Ⅲ」では、実践的なAI（人工知能）教育の一環として、2023年度にAIを備えた小型コンピューターを受講学生一人につき一台導入し、画像処理やロボット制御、音声認識など、さまざまなAI技術の開発に取り組んでいます。学生たちはAIの専門知識を深めつつ、チームごとにAIを活用したアイデア作品を設計・実装し、成果発表を行います。そして、最終的には認定資格の取得を目指します。また、本科目は文部科学省の令和6年版科学技術・イノベーション白書において、特色あるAI関連研究開発の取組事例として紹介されました。

<認定資格取得の対象となったAIアイデア作品>

「スマートゴミ箱 ～ゴミを吐き出すゴミ箱～」

林隼人、立岩侑大、玉城洵弥

「擬似ネコちゃん ～お前の本性を見抜く訓練用ロボット～」

高木美吹、満仲香苗、後藤志織

「視覚障害者横断補助システムWith Jetson Nano」

Seong Minsik、舟橋奈槻、嶋津幸孝

学生たちからは「AIをゼロから設計・実装する経験ができ、実践的なスキルを磨くことができた」「自分たちが考えたAIアイデアが実際に動作する瞬間は感動的であり、AIの可能性をさらに感じた」などの感想が寄せられました。また、本科目の指導教員である工学部の加藤邦人教授は「日本国内でこの認定資格を認定者は非常に少なく、本学の学生たちが認定資格を取得したことは快挙です。今後もAIのスペシャリストを目指して学んでほしい」とコメントしました。

岐阜大学は引き続き、実践的なAI教育に力を注ぎ、地域や実社会で即戦力として活躍できる人材育成を推進していきます。



記念写真



AIアイデア作品の一つ「擬似ネコちゃん」

学生ボランティア団体「ゆにんくる」が 「医療的ケア児者を応援する市区町村長ネットワーク」から受賞

【概要】

岐阜大学の学生ボランティア団体「ゆにんくる」が、「医療的ケア児者を応援する市区町村長ネットワーク」主催の「第1回スペシャルニーズ応援アワード」※において表彰され、令和6年11月26日（火）に吉田学長へ受賞の喜びを報告しました。

「ゆにんくる」は、医療的ケア児者やその家族が外出先で困らない社会を目指し、ユニバーサルシート（多目的トイレに設置された大人用ベッド）の設置状況を調査し、「ユニバーサルシートマップ」を制作しました。このマップは、紙の地図とアプリ版の2種類を制作し、幅広い世代が利用しやすい工夫がなされています。また、利用者がシートの場所や環境を事前にイメージできるよう、詳細な情報も掲載されている点などが高く評価されました。

活動の中で、昨年「ゆにんくる」を立ち上げた地域科学部地域文化学科4年の加藤みのりさんは、「ユニバーサルシートの認知度が低いことから、調査ではシートの説明から始める必要があり予想以上に大変でしたが、少しずつ社会の理解が広がっていると感じます」と振り返りました。また、代表を引き継いだ医学部看護学科2年の増田遥さんは、「他県ではユニバーサルシートの設置義務化が条例で定められている地域もあります。これらを参考にしながら、岐阜を中心に活動をさらに発展させたい」と今後の展望を語りました。

吉田学長は、「今回の受賞は、地域社会に貢献し、やさしいまちづくりに向けて取り組んでいるみなさんの活動が高く評価された証です。引き続き、地元岐阜からユニバーサルシートの普及が広まるような活動に期待をしています。そして、岐阜大学の保健管理センターでは、南フロリダ大学と協定を結び、公衆衛生などの取り組みで幅広く連携しているので、そのような機会を活用して将来は海外にも活動を広げてほしい」と激励しました。

「ゆにんくる」の活動は、誰もが安心して外出できる社会の実現に向けた大学生の行動力を示す好例であり、今後さらに広がりを見せることが期待されます。

※第1回スペシャルニーズ
応援アワード：

飛騨市長が会長を務める
「医療的ケア児者を応援
する市区町村長ネット
ワーク」が開催する表彰
制度で、医療的ケア児者
を支援する取り組みを称
えるために創設されまし
た。本年度が第1回目の開
催であり、全国の優れた
支援活動27件の取り組み
の中から4件が表彰されま
した。



ユニバーサルシートマップ



案内チラシ

学生ボランティア団体「ゆにいんくる」が
「医療的ケア児者を応援する市区町村長ネットワーク」から受賞



昨年「ゆにいんくる」を立ち上げた
加藤さんによる報告の様子



代表を引き継いだ増田さんによる報告の様子



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/7	岐阜	岐阜大の学生奉仕団体「ゆにいんくる」 医療ケア児支援全国表彰 介助用大型ベッド設置の地図発行 ～学生ボランティア団体「ゆにいんくる」発起人 地域科学部4年 加藤みのりさん～
2024/12/28	岐阜	医療的ケア児支援 表彰2団体が報告 岐阜市役所 ～学生ボランティア団体「ゆにいんくる」～

「Tongaliアイデアピッチコンテスト2024」で 2つの学生チームが入賞

【概要】

令和6年11月9日（土）に開催された「Tongaliアイデアピッチコンテスト2024」において、本学から出場した2つの学生チームが優れた成績を収めました。

「Tongaliアイデアピッチコンテスト」は、大学生・中高生などが社会課題や自身の挑戦したいテーマに基づく斬新なアイデアを発表し、その実現を目指すための起業家精神や挑戦意欲を育むことを目的として開催されています。今年は過去最多の184チームがエントリーし、予選・準決勝を勝ち抜いた計15チームが決勝の舞台でプレゼンテーションを行いました。

本学からは、2つの学生チームが決勝に出場し、それぞれのアイデアが高い評価を受け、下記のとおり受賞しました。

チーム「GIVELOVE」

テーマ：「GIVELOVE ～困ったシニアとその家族と、大学生をつなぐ見守り・お手伝いサービスで、温かなつながりを～」

代表：北川愛子（地域科学部2年・起業部所属）

受賞：Tongali賞3位、海外チャレンジ賞、名古屋銀行賞、名鉄賞

チーム「Hundale(ハンデール)」

テーマ：「教員の負担を減らし教育をより良いものに」

代表：船曳巧馬（教育学部1年・起業部所属）

受賞：野村證券賞

12月5日（木）には、受賞した両チームの代表学生が学長室を訪れ、コンテストで披露したアイデアの詳細や成果を吉田学長へ報告し、今後の展望について語りました。

地域科学部2年の北川さんは、「介護施設でのボランティア活動を通じて、多くのシニアの方々が社会的に孤立し孤独を感じている現状を目の当たりにし、シニアと地域や学生をつなぐ仕組みとしてGIVELOVEを提案しました。今回の受賞を励みに、来年には起業をして本格的に課題解決へ向けて活動していきます」と語りました。また、教育学部1年の船曳さんは、「オーストラリアへの留学を通じて、現地の教員は子どもたちと向き合う時間を多く確保している一方で、日本の教員は業務が多岐にわたり、子どもと接する時間が限られてしまっていることを感じました。そのため、教員の負担を軽減して子どもたちと向き合う時間を増やす仕組みを考案しました。今後は日本の教育現場での実習などを経験して、より良い教育を行うための解決策などを考えていきたいです」と語りました。

吉田学長は、「起業部の先輩たちが築いてきた実績や姿勢から学び、さらに挑戦を続けられているみなさんを頼もしく思います。これからも新しいことに挑戦し続け、社会をより良くするアイデアの実現に向けてがんばってください」と激励しました。

本学は今後も、学生たちのアイデア実現を支援し、地域や他大学との連携を強化して、新たなイノベーションの創出を目指してまいります。

「Tongaliアイデアピッチコンテスト2024」で
2つの学生チームが入賞

※Tongali(Tokai Network for Global Leading Innovation) :
東海地区を中心とした大学・高専が連携して、学生たちの起業家精神を育むことを目的に多様な支援やイベントを提供する起業家育成プロジェクトです。本コンテストは、その一環として、学生が社会課題の解決に向けたアイデアを発表し、実現への第一歩を踏み出す場として開催されています。



受賞報告の様子



記念写真
(左奥から) 大藪副学長、吉田学長、上原教授
(左前から) 北川さん、船曳さん

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/11/12	中日	大学生ら 起業アイデア競う 西区でコンテスト 15チーム参加
2024/12/8	中日	岐阜大生 起業アイデアで受賞 ボランティア、研修体験から ～地域科学部2年 北川愛子さん「GIVELOVE」、教育学部1年 船曳巧馬さん「Hundale」～
2024/12/12	岐阜	岐阜大起業部 2人入賞 孤立感じる高齢者の悩み解決事業／教員の事務作業受託処理サービス ～地域科学部2年 北川愛子さん「GIVELOVE」、教育学部1年 船曳巧馬さん「Hundale」～
2024/12/31	朝日	若者ひらめき 新事業を開拓 アイデアピッチコンテスト 岐阜大の2学生入賞 ～起業部 地域科学部2年 北川愛子さん、教育学部1年 船曳巧馬さん～

土木デザイン設計競技イベント「景観開花。」において 学生グループが優秀賞を受賞

【概要】

岐阜大学の都市・景観研究室の学生グループが、12月1日（日）に仙台市で開催された土木デザイン設計競技イベント「景観開花。」において、第2位となる優秀賞を受賞しました。このイベントは、土木デザインに関心のある若者がその力を試せる場を提供するとともに、多くの人々へ向けて土木デザインの可能性を示すための設計競技イベントです。

今年度の「景観開花。」は、「Oregional Transport Hub ～選ばれる街に求められる交通結節点をデザインせよ～」という設計テーマのもと開催されました。全国から32グループがエントリーし、ポスター作品による一次審査を通過した5グループが公開最終審査会でプレゼンテーションを行いました。本学学生グループは、大垣市の駅前広場を対象にしたデザイン提案作品「垣をほどく」を発表し、歴史的背景や地域特性を活かした新たな都市空間の提案を行い、高い評価を得ました。

本作品「垣をほどく」は、歴史的に水運が地域文化を支えてきた大垣市に焦点を当て、交通結節点である大垣駅南口駅前を対象地としました。作品のコンセプトを「水運や水辺の風景を創造することで、垣をほどく」とし、複雑に絡まる交通導線とその境界（垣）を整理する（解く）ことで新たな空間を創造し、水都大垣ならではの水運による移動体験を提供するなど、地域資源を最大限に活用しながら多様な活動を促す都市空間の再生を目指しました。

学生グループを代表して、大学院自然科学技術研究科2年の駒月さんは、「対象地選定の段階からグループメンバーとの議論が白熱して多くの意見が交錯しましたが、最終的にはみんなで協力して良い作品にすることができました。優秀賞を受賞できてうれしいです」と語りました。また、同1年山田さんは、「大垣駅南口駅前エリアを対象地と決めた後には、船着き場・公園・ロータリーといった広い空間の利活用について、具体的なデザイン案を練り上げてみんなの意見や想いを詰め込んだ作品を形にすることができてうれしかったです」と語り、チームでの協力が受賞につながったことをそれぞれ振り返りました。さらに、今後学生グループは大垣市に本作品を提案する予定です。

岐阜大学は、これからも地域社会と連携し、学生の挑戦を後押ししていきます。

提案作品： 垣をほどく

学生グループ：

大学院自然科学技術研究科 2年 菱田佑樹、駒月健太

大学院自然科学技術研究科 1年 宮川朗、青木佑太郎、山田蓮人

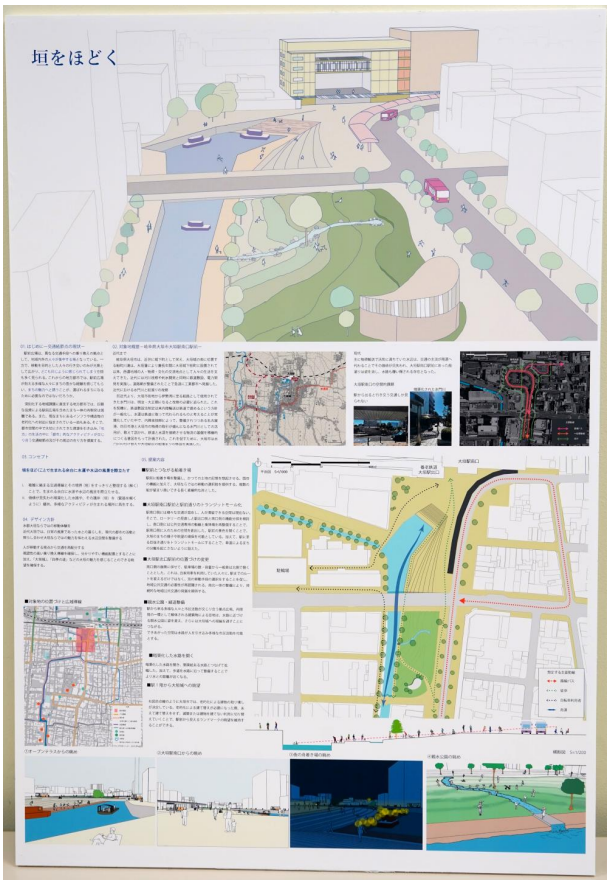
社会システム経営学環 4年 船田颯太

指導教員： 社会システム経営学環 教授 出村嘉史（都市・景観研究室）

土木デザイン設計競技イベント「景観開花。」において
学生グループが優秀賞を受賞



記念写真



「垣をほどく」ポスター作品

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/1/26	中日	岐阜大生グループ優秀賞 都市計画デザイン競うコンテスト 大垣駅前に水辺の風景を創造 ～都市・景観研究室（出村嘉史教授）、自然科学技術研究科1年 山田蓮人さん～
2025/3/25	岐阜	土木デザインの全国大会 岐阜大グループ優秀賞 「水運と大垣駅前」提案 ～出村嘉史教授、大学院自然科学技術研究科2年 駒月健太さん、1年 山田蓮人さん～

「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を開催

【概要】

本学は、教育学部附属小中学校の児童生徒を対象に「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を十六銀行と共催で開催しました。

このコンクールは、十六銀行と締結した「環境保全における連携に関する覚書」の一環として、SDGsについて考え、省エネ、環境美化運動やごみ減量など身近な視点から、エコ活動を啓発する目的で実施したものです。

ポスター作品の募集については今年で14回目を迎え、今回新たな試みとして川柳部門を設けて作品募集を行いました。厳正な審査の結果、応募作品からポスター部門、川柳部門ごとに最優秀賞、優秀賞、十六フィナンシャルグループ賞を決定しました。

12月6日（金）には、受賞作品の表彰式を行いました。表彰式では、受賞した児童生徒一人ひとりに吉田学長より表彰状が、十六銀行の所取締役専務執行役員より副賞が手渡されました。吉田学長は「今年からは川柳の作品も加わりました。どの作品も一つひとつみなさんの思いが込められていてすばらしい作品でした。今回の作品に込めた思いを、普段の活動でも心がけ、また、その活動をまわりの人々にも広めてほしい」と述べ、所取締役専務執行役員は「多様性を持ったみなさんの視野視点から生まれたインパクトのある作品でした。環境問題に関して高い意識をもって、継続していくことが大切」と述べました。これを受けて、藤井附属小中学校長は「児童生徒たちの環境を大切にしたいという願いと、なんとか表したいという工夫が作品にあらわれている。この取り組みを通して、児童生徒の学びの機会を与えていただいた」と述べました。

また、ポスター部門で最優秀賞を受賞した1年生の樋上澄伶さんは「この作品に電気の無駄遣いをしないでというメッセージを込めた」、川柳部門で最優秀賞を受賞した6年生の岩田悠誠さんは「自分でも気に入った川柳で選ばれて嬉しい」と思いを語りました。

受賞作品はこれまで本学の図書館に展示され、地域の方も含め多くの方にご覧いただきました。今後は、令和7年1月8日

（水）～24日（金）にかけて十六銀行加納支店にて展示され、令和7年1月27日

（月）～2月7日（金）には十六銀行岐南支店で展示予定です。

本活動が環境について考えるきっかけとなり、エコ活動が広がっていくことを期待しています。



受賞した児童生徒との記念撮影

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/14	岐阜	付属小中生6人入賞 岐阜大と十六銀「エコ啓発ポスター・川柳」～教育学部附属小中学校 1年 樋上澄伶さん、6年 岩田悠誠さん、吉田和弘 学長～

本学学生チームがVR作品制作大会 「IVRC2024」で総合優勝

【概要】

岐阜大学の学生チームが、VR作品制作大会「IVRC2024」において、VR作品「中継(カメラ)を止めるな！～究極のフォーミュラレース中継体験～」を制作し、岐阜県勢として初めて総合優勝を果たしました。さらに、世界的VRイベント「Laval Virtual 2025」（2025年4月、フランス・ラヴァル開催）への招待権を兼ねた「Laval Virtual Prize」も同時受賞し、世界中から最先端のVR作品が集結する国際舞台への切符を手に入れました。

「IVRC2024」には86件の企画応募があり、その中から21作品がSEED STAGE（予選）に進出し、最終的に11作品が決勝の舞台であるLEAP STAGEで競い合い、本学学生チームがその頂点に立ちました。

本作品は、フォーミュラレースの中継カメラマンを疑似体験できるVR作品です。カメラマンが時速300km以上で疾走するマシンを追う際に感じる風や音を、送風機や立体音響を駆使してリアルに再現し、実寸大のカメラデバイス进行操作することで本格的な中継体験を楽しめる点などが高く評価されました。

12月19日（木）には、学生チームが学長室に訪れ、作品制作に込めた思いや受賞の喜びを報告してくれました。チーム代表の阪井さんは「作品制作の過程では大変なことがたくさんありましたが、チームメンバーと協力して実際にサーキット場へ取材に伺うなど、F1の世界をリアルに再現することにこだわりました。また、カメラデバイスの重さや操作感、立体音響、送風機、振動デバイスなどを駆使して細部までこだわった作品に仕上げ、優勝することができてうれしいです」と語ってくれました。

岐阜大学は、学生たちの挑戦を支援し、さらなる活躍を期待するとともに、社会に新たな価値を創造する人材の育成に努めてまいります。

※IVRC(Interverse Virtual Reality Challenge)：

学生や若いクリエイターたちがインタラクティブな作品を企画・制作し、その成果を競い合うコンテストです。日本バーチャルリアリティ学会が主催する本大会は1993年から毎年開催され、VR/AR技術の革新と次世代の創造力を育む場として注目されています。

受賞名：総合優勝、Laval Virtual Prize

チーム：モータースポーツの魅力つたえ隊

大学院自然科学技術研究科 2年 阪井 啓紀、小木曾 直輝、野倉 大輝

大学院自然科学技術研究科 1年 早崎 雅人

工学部 電気電子・情報工学科 情報コース 3年 伊東 蒼真

工学部 電気電子・情報工学科 機械コース 3年 高木 祐輔

工学部 電気電子・情報工学科 情報コース 1年 水野 聡太、石井 智己

本学学生チームがVR作品制作大会「IVRC2024」で総合優勝



受賞報告する阪井さん



VR作品について解説する様子



記念写真



VR作品体験の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/1/4	岐阜	岐阜大チーム総合V F1カメラマン疑似体験できるVR作品 東京でコンテスト 風やエンジン音、忠実に ～自然科学技術研究科2年 阪井啓紀さん、小木曽直輝さんら、吉田和弘学長～

岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施

【概要】

令和7年1月21日（火）に岐阜大学基金学長特別表彰の贈呈式を実施しました。

この制度は、令和5年10月に岐阜大学基金を活用して新たに設けられた表彰制度で、本学の教職員および学生等を対象に、本学の名誉を著しく高めたと認められる個人や団体に対して学長が表彰するものです。

この度、岐阜大学学生チーム「モータースポーツの魅力つたえ隊」は、フォーミュラレース中継のカメラマンを疑似体験できるVR作品を制作し、昨年10月26日～27日に開催されたVR作品制作大会「*IVRC2024」において、岐阜県勢として初めて総合優勝を果たすとともに、令和7年4月にフランスで開催される世界的VRイベント「Laval Virtual 2025」への招待権を兼ねた「Laval Virtual Prize」も同時受賞しました。本件は新聞にも大きく掲載され、本学の名誉を著しく高めた事由と認められることから、今回の贈呈となりました。

贈呈式では、学長から「Laval Virtualへは本学が3年連続の参加となり、是非ともいい報告を待っています。」と激励され、表彰状とともに、副賞の活動支援金が授与されました。学生からは「この作品は多くの人のご支援により完成することができたもので、大学からこのような賞をいただけることを嬉しく思います。」応えられました。

本学は、本制度が教職員及び学生のモチベーション・アップに少しでも繋がることを期待しています。

* IVRC(Interverse Virtual Reality Challenge) :

学生や若いクリエイターたちがインタラクティブな作品を企画・制作し、その成果を競い合うコンテストです。日本バーチャルリアリティ学会が主催する本大会は1993年から毎年開催され、VR/AR技術の革新と次世代の創造力を育む場として注目されています。



贈呈式の様子



集合写真

学生が企画・運営する企業展 「業界研究セミナー」を開催

【概要】

12月14日（土）・15日（日）に、第23回岐阜大学学生企業展「業界研究セミナー」を開催しました。本企業展は毎年開催されており、学部3年生の学生有志が中心となって大学公認の実行委員会を組織し、企画・運営を行う学内最大規模の企業展です。

本企業展には約160社の企業が出展し、就職活動中の学部3年生・修士1年生を中心に、延べ約500名の学生が参加しました。参加学生からは「様々な企業と直接話ができるのはとても実りある経験だと感じた」「知らなかった会社に出会えた」などの感想が寄せられました。

2月5日（水）には、実行委員長の西内智哉さん（工学部3年生）、副実行委員長の栗木祐和さん（同）、瀬尾直生さん（同）が学長へ開催報告を行いました。西内さんは、出展企業や業務委託会社との連絡調整といった大きな責任を担いながら、実行委員7名とともに議論を重ね、関係者の協力を得て無事に開催できたことへの達成感を語りました。また、今年度の広報活動では、食堂に三角POPを設置するなど多くの学生の目に触れるような工夫によって学生の参加が増加したことを報告しました。

吉田学長からは、学生の自主的な取り組みにより企業展という大規模なイベントを成功させたことへの労いの言葉がありました。また、今回得たノウハウや課題を後輩に引き継ぐことで、さらなる工夫や戦略を生み出し、次年度の企業展をより発展させてほしいとの激励がありました。

本学は今後も学生の自主的な活動を応援し、就職活動をより一層支援していきます。



学生企業展の様子



学長報告

（前列左から、瀬尾さん、栗木さん、吉田学長、西内さん）

岐阜大学基金「バロー・Vドラッグ海外研修奨学金 助成事業」派遣学生（2名）による報告会を開催

【概要】

本学は、平成26年度から株式会社バローホールディングスおよび中部薬品株式会社からのご寄付により「バロー・Vドラッグ海外研修奨学金助成事業」を行っています。本奨学金は、本学の大学院生が海外の大学や研究機関で単位を取得したり、専門の研究を支援することを目的としています。

令和7年3月7日（金）に本奨学金を受給して派遣された、工学研究科3年の馬場梨瑛さんと、自然科学技術研究科1年の長崎弥生さんがバローホールディングス人材開発センター嫩葉舎（どんようしゃ）において成果報告を行いました。

馬場さんはインド工科大学へ約11ヶ月間留学し、「腐食減肉部のロボットアームを用いたWAAM技術による補修法の開発」をテーマに、金属3Dプリンティング技術を活用し、溶接きずを最小限に抑える補修方法について研究しました。

長崎さんはニュージーランドのマッセイ大学に約3ヶ月間留学し、「コオロギパウダーの消化性試験評価」をテーマに研究を行いました。研究では、コオロギパウダーの消化性を評価するための実験系を確立し、たんぱく質含量の測定や模擬消化試験を実施しました。

両名とも、留学中の異文化交流や奨学金の重要性についても報告し、奨学金が学業に専念するための大きな支えになったことについて、田代正美バローホールディングス代表取締役会長兼CEOに感謝の意を述べました。

岐阜大学基金では、今後も学生の様々な挑戦をサポートする取組を続けていきます。



報告会の様子



集合写真

その他



- ・ 創立75周年記念日行事を開催
- ・ 本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんがパリオリンピックの日本代表選手に内定
- ・ 森 秀樹 第11代岐阜大学長・名誉教授が『ボクの歩む道』を出版
- ・ 令和7年4月に大学院「社会システム経営学院」（修士課程）を新たに設置
- ・ パリオリンピックで5位入賞した赤松諒一さん（本学教育学研究科修了）が吉田学長を訪問
- ・ 第2回 岐阜大学ホームカミングデイ2024を開催
- ・ 第3回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を開催
- ・ ISO14001の認証登録を更新
- ・ 大藪副学長が第75回岐阜新聞大賞を受賞
- ・ 岐阜大学発認定ベンチャー企業、ファイバークレーズ株式会社の製品がParis Fashion Week Fall-Winter 2025に採用
- ・ 赤松諒一選手（本学教育学研究科修了）とスポンサー契約を締結
- ・ 絵画「檸檬の木」寄贈に伴う除幕式を開催

創立75周年記念日行事を開催

【概要】

本学は、令和6年6月1日（土）で創立75周年を迎えたことから、6月5日（水）講堂にて学内外の関係者など延べ約600名が出席のもと創立記念日行事を執り行いました。式典は、管弦楽団の演奏から始まり、吉田学長による学長報告、名誉教授称号授与、産学連携准教授等称号授与、学生表彰、感謝状贈呈を行いました。

吉田学長による学長報告では、本学における研究力の向上、地元企業や行政機関との連携による研究開発と技術移転の進展、地域との交流強化に加え、国際交流の推進についても報告し、今後も地域の中核大学として持続可能な社会実現に向けた研究推進と地域貢献活動の充実を図りながら、地域社会とともに発展していく決意を表明しました。

その後、第56回岐阜大学フォーラムとして、日本のダイバーシティ＆ワークライフバランス（WLB）コンサルタントとして著名な専門家の渥美由喜氏をお招きし、「ダイバーシティ × ユニバーシティ ～University for Diverse Communities～」というテーマのもと、基調講演が行われました。渥美氏は講演を通じて、女性の活躍推進やワークライフバランスの重要性に触れ、企業が持続可能な成長を遂げるためには、多様な人材を受け入れ、活用することが不可欠であることを述べました。また、働き方改革の必要性やその効果についても説明され、参加者は現実的な視点から自身の組織や働き方を見直すきっかけを得ることができました。

それを受けて、岐阜県労働局職業安定部の桐野考造氏、本学保健管理センター長の山本教授、工学部の小林教授、地域科学部生の加藤さん、教育学部生の牧野さん、伊藤さん、石原さんにご登壇いただき、上記テーマについて自身の経験等を踏まえたリレートーク＆フリーディスカッションが行われました。

本記念行事を通じて、岐阜大学のこれまでの歩みを振り返り、未来への新たな一歩を踏み出すことができました。本学は今後も地域との連携強化、国際交流の推進、多様な人材の活用といった取り組みをさらに深め、持続可能な社会の実現に向けて邁進してまいります。そして、地域社会と共に発展し続ける地域の中核大学として、学生、教職員、そして地域の皆様と共にさらなる飛躍を目指していきます。



学長報告の様子



学生表彰の様子

創立75周年記念日行事を開催



渥美氏による講演の様子



リレートーク&ディスカッションの様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/6/6	中日	岐阜大75周年記念で講演や発表 多様な人材で業績↑ ～吉田和弘 学長～

本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんが パリオリンピックの日本代表選手に内定

【概要】

本学大学院教育学研究科を2020年に修了した（現SEIBU PRINCE所属、本学医学系研究科研究生）赤松諒一さんが、2024年7月26日（金）から8月11日（日）に開催される「パリ2024オリンピック競技大会」の男子走高跳日本代表選手に内定しました。

7月9日（火）に、赤松さんと専任コーチである本学教育学部保健体育講座の林陵平准教授が学長室を訪問し、吉田学長へオリンピック出場にかける意気込みを語りました。

赤松さんは「パリオリンピックでの入賞を目指してここまで林准教授と一緒に練習を積み重ね、また多くの方々に支えられてきましたので、まずは大会に出場できることをうれしく思います。予選通過、そして上位入賞を狙って、大会当日は練習の成果を発揮してベストパフォーマンスが出せるようにがんばります」と意気込みを語りました。林准教授は「赤松選手と出会って8年が経ちましたが、ついにオリンピック出場までたどり着くことができました。オリンピックでの入賞という夢を叶えるために、当日のコンディションや助走・跳躍の様子から選手が最大のパフォーマンスを発揮できるよう全力でサポートしていきます」と語りました。

吉田学長は「オリンピックの代表選手に内定されたこと誠におめでとうございます。岐阜大学からオリンピックの代表選手が輩出されたことをとても誇りに思います。赤松さんと林先生がこれまで積み重ねてきた努力や成果を助走の一步一步に込めて、世界の舞台での跳躍を楽しんでください」と激励しました。

また、懇談後には、岐阜大学基金学長特別表彰の贈呈式を実施しました。本制度は、岐阜大学基金を活用して昨年度新たに設けた表彰制度で、本学の名誉を著しく高めたと認められる事由について学長が表彰するものです。この度、赤松さんがオリンピックの代表選手として出場される栄誉を称え、表彰状と活動支援金を贈呈しました。

岐阜大学一同、赤松さんのパリオリンピックでのご活躍を心より応援しています。



記念写真

（左から、大藪副学長、赤松さん、林准教授、吉田学長）

本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんが
パリオリンピックの日本代表選手に内定



懇談の様子



学長特別表彰贈呈の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/7/10	読売	Paris2024 「勇気与える跳躍を」 走り高跳び 赤松選手 岐阜大で抱負 ～医学系研究科研究生 赤松諒一さん、吉田 和弘 学長、林陵平 准教授～
2024/7/10	岐阜	赤松選手「2メートル29超す」 パリ五輪男子走り高跳び 出場 母校の岐阜大で決意 ～医学系研究科研究生 赤松諒 一さん、吉田和弘 学長、林陵平 准教授～
2024/7/10	中日	PARIS2024 岐阜大研究生、走り高跳びで五輪へ 赤松選 手に学長特別表彰 日本人初メダルへ飛躍誓う ～医学系研 究科研究生 赤松諒一さん、吉田和弘 学長、林陵平 准教 授～

森 秀樹 第11代岐阜大学長・名誉教授が 『ボクの歩む道』を出版

【概要】

『ボクの歩む道』

ストレス社会に「読む薬」
腫瘍病理学を専門とし、がん発生のメカニズムや予防などの研究に長年取り組んできた筆者が、独自の視点で描く生き物たちのオムニバスファンタジーです。

【文・挿絵】 森 秀樹（第11代岐阜大学長・名誉教授）

《収録内容》
錦鯉、ホトトギス、カモシカ、雉トラ、イチイの木

出 版 社 : 岐阜新聞社
発行年月日 : 2024年7月11日
価 格 : 1,300円（税込）
版 型 等 : 四六版・80ページ（上製本）
ISBN : 978-4-87797-335-3



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/8/16	岐阜	散歩中に会った動物の生態を紹介 元岐阜大学長 森さんが短編集 ～元岐阜大学長 森秀樹さん～
2025/1/23	岐阜	ストレス社会に「読む薬」 ボクの歩む道 ～森秀樹名誉教授～

令和7年4月に大学院「社会システム経営学院」 (修士課程)を新たに設置

【概要】

令和7年4月1日(火)に岐阜大学大学院「社会システム経営学院」(修士課程)を新たに設置します。

詳しくは、「社会システム経営学院」公式webサイトをご覧ください。

なお、入試は令和6年(2024年)11月30日(土)に実施する予定です。

「ローカルビジネスイノベーションで未来を創造する」ことを目指した当大学院での修学にご関心をお持ちの方は、ぜひ入学をご検討ください。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/8/27	岐阜	岐阜大、大学院を新設 来春「社会システム経営学院」
2024/8/28	中日	岐阜大に経営学ぶ大学院 来年4月設置 授業時間帯、社会人に配慮 ～社会システム経営学院～

パリオリンピックで5位入賞した赤松諒一さん (本学教育学研究科修了) が吉田学長を訪問

【概要】

パリ2024オリンピック陸上男子走高跳びで、88年ぶりに日本選手の最高成績に並ぶ5位入賞を果たした赤松諒一さん（本学大学院教育学研究科修了、現SEIBU PRINCE所属、本学医学系研究科研究生）と林陵平専任コーチ（本学教育学部保健体育講座 准教授）が吉田学長を訪問し、入賞の報告を行いました。

赤松さんは「オリンピックでは歓声を力に変えて、リラックスして競技に臨むことができました。自己ベストの更新も狙っていたので、自己ベストより1cm高い記録に挑むことになり、跳んでやろうという気持ちが沸いてきました。岐阜大学の皆さんにはたくさん応援していただき、感謝しています」と笑顔で話しました。

林准教授は「オリンピック期間中はコーチとして心身両面でのサポートに尽力しました。これまでの研究で得られた知見を超えるようなパフォーマンスを選手が出すことへの驚きもあり、今後の研究発展にも繋げることのできる、非常に貴重な体験ができました」と感想を述べました。

吉田学長は「国立大学出身で、大学の先生がコーチを務め、主に大学で練習されていたことが、このような素晴らしい結果になったことに非常に感動しました。赤松さんには岐阜大学のみんなが夢をもらい、誇りに思っています。これからも、次の世代に繋がる結果が残せるよう応援しています」と栄誉を称えました。

岐阜大学一同、今回の入賞を嬉しく思うとともに、今後もご活躍を応援しています！



5位入賞の賞状を持つての記念写真
(左から大藪副学長、赤松さん、吉田学長、林准教授)



入賞を称える懸垂幕を設置しました

パリオリンピックで5位入賞した赤松諒一さん
(本学教育学研究科修了) が吉田学長を訪問

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/8/8	岐阜	赤松決勝へ 男子走り高跳び 持ち前の修正力で突破 今季自己最高2メートル27に成功 ～医学系研究科研究生 赤松諒一さん～
2024/8/8	中日	陸上 赤松が決勝進出 男子走り高跳び ～医学系研究科研究生 赤松諒一さん～
2024/8/10	読売	男子走り高跳び 予選2メートル27で決勝へ 赤松「楽しんで跳ぶ」 88年ぶりの入賞目指す ～医学系研究科研究生 赤松諒一さん～
2024/8/12	岐阜	跳躍 ひたすら探求 走り高跳び5位 赤松初五輪で成果実践と反省 理想追う ～医学系研究科研究生 赤松諒一さん～
2024/8/12	岐阜	赤松ここぞで自己新 男子走り高跳び 日本勢88年ぶり入賞 2メートル31「今までで一番の跳躍」 ～医学系研究科研究生 赤松諒一さん～
2024/8/12	読売	赤松跳躍 頂見えた 走り高跳び88年ぶり入賞 ～医学系研究科研究生 赤松諒一さん～
2024/8/12	読売	赤松自己新 会心の跳躍 高校の顧問「誇らしい」 ～医学系研究科研究生 赤松諒一さん～
2024/8/13	岐阜	"清流魂！パリで燃えた 戸本「銅」／赤松5位／さくら」3大会ぶり勝利 ～医学系研究科研究生 赤松諒一さん～
2024/8/14	岐阜	選手団帰国、陸上入賞者ら熱戦振り返る 赤松「楽しい大会だった」 ～医学系研究科研究生 赤松諒一さん～
2024/8/30	読売	岐阜大で笑顔の入賞報告 走り幅跳び 赤松選手、コーチと ～医学系研究科研究生 赤松諒一さん、教育学部 林陵平 准教授、吉田和弘 学長～
2024/8/30	岐阜	赤松選手「次の五輪も」 走り幅跳び5位入賞 記録更新に自信 母校・岐阜大で活躍報告 ～医学系研究科研究生 赤松諒一さん、教育学部 林陵平 准教授、吉田和弘 学長～
2024/8/30	中日	5位入賞・赤松選手 岐阜大で喜び報告 パリ五輪走り高跳び ～医学系研究科研究生 赤松諒一さん、吉田和弘 学長～

第2回 岐阜大学ホームカミングデイ2024を開催

【概要】

令和6年11月2日（土）に第2回 岐阜大学ホームカミングデイ2024を開催しました。

ホームカミングデイは、岐阜大学すべてのステークホルダーを対象に、相互の交流・連携を深め、持続可能な相互関係の構築及び相互支援に資する取り組みとして実施したもので、昨年度に続き2回目の開催となります。今回は、より多くの卒業生にご参加いただき、より充実したホームカミングデイにするために、午前は大学全体、午後は各学部でイベントを行いました。

午前の部には、本学講堂およびOKB岐阜大学プラザの2会場合わせて、310名が来場しました。また、YouTube同時配信を130名以上が視聴しました。

最初に吉田学長から大学の動向について報告があり、その後、同窓会連合会会長表彰として、本学工学部の卒業生でホーユー株式会社 代表取締役 社長執行役員の佐々木義広氏を表彰しました。

続いて、佐々木氏による「ヘアカラーで世界中の人々をイキイキ・ワクワク！」と題した特別講演が行われました。講演では、ヘアカラーが心に与える影響や岐阜大学とホーユー株式会社の関係などのお話があり、参加者は身近な話題に高い関心を示していました。

その後、2014年にノーベル物理学賞を受賞した名古屋大学の天野浩教授による「社会を変えるワイドギャップ半導体」と題した特別学術講演が行われました。講演では、現在取り組まれている人材育成や研究内容、ノーベル賞発表の際のユニークなエピソードなど、多様な話題が取り上げられました。会場は時折笑いに包まれるなど、和やかな雰囲気の中で講演が行われました。

各分野で活躍されているお二方の講演に対して、参加者からは貴重なお話に感銘を受けたとの感想が多く寄せられました。

午後の部は、各学部が企画し、学術講演会、研究室見学、パネル展示、懇談会など、多彩な催しが行われました。あいにくの天候にもかかわらず、合計514名の方にご参加いただき、卒業生、在学生、教職員などが交流する場となりました。

岐阜大学校友会は、岐阜大学すべてのステークホルダーとの連携強化を目的に、引き続き活動を継続してまいります。



開会挨拶をする吉田学長



大学の動向を報告する吉田学長

第2回 岐阜大学ホームカミングデイ2024を開催



同窓会連合会会長表彰



同窓会連合会会長表彰



同窓会連合会会長表彰



特別講演をする佐々木義広氏



特別講演をする佐々木義広氏



特別学術講演をする天野浩教授

第2回 岐阜大学ホームカミングデイ2024を開催



特別学術講演をする天野浩教授



司会の大藪副学長



天野教授と吉田学長



懇談会集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/11/20	岐阜	岐阜大との研究「今を変える」 OBのホーユー社長が講演 ～ホームカミングデイ、ホーユー社長 佐々木義弘さん（工 学部卒業生）～

第3回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を開催

【概要】

令和6年12月18日（水）、第3回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を開催しました。このコンテストは、学生や教職員が大学での日常生活やキャンパスライフを通じて感じた「岐阜大学の魅力」を学内外に発信することを目的に開催しています。今回は約70点の素晴らしい作品が集まり、審査の結果、6作品が栄えある受賞を果たしました。

最優秀賞：地域科学部 ニックネーム 颯さん

優秀賞：自然科学技術研究科 壁谷高明さん、グローバル推進機構 松尾憲暁さん

佳作：総務部 井口周子さん、応用生物科学部 ニックネーム TKさん

広報担当副学長賞：教育学部 ニックネーム ちいまこさん

表彰式では、はじめに大藪副学長から「みなさまたくさんのご応募ありがとうございました。作品は大学広報などで活用して、岐阜大学にはすてきなところがたくさんあるという魅力を発信させていただきます」と挨拶があり、表彰者に感謝の気持ちを込めて表彰状と記念品を授与しました。また、受賞者を代表して、最優秀賞を受賞した颯さんは、「台風の日の夕方、水たまりに寝そべりながら撮りました。最優秀賞に選んでいただき本当にうれしいです」と喜びを語りました。

今回の応募作品は大学広報などで活用予定です。本学は今後も、このような取り組みを通じて、学内外に向けて岐阜大学の魅力を発信していきます。



喜びを語る颯さん



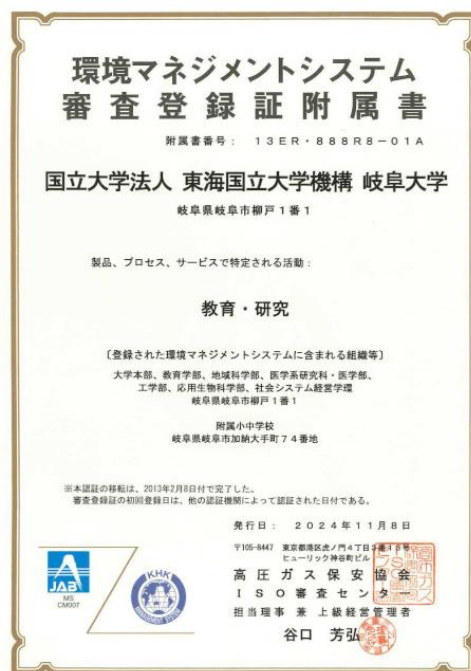
記念写真

ISO14001の認証登録を更新

【概要】

岐阜大学は、環境マネジメントシステム（EMS）の国際規格ISO14001の定期審査を令和6年10月2日・3日に受審し、EMSが有効かつ適切に運用、維持されていると評価いただき、令和6年11月8日付けで登録を更新しました。

今後も、全学で環境マネジメントシステムのさらなる継続的改善に取り組み「環境ユニバーシティ」として、環境パフォーマンスの向上や環境教育・研究の充実を推進していきます。



審査登録証と附属書

大藪副学長が第75回岐阜新聞大賞を受賞

【概要】

令和6年度「第75回岐阜新聞大賞」の学術部門において、本学の大藪千穂副学長が受賞しました。

岐阜新聞大賞は1950年に創設され、県内の学術、教育、文化、産業、社会事業の各分野で大きな功績を残した個人や団体などを毎年たたえるものです。

今年度は他に、農業部門で県農業協同組合中央会代表理事会長の櫻井宏さん、産業部門で鈴木刃物工業代表取締役会長の鈴木良春さんと一丸ファルコス代表取締役社長の安藤芳彦さん、教育文化部門で美濃加茂市民ミュージアム館長の可児光生さんが受賞しました。

5人には、岐阜新聞社の矢島薫社長からクリスタルトロフィーが贈られ、今回で、これまでの総受賞者は561人、4企業、24団体となりました。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/27	岐阜	「第75回岐阜新聞大賞」決まる ～学術部門 大藪千穂副学長～
2024/1/31	岐阜	輝く功績① 第75回岐阜新聞大賞受賞者 消費者教育に長年尽力 ～【学術部門】 大藪千穂副学長～
2025/2/9	岐阜	地域貢献 思い新た 岐阜新聞大賞贈呈式 受賞の5人が喜び ～【学術部門】大藪千穂副学長、選考委員長・吉田和弘学長～
2025/2/9	岐阜	郷土発展に功績 5人に岐阜新聞大賞 ～【学術部門】大藪千穂副学長、選考委員長・吉田和弘学長～

岐阜大学発認定ベンチャー企業、ファイバークレーズ株式会社の 製品がParis Fashion Week Fall-Winter 2025に採用

【概要】

岐阜大学発認定ベンチャー企業であるファイバークレーズ株式会社（代表取締役社長：長曽我部 竣也さん、本学卒業生）が開発した革新的な繊維素材「Craze-tex（クレーズ・テックス）」が、世界的に注目を集めるファッションイベント「Paris Fashion Week Fall-Winter 2025」において採用されました。

ファイバークレーズ株式会社は、岐阜大学の研究技術を基に設立された企業であり、今回の採用は同社にとって初の製品化事例となります。Craze-texは、プラスチックの欠陥現象から着想を得た新素材で、ナノ・クレージング技術を用いて繊維に目に見えない無数の穴を空けることで、防虫、抗菌、消臭などの機能を付与することができます。

ファイバークレーズ株式会社の代表取締役社長、長曽我部 竣也さんは、「Paris Fashion Weekという世界最高峰のステージで、長年培われた大学研究から生まれた素材Craze-texが国際的なファッション業界において認知され、その革新性と大きな可能性が広く伝わる機会となりました。また、"プラスチックの『欠陥』として忌避されてきた現象を、むしろ可能性として捉え直す"という我々の技術思想が、既存の価値観を覆すdoubletの創造性で見事に重なりました」とコメントしています。

岐阜大学としても、本学の研究成果を基に開発された技術が実際の製品として世界の舞台で評価されたことを大変誇りに思います。今後も、産学連携を通じて、革新的な技術の開発と社会への貢献を推進していきます。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/1/29	日刊工業	岐阜大からパリコレに ファイバークレーズ 高機能繊維を供給 ～岐阜大発ベンチャー「ファイバークレーズ」社長 長宗我部峻也社長～
2025/2/6	岐阜	パリの展示会で披露 ファイバークレーズが開発の繊維素材 ブランド「ダブルット」に採用 ～岐阜大発ベンチャー「ファイバークレーズ」社長 長宗我部峻也社長～

赤松諒一選手（本学教育学研究科修了）と スポンサー契約を締結

【概要】

岐阜大学は、パリ2024オリンピック陸上男子走高跳びで、5位に入賞した赤松諒一選手（本学大学院教育学研究科修了、現SEIBU PRINCE所属、本学医学系研究科研究生）とのスポンサー契約を締結しました。この契約により、赤松選手のさらなる活躍を支援してまいります。

赤松選手は、先日チェコで行われた国際大会の「スターズ in ネフヴィズディ 2025」に、岐阜大学のロゴが入ったユニフォームで挑み、2m25の記録で見事に優勝しました。3月10日には、林陵平専任コーチ（本学教育学部保健体育講座 准教授）と共に吉田学長を訪れ、大会の結果報告を行いました。

赤松選手は「2月に行われた国際大会では、岐阜大学に協力いただいたこともあり、良い結果を出すことができました。今後行われる大会でも目標を高く設定し、より良い結果を出すことができるよう頑張ります」と述べ、これに対し吉田学長は「競技以外の面でも、研究活動への尽力や、大学の教育活動への協力など様々な面で努力されている赤松選手は岐阜大学の誇りです、これからもみんなを引っ張ってってくれることを期待します」と話しました。

岐阜大学は、今後も赤松選手の活躍を応援していきます。



優勝メダルを掲げた赤松選手との記念写真
(右から吉田学長、林准教授、大藪副学長)



岐阜大学のロゴが入ったウェアで優勝した
赤松選手

絵画「檸檬の木」寄贈に伴う除幕式を開催

【概要】

令和7年3月25日（火）、岐阜大学図書館において、洋画家の上葛明広さんから寄贈された絵画「檸檬の木」の除幕式を開催しました。

上葛さんは飛騨市神岡町出身で、女子美術大学大学院教授などを務められ、令和5年度には紺綬褒章を受賞されています。今回地元の国立大学である岐阜大学に対して芸術を通じて社会貢献を行いたいという強い思いから、絵画「檸檬の木」を寄贈いただくことになりました。

除幕に先立ち、吉田学長から「学生を育む中心となる学びの場である図書館に、地域出身の画家である上葛先生の絵をいただくことができたのは、これから学ぶ学生の応援となり、また力になると信じています。」と挨拶がありました。

吉田学長の挨拶に続いては、上葛さんと吉田学長により除幕が行われ、参加者に「檸檬の木」が披露されました。

上葛さんからは「岐阜大学の図書館に寄贈することができてうれしく思っており、感謝しています。この絵から何かを感じてもらいたいというのが一番です。熱海湾の風景が気に入って描きましたが、具象的なものではなくいろいろなイメージをコラージュしているので、見る側が『これはなんだろう』と、それぞれの見方をしてもらえればいいと思います。」と挨拶がありました。

今後「檸檬の木」は図書館2階に展示されます。図書館を利用される際は是非ご覧ください、「檸檬の木」の表現や思いを感じ取ってください。



絵画「檸檬の木」

絵画「檸檬の木」寄贈に伴う除幕式を開催



挨拶をする吉田学長



除幕の様子



挨拶をする上葛さん



絵画の前で記念撮影（左から大藪図書館長、
吉田学長、上葛さん、リム副学長）

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/3/31	岐阜	上葛さん、岐阜大に絵画 飛騨市出身の画家「檸檬の木」寄贈 ～吉田和弘学長～

東海国立大学機構



- ・三菱UFJ銀行からの寄附に基づき、新たなスタートアップ支援事業を展開
- ・「東海国立大学機構プラットフォーム（仮称）」を「Common Nexus」に名称決定& 2025年春開業予定
- ・第2回東海地域・国立大学連携プラットフォーム（C-FRONT）学長懇談会を開催
- ・Tokai Open Innovation Complex完成記念式典を開催
- ・第2回カーボンニュートラル共創シンポジウムを開催
- ・令和5事業年度財務諸表を公表
- ・東海国立大学機構 環境報告書2024を公表
- ・ベンチャーキャピタル事業の会社を設立
- ・運営方針会議を設置
- ・東海国立大学機構経営協議会委員を対象とした岐阜大学学内視察を実施
- ・東海国立大学機構が信用格付を更新
- ・量子拠点設立式典を開催
- ・東海国立大学機構の孫会社が1号ファンドを設立し、ファーストクローズ
- ・東海国立大学機構と日本全薬工業株式会社が包括的な産学連携協定を締結
- ・東海国立大学機構 統合報告書2024を発行
- ・東海国立大学機構と富士通（株）がJAXAと「説明可能なAI 技術を活用した月・火星探査に向けた太陽放射線事前予測技術の開発」に関する共同研究を開始
- ・東海国立大学機構、文部科学省と岐阜県、東濃地域との政策懇談会に出席
- ・愛知県医療療育総合センターと連携・協力の推進に関する協定を締結
- ・名古屋大学・岐阜大学糖鎖生命コア研究所が東北大学東北メディカル・メガバンク機構と覚書を締結
- ・国立大学法人で初めて、資金運用におけるOCIOを導入

三菱UFJ銀行からの寄附に基づき、 新たなスタートアップ支援事業を展開

【概要】

当機構では「T-PRACTISS」構想を掲げ、東海地域においてダイナミックに循環する価値創造の流れを創出し、地域社会の活性化実現を一つの目標としています。具体的取組として、研究者と企業との共同研究や起業活動の支援等を行うなど、研究成果の社会実装とスタートアップ育成、支援を強化しているところです。

産学官の連携を深めている中、さらに金融機関を加えた産学官金連携の一環として、このたび株式会社三菱UFJ銀行より、寄附というかたちで当機構の取組（TOIS事業、VC事業）に対する支援をいただきました。

4月10日には共同記者会見を行い、今回の寄附に関する趣旨説明、及び当機構が推進する産学官金連携の取組について発表しました。

今回の三菱UFJ銀行からのご支援を通し、これからも当機構はこの地域の産業の活性化と新産業の創出に貢献して参ります。

TOIS事業の概要

社会と大学との知を通じた社会変革を促すことを目的として2018年に名古屋大学にオープンイノベーション推進室を設置。その事業の一つとして、社会（企業）とアカデミア（大学、機構）との距離を縮め、優れたシーズと研究者が社会課題を共に解決するためのオープン、フラットそしてフェアなサロンの活動であるTOIS事業（TOKAI OPEN-INNOVATION SALON）を実施している。今後、社会実装に向けた試作活動を支援する予定。

VC事業の概要

当機構のスタートアップ支援施策として、アントレプレナーシップ教育、起業準備段階のシード支援などを実施中。これからは、起業後の支援をより加速させるため、スタートアップが拡大・成長するに至る過程の伴走支援、及びリスクマネーの供給が必要と考え、当機構の子会社であるTII（Tokai Innovation Institute）のもとに、新たにベンチャーキャピタル（VC）を設立することとした。



左から、TII・小池代表取締役、松尾機構長、
三菱UFJ銀行・高原取締役副頭取執行役員、同・小野寺常務執行役員

三菱UFJ銀行からの寄附に基づき、新たなスタートアップ支援事業を展開

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/4/11	中部経済	スタートアップ支援へVC設立 東海国立大学機構 三菱UFJ銀の寄附活用 ～東海国立大学機構～
2024/4/11	岐阜	東海国立大学機構の起業・研究支援 三菱UFJ銀、8000万円寄附 ～東海国立大学機構～
2024/4/11	日本経済	東海国立大学機構がVC 50億円規模、超初期段階を支援 大学発の起業促す ～東海国立大学機構～
2024/4/11	毎日	東海国立大学機構 新興企業を支援 三菱UFJ銀が寄附 ～東海国立大学機構～
2024/4/11	中日	東海国立大学機構 新興企業を支援 全国2例目、VC設立で投資へ ～東海国立大学機構～

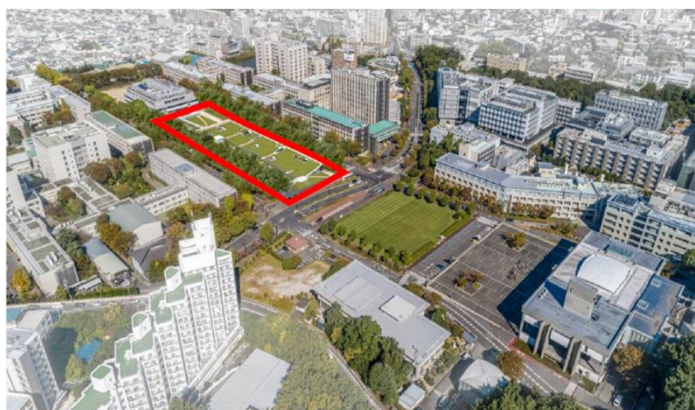
「東海国立大学機構プラットフォーム（仮称）」を 「Common Nexus」に名称決定＆2025年春開業予定

【概要】

東海国立大学機構は、名古屋大学東山キャンパス内に建設中の施設「東海国立大学機構プラットフォーム（仮称）」を、「Common Nexus（コモンネクサス）」に名称決定いたしました。開業は2025年春を予定しております。

本施設は、大学の研究成果や教育資源等を公共財として広く社会の人々に発信することで、イノベーションを継続的に共創し、社会の課題解決を含む社会の発展に寄与する活動を支援します。建物は地下1階・地上1階建て、約7,000m²で、地下鉄名古屋大学駅から名古屋大学中央図書館までのスペースである第二グリーンベルトに位置し、名古屋大学駅から建物内に直接アクセス可能となっています。

共有知（Common）のネットワーク（Nexus）が生まれる場となるよう思いを込めて名付けられ、愛称は「ComoNe（コモネ）」です。それぞれの個性を持った個人や団体が集い、出会いや交流、互いの協力によるつながりから、一つの共通の場を形作ることを目指します。



外観イメージパース（上空から）

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/5/21	中日	名大交流拠点の名称「コモンネクサス」に 建設中、来春開業予定

第2回 東海地域・国立大学連携プラットフォーム (C-FRONT) 学長懇談会を開催

【概要】

2024年1月に立ち上がった東海地域・国立大学連携プラットフォーム(C-FRONT)の第2回学長懇談会が、5月29日(水)に名古屋市内において開催されました。

今回から新たに信州大学が加入することとなり、名称を「東海・信州 国立大学連携プラットフォーム(C²-FRONTS)」と改称。長野、岐阜、静岡、愛知、三重県下の国立大学法人(8国立大学法人9大学)が一体となって、それぞれのリソースを有効活用することで、東海地域及び長野県の持続的な発展に貢献しつつ大学群としての国際競争力を高めることができるよう、様々な課題や社会からの要請に柔軟に対応できるプラットフォームを構築していきます。

当日は、信州大学、静岡大学、浜松医科大学、東海国立大学機構、岐阜大学、名古屋大学、愛知教育大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学の学長、機構長等の他、各県下の高等専門学校から校長等がオブザーバーとして参加し、C²-FRONTSと中経連が主催するカーボンニュートラルに関するシンポジウムや、各大学から提案のあったタスクフォース、ワークショップの開催などについて意見交換を行いました。

今後、各大学が連携して検討を進めるタスクフォースにおいて具体的な活動を開始することや、東海・信州における国立大学の将来構想を検討するため、次代のマネジメントを担う世代を中心とした合宿形式のワークショップについて、2025年3月頃の開催に向け検討を開始することとなりました。

なお、次回の学長懇談会は、2024年秋の開催を予定しています。



C²-FRONTSメンバーによる記念撮影

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/5/30	日経	国立大 将来像議論へ 中部5県連携 幹部候補ら合宿形式 ～「東海・信州 国立大学プラットフォーム (C ² -FRONTS)」～

Tokai Open Innovation Complex完成記念式典を開催

【概要】

東海国立大学機構では、岐阜大学と名古屋大学の各キャンパスに、産学交流、起業活動及び共同研究の3つの特徴的な取組を展開するオープンイノベーション創出拠点の整備を進めてきました。2024年2月に岐阜大学柳戸キャンパス内にオープンしたTokai Open Innovation Complex岐阜サイトに続き、この度、名古屋大学東山キャンパス内にTokai Open Innovation Complex名古屋サイトがオープンし、2024年5月29日に完成記念式典を開催しました。

両大学では、本施設を通じ、産学連携、起業活動、共同研究を支援する各取組を連携して実施することにより、企業やベンチャー、行政など多様なステークホルダーとの新たな出会いを生み出し、イノベーションの創出を実現してまいります。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/ 5 /30	中部経済	イノベーション拠点開設 東海国立大学機構、名大に ～ TOIC 名古屋サイト、松尾清一 東海国立大学機構長～
2024/ 5 /30	岐阜	名大に産学連携拠点 東海国立大学機構 地域経済活性化へ ～TOIC 名古屋サイト、松尾清一 東海国立大学機構長～
2024/ 5 /30	毎日	名大と岐阜大に産学官連携拠点 東海国立大学機構 ～ TOIC 名古屋サイト、松尾清一 東海国立大学機構長～
2024/ 5 /30	日経	名大に産学連携新拠点 東海機構 スタートアップ育成 ～ TOIC 名古屋サイト、松尾清一 東海国立大学機構長～
2024/ 5 /30	日刊工業	TOIC 名古屋サイト、松尾清一 東海国立大学機構長 ～ TOIC 名古屋サイト、松尾清一 東海国立大学機構長～
2024/ 5 /30	中日	巻き起こせイノベーション 名大に新たな拠点「TOIC」が 完成 産学官連携や起業後押し ～TOIC 名古屋サイト、 松尾清一 東海国立大学機構長～

第2回カーボンニュートラル共創シンポジウムを開催

【概要】

東海国立大学機構と岐阜大学、名古屋大学が参加する東海・信州 国立大学連携プラットフォーム（C²-FRONTS）は、一般社団法人中部経済連合会との共同主催により、第2回カーボンニュートラル共創シンポジウム「脱炭素を加速する為に、今何が必要か」を7月9日（火）に名古屋大学ES総合館ESホールで開催しました。

C²-FRONTS参加大学関係者や中経連会員企業関係者らを中心に165名が来場した他、オンラインで300人が参加し、第1部では松尾清一C²-FRONTS代表（東海国立大学機構長）及び水野明久中部経済連合会会長の主催者挨拶の後、みずほフィナンシャルグループ牛窪恭彦執行役グループCSuOによる「脱炭素社会の実現に向けて～ともに挑み、ともに実る～」をテーマに、カーボンニュートラルを取り巻く潮流や中部地域の重要性と企業の取り組み事例、カーボンニュートラルに向けた産学金の取り組み等について基調講演が行われました。

第2部では「C²-FRONTSが提案するカーボンニュートラルへのチャレンジ～技術革新で、新たな連携で～」をテーマに、C²-FRONTS参加大学研究者、東レ株式会社、中部経済産業局の関係者による各パネラーの取り組み事例紹介の後、パネルディスカッションが行われました。

第3部では名古屋大学内に建設されたオープンイノベーションを推進する産学融合拠点「TOIC NAGOYA」の施設見学も行われました。

シンポジウム終了後には会場を豊田講堂アトリウムに移し、ポスターセッション・情報交換会が行われ、研究シーズポスターの前では担当教員と企業関係者による活発な情報交換が行われました。



第2回カーボンニュートラル共創シンポジウムを開催



挨拶する松尾C²-FRONTS代表(東海国立大学機構長)



パネルディスカッションでは活発な意見交換が行われた

【メディア掲載】

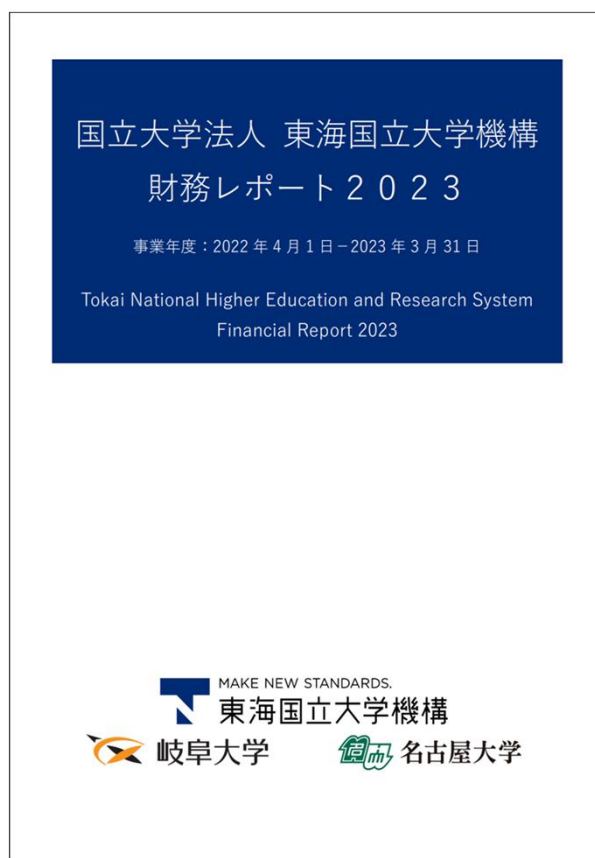
掲載日	新聞社名	内容
2024/7/10	中部経済	CN実現へ第2回シンポ開く 中経連とシー・フロンツ ～東海・信州国立大学連携プラットフォーム「シー・フロンツ」～
2024/7/10	岐阜	中部圏成長へ脱炭素化 中経連が産学連携シンポ ～東海・信州国立大学連携プラットフォーム「シー・フロンツ」～
2024/7/10	中日	国立大連携「C ² -FRONTS」中経連 脱炭素へ一致団結 名大でシンポ 県内の取り組み議論 ～東海・信州国立大学連携プラットフォーム「C ² -FRONTS」、名大未来社会創造東海国立大学機構 則永行庸教授、松尾清一東海国立大学機構長～

令和5事業年度財務諸表を公表

【概要】

東海国立大学機構では、岐阜大学と名古屋大学の財務状態や経営状況を分かりやすく解説し、両大学の運営・活動を財務の観点から広くご理解いただくことを目的として、「財務レポート」を作成しています。

令和6年8月30日（金）、文部科学大臣により承認を受けた2023（令和5）事業年度財務諸表をもとに「財務レポート2023」を発行しましたのでお知らせします。

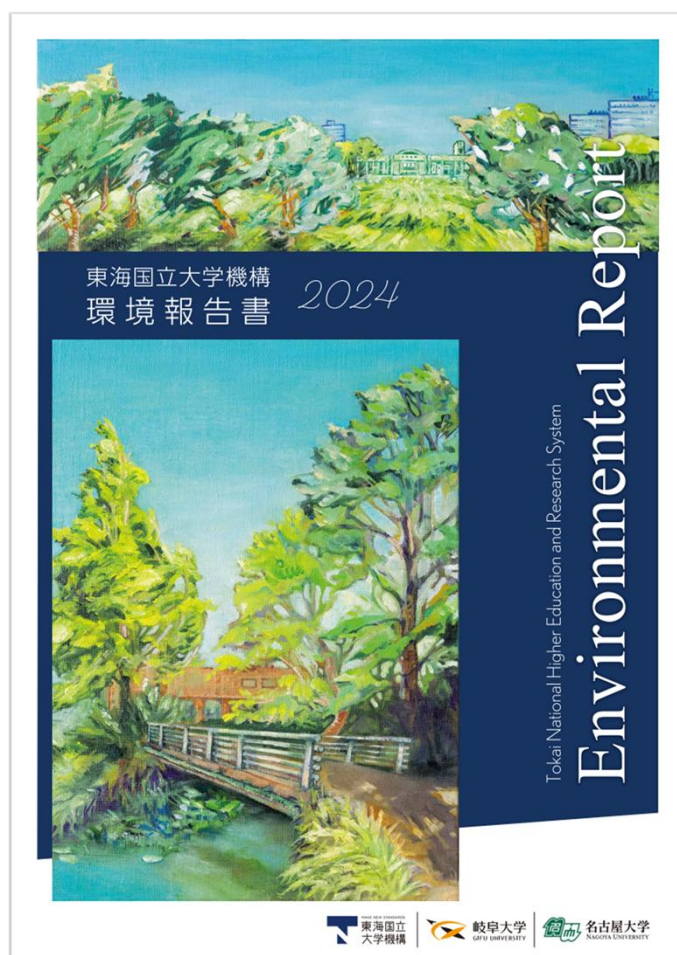


※ 財務レポート2023は下記のURLよりダウンロードできます。
https://www.thers.ac.jp/disclosure/upload/20231204_report.pdf

東海国立大学機構 環境報告書2024を公表

【概要】

東海国立大学機構 環境報告書2024を発行しました。今年度の環境報告書では、東海国立大学機構の防災・減災に向けた取組、岐阜大学と名古屋大学で災害対策を推進する先生方への学生インタビューなどの記事を織り込んだほか、両大学のカーボンニュートラルロードマップ、省エネアクト for ゼロカーボンキャンパスの取組の記事など、カーボンニュートラル達成に向けた姿勢やその具体的な取り組み内容、環境に関する研究教育活動を紹介しています。また、多数の学生が編集委員として参加し、研究室を取材しただけでなく、学生主体で企画したキャンパス生態系マッププロジェクト、両大学の学生の環境意識アンケートの実施結果も掲載しています。



※ 環境報告書2024は下記のURLよりダウンロードできます。
https://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/06other/guideline/image/e_rpt/2024_rpreport.pdf

ベンチャーキャピタル事業の会社を設立

【概要】

東海国立大学機構は、出資子会社である株式会社Tokai Innovation Institute（以下「TII」という。）の傘下に、ベンチャーキャピタル事業の子会社「株式会社Central Japan Innovation Capital」を2024年11月1日付けで設立いたしました。

近年、スタートアップへの支援者として都心部を中心にベンチャーキャピタルが次々と立ち上がり、それに伴い成長資金供給が増加しつつありますが、東海地域においてはまだまだ限定的であり、更なる支援拡大が期待されています。

また、スタートアップが技術シーズや革新的なアイデアを実装するためにはパートナーとなる事業会社や大学等が必要ですが、世界に類を見ない産業集積地である東海地域には、これらの事業会社や大学等が多く存在します。本地域における中核的アカデミアである機構が、スタートアップへの支援をリードすることで、スタートアップ、事業会社とアカデミアの連携を加速させる意義も大きいと考えます。

この度設立した、株式会社Central Japan Innovation Capitalは、これらの期待に応えるため、ディープテック領域のスタートアップやアカデミア・事業会社に眠るシーズの事業化へ出資等の支援を行なうことで、機構が取り組む大学・産業界・地域発展の好循環モデル「T-PRACTISS」の実現に貢献していきます。

株式会社Central Japan Innovation Capitalの概要

商号	株式会社Central Japan Innovation Capital
役員体制	代表取締役：武田 一哉 取締役：松井 常芳（社外取締役） 小幡 哲丈（社外取締役） 監査役：松中 学（社外監査役）
事業内容	ベンチャーキャピタル事業の統括・運営
所在地	愛知県名古屋市千種区不老町1番TOIC名古屋サイト301
資本金	15百万円（資本準備金15百万円） TII100%出資
設立日	2024年11月1日

運営方針会議を設置

【概要】

このたび、知とイノベーションのコモンズとして、地域と人類社会の進歩に貢献し続ける新たな国立大学法人モデルの確立を目指す東海国立大学機構において、法人の大きな経営方針を決議するとともに、決議した内容に基づいて適切に運営が行われているかどうか監督を行うことを目的に、国立大学法人法の規定に基づいて、新たに「運営方針会議」を設置しました。

運営方針会議では、中期目標・中期計画、予算・決算等に関する決定を行います。運営方針委員は、教育、研究、産学連携、国際、社会課題解決・地域創生、スタートアップ、財務戦略・資産活用、大学経営、コンプライアンス・リスクマネジメント等の専門性をバランスよく備えた構成とし、ジェンダー、国籍、所属セクター等の多様性を考慮して選任しました。

■東海国立大学機構運営方針会議構成員 一覧

2024年11月19日現在

内山田 竹志	トヨタ自動車株式会社Executive Fellow
浜田 道代	学校法人トヨタ学園監事、東邦瓦斯株式会社社外取締役等
日比谷 潤子	国際基督教大学名誉教授
宮川 潤一	ソフトバンク株式会社代表取締役 社長執行役員 CEO
村瀬 幸雄	株式会社十六フィナンシャルグループ取締役会長
Kerstin Krieglstein	フライブルク大学学長
吉田 和弘	東海国立大学機構大学総括理事・副機構長、岐阜大学長
杉山 直	東海国立大学機構大学総括理事・副機構長、名古屋大学総長
松尾 清一	東海国立大学機構長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/11/20	岐阜	東海国立大学機構が運営方針会議を設置 委員に十六FG会長ら ～東海国立大学機構～

東海国立大学機構経営協議会委員を対象とした 岐阜大学学内視察を実施

【概要】

令和6年11月22日（金）、東海国立大学機構の経営協議会委員が岐阜大学を訪れ、学内視察を行いました。この視察は、大学の教育・研究活動への理解を深め、より実質的な議論につなげるための機会とするために開催しました。

冒頭では、松尾機構長と吉田学長から挨拶があり、続いて上原教授がアントレプレナーシップ（起業家精神）教育の現状について説明し、大学における起業支援や学外との連携がどのように実践されているかを紹介しました。

その後、3つの学生団体がそれぞれの活動内容を発表しました。

- ・ 起業部：
自ら事業を立ち上げ、地域や社会に新しい価値を提供する取り組みを紹介
- ・ 環境サークルG-amet：
環境保全活動や地域への啓発活動を通じた持続可能な社会に向けた取り組みを紹介
- ・ iGEM GIFU：
世界的な合成生物学の大会への挑戦や先端科学を用いた研究などを紹介

発表後には、委員と意見交換を行い、学生たちは鋭い質問に応えながら活動への思いを熱く語りました。委員からは「若い力と独創性を感じた」「これからの社会を担う学生の可能性に期待したい」との声が上がりました。

次に、岐阜大学が誇る特色ある実習の現場を視察しました。

- ・ スキルラボラトリーでの獣医外科学実習：

獣医外科学実習では、岐阜大学が開発した獣医外科実習用の手術模型を用いて、学生たちが実践的な手術手技を学んでいます。手術模型の開発は、クラウドファンディングを通じた多くの支援者のご協力によって実現し、獣医学教育の向上だけでなく、動物愛護や福祉の観点からも社会的意義が高いものです。委員たちは学生の実習風景を間近で見学し、先進的な教育環境を高く評価しました。

- ・ 岐阜県食品科学研究所での清酒醸造実習：

岐阜県との連携による清酒醸造実習では、学生が清酒醸造の過程を学びながら、実際に清酒の醸造体験を行います。視察中には、学生たちが醸造した清酒の試飲も行われ、委員たちは地域資源を活かした実践的な学びに興味を示しました。また、試飲を通じて学生と意見を交わし、地域文化や伝統の理解を深める場面も見られました。

視察を終えた委員からは「大学の教育と研究の現場を実際に見ることで、これまで以上に大学の取り組みを具体的に理解できた」などの声が寄せられました。今回の視察は、大学の取り組みを学内外に広く共有し、新たな視点を取り入れる貴重な機会となりました。

岐阜大学は、これからも地域社会との連携を深めながら、教育と研究を通じて社会の課題解決に貢献していきます。また、多様なステークホルダーと積極的に対話を重ね、未来を切り拓く実践的な学びの場を創出していきます。

東海国立大学機構経営協議会委員を対象とした
岐阜大学学内視察を実施



挨拶する松尾機構長



挨拶する吉田学長



上原教授による説明



起業部の発表



環境サークルG-ametの発表



iGEM Gifuの発表



獣医外科学実習の様子を視察



清酒を試飲する様子

東海国立大学機構が信用格付を更新

【概要】

本機構では、国際的な競争力向上と地域創生への貢献を両輪とした発展を目指し、経営改革に取り組んでおり、経営状況に対する客観的な評価を得ることによりステークホルダーの皆様に対して経営の透明性を高め、多様な資金調達の手段を確保することを目的として、株式会社格付投資情報センター（R&I）及び株式会社日本格付研究所（JCR）による信用格付を取得しております。

この度、株式会社格付投資情報センター（R&I）及び株式会社日本格付研究所（JCR）から信用格付の更新を受け、昨年度と同格の格付「AA+」（R&I）、「AAA」（JCR）を取得しましたのでお知らせします。

格付機関	格付けの名称	格付	方向性
格付投資情報センター（R & I）	発行体格付	AA+	安定的
日本格付研究所（J C R）	発行体格付	AAA	安定的

量子拠点設立式典を開催

【概要】

12月9日（月）、名古屋大学東山キャンパスにて、東海国立大学機構「量子フロンティア産業創出拠点」（略称 Q-BReD）の設立、名古屋大学「未来社会創造機構 量子化学イノベーション研究所」、岐阜大学「医学部附属量子医学イノベーションリサーチセンター」の設置を記念し、式典と講演からなるシンポジウムを開催しました。

式典にて吉田学長は、本学に新たに設立された「医学部附属量子医学イノベーションリサーチセンター」について、超偏極MRIを用いた疾患応用研究や、ヒト計測に対応した装置開発に取り組んでおり、また大垣市民病院の協力により、「放射線量子医学研究講座」を設置し、画像診断や放射線治療における研究推進などの成果を紹介しました。

シンポジウムでは、量子生命科学や量子・AI融合技術に関する最新の研究成果が発表され、特に、量子科学技術研究開発機構（QST）の馬場嘉信氏による「量子生命科学の最前線と東海国立大学機構・QST拠点間連携」、産業技術総合研究所の村山宣光氏による「量子・AI融合技術ビジネス開発グローバル研究センターの挑戦」といった基調講演が注目を集めました。

本学は今後も量子技術の発展に向けた取り組みがますます加速していくことを期待しています。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/12	中日	岐阜大と名古屋大 量子研究でタッグ 産業創出拠点 設立式典と記念シンポ ～「量子フロンティア産業創出 拠点」～

東海国立大学機構の孫会社が1号ファンドを設立し、ファーストクローズ

【概要】

この度、東海国立大学機構の孫会社である株式会社Central Japan Innovation Capitalが、ディープテック×BtoBをテーマとするスタートアップ企業への出資・事業支援を行う1号ファンド（東海研究開発1号投資事業有限責任組合、以下：「当ファンド」）を組成し、ファンド総額33億円でファーストクローズいたしました。

ファーストクローズでは、愛知県、名古屋市、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社愛知銀行をアンカーLP(有限責任組合員：出資者)とし、朝日インテック株式会社、株式会社大垣共立銀行、岡谷鋼機株式会社、東海東京インベストメント株式会社、豊橋信用金庫、株式会社名古屋銀行、西川コミュニケーションズ株式会社、碧海信用金庫、株式会社八神製作所（五十音順）にLPとして参画いただきました。東海地域のスタートアップエコシステム創出に向けた強い期待とご支援を受けての出発となります。ファンド全体の運用総額50～100億円を目指し、運用と並行して、当ファンドのファイナルクローズに向けファンドレイズを継続いたします。

今後、当ファンドを通じ、ディープテック領域のスタートアップやアカデミア・事業会社に眠るシーズの事業化へ出資等の支援を行なうことで、機構が取り組む大学・産業界・地域発展の好循環モデル「T-PRACTISS」の実現に貢献していきます。

■ ファンドの概要

名称	東海研究開発1号投資事業有限責任組合 (英語名：Central Japan Innovative Research Fund I,LPS)
想定ファンド規模	50～100億円
投資対象	国内外のシード・アーリーステージを中心としたディープテックスタートアップ
無限責任組合員	株式会社Central Japan Innovation Capital
運用期間	2024年11月30日より10年間（最大5年の延長あり）

■ 投資方針

ディープテック（情報技術、モビリティ、AI・ロボティクス、材料・半導体、ライフサイエンス、モノづくり（生産工学等）、アグリ等）領域において、テクノロジーによる社会課題解決を目指すスタートアップ企業への投資と事業支援を行います。大学発スタートアップを中心に、国内外の有望なシード・アーリーステージを中心としたスタートアップが投資対象です。必ずしも東海地域発のスタートアップである必要はなく、「東海地域に大きなインパクトを与えうる」かを判断材料の1つとします。



東海国立大学機構と日本全薬工業株式会社が 包括的な産学連携協定を締結

【概要】

2025年1月9日、東海国立大学機構と日本全薬工業株式会社は、岐阜大学と名古屋大学が連携して活動するOne Medicine 創薬シーズ開発・育成研究教育拠点

(COMIT) と同社がOne Medicine (ヒトと動物の疾病は共通という捉え方) による創薬・先端医療研究の革新およびSharing Medicine (人獣共通医療学) の実現を加速させるため、包括連携協定を締結しました。

この協定は、包括的な連携により双方の高度な研究成果、最先端情報、国内外のネットワークを相互に活用し、社会実装に向けた取り組みを進めることを目的としています。

協定締結式には、日本全薬工業株式会社の福井寿一社長、東海国立大学機構の松尾清一機構長、吉田和弘岐阜大学学長、杉山直名古屋大学総長らが出席し、福井社長からは「日本から世界へという視点で、グローバル市場へはばたく製品を誕生させることを目標に、今後の連携発展に大きく期待し、活動に力を入れていく」と挨拶があり、松尾機構長は、「今回の協定は、COMITが我が国を代表し、世界と伍する成果を挙げる拠点として発展していくうえで、大きなドライビングフォースとなる」と述べました。また、吉田学長は、「医学と獣医学をOne Medicineの視座のもと融合し、Sharing Medicineという新たな学術領域確立を目指す」と意気込みを語り、杉山総長は、「包括協定の中で日本全薬工業様とCOMITの求める共通のゴールを見出すことを共同研究の起点とし、互いの強みを生かしながら社会実装を加速させることが期待される」と述べました。

今回の包括連携協定により、COMITと日本全薬工業株式会社は、ヒトと伴侶動物のWell-being社会の実現に向けて、さらなる研究と協力を進めていく予定です。



関係者による集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/1/10	岐阜	人獣共通医療学開拓へ 東海国立大学機構、日本全薬工業と協定 疾病予防、創薬研究で連携 ～「One Medicine 創薬シーズ開発・育成拠点（COMIT）」～
2025/1/10	日本経済	ヒトと動物共通疾患研究 東海国立大学機構など創薬 ～「One Medicine 創薬シーズ開発・育成拠点（COMIT）」～
2025/1/10	中日	動物と共通の病気 新薬を 東海国立大学機構と日本全薬工業 包括協定 ～「One Medicine 創薬シーズ開発・育成拠点（COMIT）」～
2025/1/10	日刊工業	医学・獣医学で産学連携協定 東海国立大学機構と日本全薬工業 ～「One Medicine 創薬シーズ開発・育成拠点（COMIT）」～
2025/1/12	中日	人と動物共通の病気に新薬を 東海国立大学機構 日本全薬工業と協定 ～「One Medicine 創薬シーズ開発・育成拠点（COMIT）」～

東海国立大学機構 統合報告書2024を発行

【概要】

名古屋大学と岐阜大学を運営する国立大学法人東海国立大学機構（以下「東海機構」という。）は、2021年度に初めて統合報告書を発行し、この度、4冊目となる統合報告書2024を発行しました。

本報告書は、東海機構を取り巻く経営上のリスクや機会、グローバル社会や地域社会が直面する社会課題を経営上の重要課題と捉え、その解決に向けた取り組みを経営戦略と体系的に結びつけることにより、東海機構の現在の価値と将来に向けた価値創造をストーリーとして開示するものです。

また、「国立大学法人」の枠を超えて、一般投資家の方とのコミュニケーションを深めるために、「国際統合報告フレームワーク（IIRC）」に準拠して作成しています。

本報告書が、東海機構が目指す価値創造について、あらゆるステークホルダーの皆様にご理解いただくための一助となれば幸いです。

「統合報告書2024」の主な内容

- ・東海機構のミッション、ビジョン、バリュー
- ・東海国立大学機構長メッセージ
- ・トップ鼎談（東海国立大学機構長×名古屋大学総長×岐阜大学長）
- ・特集（新たな合議制機関「運営方針会議」発足）
- ・戦略と課題
- ・価値創造ストーリー（T-PRACTISS、事業戦略、CFOメッセージ）
- ・価値創造の基盤（ガバナンス、環境関連情報、社会関連情報）
- ・財務データ など



東海国立大学機構と富士通（株）がJAXAと 「説明可能なAI 技術を活用した月・火星探査に向けた太陽放射線 事前予測技術の開発」に関する共同研究を開始

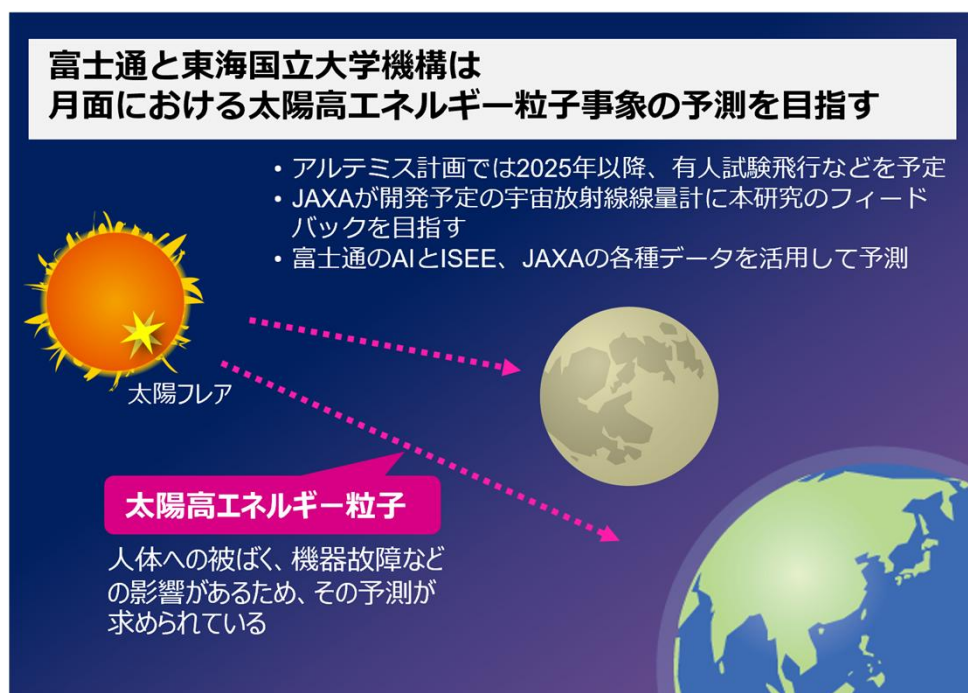
【概要】

富士通株式会社と、岐阜大学と名古屋大学を運営する国立大学法人東海国立大学機構は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）と、「説明可能なAI技術を活用した月・火星探査に向けた太陽放射線事前予測技術の開発」に関する共同研究を2025年2月1日から2026年3月31日まで実施します。富士通と東海国立大学機構は、2023年2月24日に締結した包括協定のもと、富士通と名古屋大学宇宙地球環境研究所（ISEE）と共同で、宇宙天気予報の高度化に関する研究を推進しています。このたび、JAXAが創設した宇宙探査イノベーションハブが推進する研究制度「Moon to Mars Innovation」に本研究が採択されました。

本研究では、富士通の説明可能なAI「Fujitsu Kozuchi XAI」、ISEEが保有するシミュレーションデータ、JAXAが保有する月面に関するデータを活用することで、月面における太陽高エネルギー粒子事象の予測を目指します。太陽高エネルギー粒子は、太陽フレアなどの発生に伴い突発的に形成され宇宙空間を伝搬する宇宙放射線の一種です。月面や地球周辺の宇宙空間において直接被ばくすると致死線量に達する場合もあるため、太陽高エネルギー粒子の発生とその量の予測が求められています。

本研究は国際月面探査プログラムであるアルテミス計画を見据え、JAXAが開発予定の宇宙放射線線量計のデータ解析仕様にフィードバックするなど、月面での観測や予測研究の加速を目指します。

今後両者は、月探査などあらゆる宇宙活動における安全確保の実現に向けて、太陽高エネルギー粒子事象における予測技術の確立を目指します。さらに、JAXAや関連機関と連携し、健康管理、宇宙輸送・要員計画立案、緊急放射線速報など本研究の社会実装を目指し、宇宙空間での安全な活動に貢献します。



東海国立大学機構、文部科学省と岐阜県、 東濃地域との政策懇談会に出席

【概要】

2月7日、東海国立大学機構の松尾機構長と岐阜大学の吉田学長が、文部科学省と岐阜県、東濃地域との政策懇談会に出席しました。この懇談会は衆議院第二議員会館で開催され、地域の発展と産学連携の強化をテーマに議論が行われました。

懇談会には、古屋圭司衆議院議員をはじめ、文部科学省の伊藤学司高等教育局長、東濃5市の市長、商工会議所会頭、岐阜県議会議員など、多くの関係者が出席しました。

懇談会では、東海国立大学機構および岐阜大学の将来構想や地方創生の取り組み状況について説明され、松尾機構長は、地域の発展のためにできることをしっかりと行う意志を表明し、吉田学長は岐阜大学が地域に貢献する大学を目指していることを強調しました。

懇談会の最後には、東濃5市長が署名した「協議会設立提案書」が東海国立大学機構に手交され、地域と大学の連携強化に向けた新たな一歩が踏み出されました。

この懇談会を通じて、東海国立大学機構と岐阜大学は、地域の発展と産学連携の推進に向けた具体的な取り組みを進めていくことを改めて確認し、今後も地域と大学が一体となった持続可能な発展を目指していきます。



協議会設立提案書の手交の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/2/8	岐阜	東濃に研究拠点を 5市や東海国立大学機構など 協議 会設立で合意 ～東海国立大学機構～
2025/2/8	中日	東海国立大学機構に協議会設立を提案 東濃5市 ～東 海国立大学機構～

愛知県医療療育総合センターと 連携・協力の推進に関する協定を締結

【概要】

本機構は、2025年2月25日に愛知県公館において愛知県と「愛知県医療療育総合センターとの連携・協力の推進に関する協定」を締結しました。

協定書の調印式には、愛知県から大村知事、加藤福祉局長、石黒愛知県医療療育総合センター総長、中山同センター発達障害研究所長、坂元同センター発達障害研究所障害システム研究部長、本機構からは松尾機構長、吉田岐阜大学学長、杉山名古屋大学総長、門松理事・糖鎖生命コア研究所長、岡島同研究所教授が出席しました。

本協定により、愛知県医療療育総合センターが採取した患者血液を名古屋大学・岐阜大学糖鎖生命コア研究所において糖鎖解析し、その解析結果とセンターがこれまで蓄積した多くの臨床情報とを合わせ、共同で研究することで、いまだ有効な治療法や診断方法が確立されていない希少疾患・未診断疾患のメカニズムを解明し、診断・治療方法の開発につながることを期待されます。



名古屋大学・岐阜大学糖鎖生命コア研究所が 東北大学東北メディカル・メガバンク機構と覚書を締結

【概要】

名古屋大学と岐阜大学が共同して設置する糖鎖生命コア研究所（iGCORE）は、東北大学東北メディカル・メガバンク機構（ToMMo）と研究協力し、ヒューマングライコームプロジェクト（HGA）及び東北メディカル・メガバンク計画の推進を図り、生命現象の理解とヒトの健康・医療の向上に貢献することを目的として、包括的な連携に関する覚書を締結しました。

2月28日には文部科学省記者会見室で覚書の締結式を行い、門松健治iGCORE所長と山本雅之ToMMo機構長が記者会見を行いました。

iGCOREは、自然科学研究機構及び創価大学とともに、2023年4月から生命科学領域において初の文部科学省「大規模学術フロンティア促進事業」として、HGAを始動させました。糖鎖は、ゲノムやタンパク質と並び、生物の生命活動に欠かせない「第3の生命鎖」とされています。しかし、その構造の複雑さや取り扱いの難しさから、系統だった解析が難しく、従来は研究者が個別に研究を進めてきたのが現状です。HGAでは、上記研究拠点が互いに連携し、日本の総力を挙げて糖鎖情報を世界に先駆けて網羅的に読み解くことを目指しています。

ToMMoは、岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構とともに、東北メディカル・メガバンク計画を推進しています。本計画は宮城県、岩手県で合計15万人の参加者に対して、各種生体試料の収集、詳細な検査、アンケート調査等を継続的に実施しており、さらに生体試料からゲノムやオミックスの解析を実施しています。これらの試料・情報をバイオバンクとして整備し、多くの研究者が利活用可能な「セントラルドグマ」を横断した研究基盤を構築しています。

今回の覚書締結により、iGCOREとToMMoとが連携し、ToMMoによって理論的かつ豊富に収集された生体試料の糖鎖解析をHGAの参画機関が行うことで、三大生命鎖であるゲノム・タンパク質・糖鎖を同じ土台に載せて解析します。これにより生命の包括的な理解が進み、これまで以上に未来型予防・医療につながる研究成果の創出が期待されます。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/3/1	岐阜	岐阜大・名大研究所と東北大 糖鎖解析で連携協定 ～「糖鎖生命コア研究所」～
2025/3/3	中日	老化、病気に絡む「糖鎖」ともに研究 東海国立大学機構 県や東北大とそれぞれ連携 血液解析やデータなど共同で ～「糖鎖生命コア研究所」～

国立大学法人で初めて、資金運用におけるOCIOを導入

【概要】

本機構は、国立大学法人で初めて資金運用におけるOCIO（アウトソーシング・チーフ・インベストメント・オフィサー）を導入します。

OCIOとは、資金運用の方針や計画の策定、運用の執行、事務手続などを外部の専門家（コンサルティング会社、運用会社など）に包括的に委託するサービスです。近年、米国を中心とした海外諸国で年金、大学基金、財団などにおいて導入が進んでおり、日本国内でも2024年8月28日に内閣官房が策定した「アセットオーナープリンシプル」の中で、活用の検討が推奨されているところです。

本機構においては財務経営基盤強化の一環として、資金運用における目標利回りの引き上げを計画しています。資金運用体制強化のためには、CIO（チーフ・インベストメント・オフィサー）を採用することが一般的ですが、当機構が資金運用に求めるガバナンス体制などを考慮した結果、OCIOの方がより適していると判断しました。国立大学法人におけるOCIOの導入は前例がなく、当機構が初めての事例となります。

委託契約が開始される2025年4月以降は、OCIOを最大限活用しながら資金運用の高度化を進め、財務経営基盤の強化を進めてまいります。

なお、OCIOの選定にあたっては、公募により広く提案を募り、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社と契約することとしました。